MIMIHARA 70th

「住んでよかった」と思える
まちづくりを

社会医療法人同仁会 理事長　田端 志郎

「住んでよかった」と思えるまちづくりを

この度「耳原実費診療所創立70周年記念誌　MIMIHARA70th『住んでよかった』と思えるまちづくりを」を発刊する運びとなりました。これまで長きにわたって私たちを支えて頂いた、健康友の会みみはらの皆さま、地域の諸団体および住民の皆さま、堺市医師会をはじめ各医療機関、介護事業所の皆さまに、心から感謝申し上げます。一口に70年と言いますが、ここに至るまでには諸先輩方の並々ならぬ努力の積み重ねがあっての事と、改めてこれまで同仁会とみみはらグループの事業を担って頂いた役職員の皆さまにも、感謝申し上げます。

同仁会は「一視同仁=無差別・平等」を理念とする組織です。その時代、時代の人々が、この理念に共感し次世代へまた次世代へと、無差別・平等の事業と運動のバトンを手渡し続けてくれた結果、今の私たちの発展があります。一視同仁の理念を、これからも大切に守り抜いて行きたいと思います。

また私たちは約20年前に、「同仁会前倒産」と「セラチア菌院内感染」と言う、組織の存続に関わる大きな危機を同時に経験しました。現在の法人幹部はこれを乗り越えてきた最後の世代にあたります。同仁会の歴史から消える事がないこれらの危機から得られた教訓と、なぜそこから組織を発展し得たのかを後世に伝え続ける必要があります。

70周年記念事業は、2020年1月から始まった新型コロナウイルス感染症の蔓延のために、大幅な変更を余儀なくされました。ですが私たちの理念を胸に、この感染症災害に真っ向から立ち向かった経験は同仁会の強みを再認識させ、同時に弱点を克服する機会にもなりました。70周年の節目に相応しい、力強い事業活動と運動を行うことができたと満足しています。

歴史の節目に際しては、過去を振り返って教訓を導き出すだけではなく新たな時代への飛躍も得なければなりません。これからの医療・介護・福祉事業は、患者さん、利用者さんを対象にするだけではなく、地域の健康拠点やコミュニティセンターとして力を発揮していくことが求められるでしょう。無差別・平等の理念を持ち「安心して住み続けられるまちづくり」を目指す同仁会とみみはらグループの事業は、これからの時代にマッチしたものと言えます。これからも「みみはらブランド」を大いに磨き、地域に広げ発展させていくことが期待されます。

この「MIMIHARA70th」が、同仁会とみみはらグループのこれからの10年を作り上げていくための道しるべになることを祈念して、巻頭言とさせていただきます。

message

――地域とともに70年――

耳原実費診療所 創立70周年に寄せて

1950年、戦後復興の中で堺の地に耳原実費診療所が創立され、70年の歳月に至ったことをお祝いします。

全国各地で生まれた民主的医療機関が、1953年に全日本民医連という全国組織になるわけですが、その全日本民医連が2019年に発行した『学習ブックレット 民医連の綱領と歴史』に、同仁会・耳原総合病院が二度登場します。一つは1997年からの前倒産、もう一つは2000年のセラチア菌院内感染事件です。どちらも痛苦の経験を共有し、教訓を導き出し、経営再建、安全文化の確立と、同仁会のみならず全日本民医連の、さらには医療界全体へも寄与することになりました。

医師養成においても屋根瓦方式の指導体制を敷き総合病棟での医師研修を大阪民医連全体の協力も得ながら確立し、現在では大阪でも屈指の臨床研修病院となっています。

同仁会の理念である「一視同仁」は、だれかれの差別なく、すべての人を平等に見て一様に愛することを意味しますが、その理念のもと今日に至るまで、地域との信頼を強めてきたことをうれしく思います。地域住民のいのちと健康を守る、いのちの差別を許さない職員を数多く輩出してきた歴史を、これからも揺るがず発展させていくことを期待しています。

大阪民主医療機関連合会 会長 **大島 民旗**

地域医療連携をともに ――これまでもこれからも

耳原実費診療所創立70周年に際し、心よりお祝い申し上げます。また平素より堺市医師会の活動にご理解とご協力をいただきまして、併せて感謝を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症では世界中が混乱しています。堺市も同様ですが、他の病院と同様に耳原総合病院にも非常なご尽力をいただいているところです。そのおかげをもって、堺市内の医療機関の連携による対応は、効果的に働いています。第4波では大阪府内全体が医療崩壊といってもよい状態となりましたが、堺市でも同様でした。その反省のもとに、堺市内の病院長に集まっていただく病院長会議を開いて、対応を協議しました。そのかいあって、第5波では余裕をもって対応することが出来ました。この文章を書いている時点では第6波は生じていませんが、さらなる堺市内の医療機関の連携で乗り切っていきたいと考えています。耳原総合病院におかれましては、さらなるご尽力を、無理をいいますがよろしくお願いいたします。

さて、私が理事の時には長らく病診連携担当でありました。そこで複数の病診連携クリニカルパスを作成しました。それぞれのパスを作成する委員会のうち、一番問題になったのは緩和ケアパスでした。がんに対する緩和ケアパスの作成が国の医療計画の中に入っていたのですが、当時の日本のクリニカルパス学会でもひな型となるパスはありませんでした。ですから手探りの作成となりましたが、それぞれの病院の緩和ケア病棟の運営が優先されて、パス作成委員会では議論になるどころか出発点自体が違っていました。その際に非常にご助力いただいたのが、前院長である奥村伸二先生でした。改めまして御礼申し上げます。本当にありがとうございました。また他の病院から受け入れを拒否された、社会的に問題のある私のがん末期患者に対して、平林邦昭先生が二つ返事で引き受けていただきました。ご本人とご家族の喜びようは、今でも記憶しています。

今後も耳原総合病院と堺市医師会は、堺市民のために共に歩んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

一般社団法人堺市医師会 会長
西川クリニック 院長 **西川 正治**

宝物が来たように

耳原さんとはけっこう古いつきあいです。大阪市立大学医学部で、ひとつ下に田端志郎先生（現理事長）がおられました。松本久先生（元病院長）は、わたしが入学したとき5年で新入生の歓迎などいろいろ活動しておられました。田端先生は、5､6年合同CPCで熱心に質問していたのでお顔は知っていました。耳原で働いていると聞いて驚いた思い出があります。

忘れられない患者さんがいらっしゃいます。知的障害があり、健診でひっかかり来院されました。耳原病院さんで検査もしてもらったと思いますが、がん転移で最後は耳原の緩和ケア病棟で永眠されています。精神遅滞、ダウン症、意思疎通も難しい、身寄りもない、経済的に恵まれない、そういう患者さんをきちんと最後まで診てくださった。とかくやっかい払いされがちなひとを、なんだか宝物が来たように扱ってくれる。なかなかできることではありません。ありがたいのひとことでした。

この患者さんを通じて、耳原の理念に触れた思いがいたしました。「人間みな平等」であるというこの崇高な理念を、どうぞいつまでも持ち続けていただきたいと切に願います。

一般社団法人堺市医師会 理事
たちばな内科クリニック 院長 **橘 克英**

どれほどの患者が

子どものころ母親に手を引かれて内職小屋のような診療所にかかったのがみみはらとの出会いです。近所で病人が出ると「みみはらに連れていけ」「金? どないでもなる、はよいけ」と長屋のみんなが言っていました。医者にかかる=金がかかる、保険制度も整っていない時代です。子ども心に「なんとかしてくれる」ところだと感じていました。

父親が世話好きなひとでした。病人がいるとみみはらに連れていって、役所で手続きしたり奔走する姿を見て、自然とわたしも自分の住んでいるところをよくしたい、役に立てばとボランティアみたいなことをやらせてもらって50年になります。総合病院の増改築のたび、仲立ちのようなことを何度かさせてもらい、困難があるたびに、ひっくり返して盛り返してきたのもそばで見てきました。

新病院の完成時、これからこの病院でどれだけのひとが救われるかと思うと、泣けてきました。「かかりつけ」というが、わたしにとってはそれ以上身内みたいのもの。先生方には命を預けられる頼りがいのある医者になってほしい。そして経営や制度の厳しさもあるけれど、中身は温情のある心をいつまでも忘れないでほしいと願います。

堺市自治連合協議会 副会長
湊西校区自治連合会 会長 **久保 照男**

生命を守る砦

耳原病院の前身は、1950年2月に東本通り3丁の民家の二階を借り「耳原実費診療所」の看板をかかげて開設された診療所です。私は、先輩から「昔は、病院というと死亡診断書を書いてもらうときしか利用できなかった」という話を聞いたことがあります。差別によって、経済的に苦しいことから病院にかかる余裕がなかったからだそうです。

現在では、自治会活動や福祉活動など様々な活動で貢献いただいており、私たち地域住民にとってもなくてはならない医療機関となっています。一番格差があってはいけないのが医療だと思います。そのような状況のなかで、救急医療体制をはじめとして、24時間365日無差別・平等の医療を理念とし経営に尽力されていることに対して、敬意を表したいと思います。

耳原病院より地域医療機関として施設の拡張改善をしたいので自治会として協力をして頂きたいとの要望があり、数度、計画を伺う機会がありました。2008年ころ新病院の建設に向け、地域住民や地元各種団体の皆さん、周辺町会の皆さんのご賛同も得られるよう取り組んできました。

私は、医療を福祉と人権の視点で考えています。人権を守るということは、人間個々人の尊厳としての命を守るということです。

院長さんをはじめ医師や看護師さんの努力、最新の医療機器の導入や救急医療などの評判を聞いてやってくる人が増えています。近隣に耳原病院があればどれだけ心強いかと感じています。

大仙西校区自治連合会 会長 **鴻上 征一**

友の会とともに――新たな歴史を

耳原実費診療所創立70周年おめでとうございます。

1950年耳原実費診療所が設立されてから、34年後1984年11月1402世帯の会員を擁してみみはら友の会（現在、健康友の会みみはら）を立ち上げました。今では約4万世帯26支部と大きな友の会へと発展し、多種多様の地域活動を進める中で、「ともの家」も増え多くの会員さんの集える場となっています。

長い歴史のうちにいろんな事件がありました。前倒産の危機、セラチア菌事件、それらを乗り切り、念願の新病院の建て替えも無事終わり多くの患者さんに喜ばれています。

友の会では、元気で長生き、だれもが安心して住み続けられるまちづくりを目指して活動を進めてきました。コロナ禍でそんな生活がおびやかされています。今こそ友の会の本領発揮、みんなで知恵を出し合いこの難局を乗りきらなくてはいけません。

民医連みみはらの80周年に向けて新たな歴史が始まります。老人ホームの開設、診療所の建て替えなど課題がたくさんあります。友の会も地域の皆さんの要求にこたえられる素晴らしい病院を目指して同仁会と共に頑張りたいと思います。そして笑顔で祝える80周年を迎えたいものです。

健康友の会みみはら 会長 **江戸 道子**

Contents

3　巻頭言　社会医療法人同仁会 理事長　田端 志郎

4　message ――地域とともに70年――

大阪民主医療機関連合会 会長　大島 民旗

一般社団法人堺市医師会 会長･西川クリニック 院長　西川 正治

一般社団法人堺市医師会 理事･たちばな内科クリニック 院長　橘 克英

堺市自治連合協議会 副会長･湊西校区自治連合会 会長　久保 照男

大仙西校区自治連合会 会長　鴻上 征一

健康友の会みみはら 会長　江戸 道子

Ⅰ. 10年の軌跡

12　2015 さよなら旧病院

14　Grand Open

18　サポートセンター

臓器別センター

20　品質管理部の発足

「POWER of OUR ART ――ホスピタルアートの可能性」

22　新型コロナウイルス COVID-19対応

ともに前進する仲間たち

31　健康友の会みみはら

32　みみはらグループ運営協議会

33　特定非営利活動法人 結いの会ともうず

34　一般社団法人 泉州メディカ

35　泉州看護専門学校

36　診療所トピックス

38　社会福祉法人 ひまわり会

みみはら在宅クリニック

40　介護老人保健施設みみはら

介護事業部

訪問看護ステーション

42　同仁会の医師養成

Ⅱ. 温故知新

44　みみはらの医療介護安全大会

46　みみはらの持続可能性

48　みみはらの災害支援

50　みみはらの人づくり

52　みみはらの命を守る活動

54　みみはらな出会い

56　みみはらとわたし

Ⅲ. 10年後のわたしへ

59　未来の仲間たちへ

未来へつなぐ確かなバトン

60　Beyond 2030

64　アンケート結果「2030年にありたい姿」

Ⅳ. 持続可能なまちへ

68　安心して住み続けられるまちづくり

70　10年後の耳原総合病院を展望して

72　大阪でいちばん安心して子育てできるまちのために

73　健康なまちづくりは、友の会とともに

74　同仁会ステートメント

Ⅴ. 巻末資料

77　社会医療法人同仁会 歴代役員

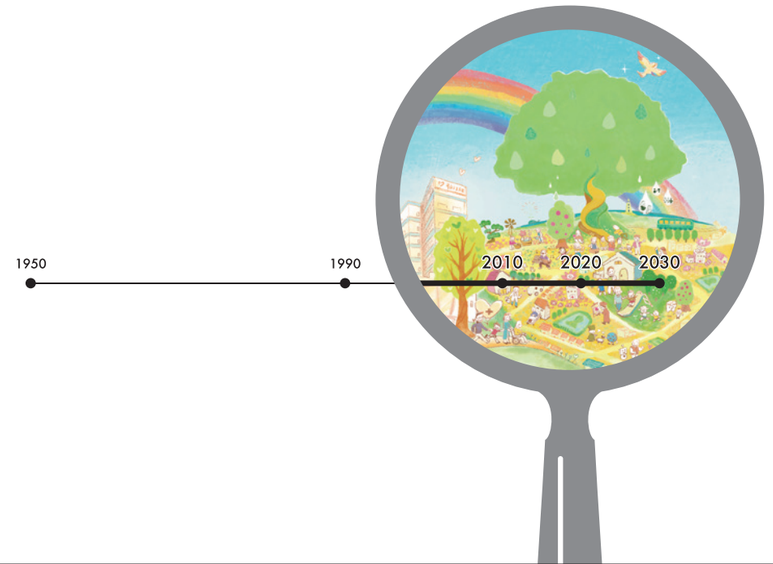
78　実績グラフ

82　年表

106　事業所一覧

108　用語集

109　民医連綱領



I. 10年の軌跡

CONCEPT

①みみはらグループとまちづくり、地域包括ケアを意識
②激動の10年を振り返り、これからの10年を展望する
③次世代も興味を持つ誌面構成（イラスト・全誌面カラー、写真、参加型Beyond2030など未来への展望、社会の出来事と対比した年表、QRコードなど）
④記録としての側面（グラフデータなど数字で見る移り変わり、理事長・専務・病院長の変遷、COVID19対応など）
⑤5部構成（Ⅰ.10年の軌跡、Ⅱ.温故知新、Ⅲ.10年後の私へ、Ⅳ.持続可能なまちへ、Ⅴ.巻末資料　年表）

—2015

さようなら旧病院

2015年4月2日

別館 Sub building		新館 New building	本館 Main building	
			6F	Kanribumon
		Naika	5F	Sanfujinka
		Kai-Reha	4F	Naika
3F	Kanwa-care	Syujutsu	3F	Geka-Hinyou-Seikei
2F	Syonika	Junkan-ICU-Shingai	2F	Sougounaika
1F	Reha・Gairai	Hinyoukigairai・Kensa	1F	Gairai・yakkyoku
B1	Ikyoku・Syokudo	Syokuyou・Eiyouka	B1	Kaigishitsu

memorial Photo slide show

今日まで長い間ありがとうございました
どんなときも病院はいっしょにいてくれました
職員はみんないつも、夜遅くまで病院にいました
休みの日も来てました
みんな病院とくっついてました

ここに何人の患者さん、ご家族がお見えになったんでしょう
何人の新しい生命が誕生し
またお年を召しご病気で天国へ旅立たれたんでしょう

深い愛情で、私たちは伸び伸びと育ててもらいました
一緒に年を取っていくけど私たちの心は
いつでもここに入ったころのままです

あなたが生まれる時は難産だったと聞いています
みんなが作ってくれた病院でした
あなた自身がしんどくなった時もありました
私たちだけではどうしようもなく周りのひとたち
日本中の仲間に応援を頼みました
みんなそれに応えて援助してくれました

失敗した時
へこんだ時は優しく慰めてくれました
優しい母でした
勝手な行動、わがまま言うと叱られました
厳しい父でした

新しい建物になりますが
これからもあなたに育てられた私たち職員の
気持ちに変わりはありません
あなたに育てられてよかった
ここで働いていてよかった
あなたは私の、私たちの自慢です

いままでお世話になりどおしで
これからは職員みんなが恩返しができるように
努力します
時には悩み
時には「何とかなるさ」精神で
明るい同仁会みみはらを作っていきます

私たちに教えてくれた「人への思いやり」を忘れません
そしていつでも分け隔てなく病人を看て
弱った人に寄り添います
世に中で取り残された人に手を差し伸べます
一緒に世の中をよくします

これからもあなたのいた
すぐとなりにいることができとても幸せに思います

温かくいつまでも見守ってください

ありがとうございました

＊作：斉藤和則理事長「さよならセレモニー」で弔辞として朗読された。

正面玄関

公道の際に面して立地、すぐ隣に救急搬入口がある。雨天の救急搬入は、ERスタッフが傘を差出して患者さんと救急隊を迎え入れていた。

所属看護師の名札（本館6階:師長室）

マグネット付きのプラスチックプレートに、マジックで名前が書いてあり、職場ごとに管理。同じ仕様のものが各病棟詰所にあり、入院患者さんの名前が書いてあった。

食栄科 入り口の下駄箱（新館地下1階）

「みみはらのご飯はおいしい」ー入院患者さんにそういわれるのは、365日3食自前で食事を作り続けるスタッフのプライド。地下1階食栄科調理室入り口の下駄箱に並ぶ履き替え用白長靴。頼もしくも誇らしいたたずまい。

総合病棟ナースステーション（本館2階）

収まりきれないワゴンや医療機器が廊下に。狭い病室、病棟は収納スペースが少なく、悩みのタネだった。本館2階は臨床研修指定病院許認可に合わせ、1998年開設した総合病棟。医師初期研修のメッカ、ここから多くの研修医が巣立っていった。

医局（別館地下1階）

スチール机が向かい合わせにびっしり並ぶ。医師の机上を見るといまどんなことに関心があるのかわかるーといった医局課長がいた。常に最善を尽くすことを求められる医師たちは、アップデートを欠かさない。

薬剤部（本館1階）

おびただしい種類の薬剤がところせましと並ぶ。2006年より薬学部6年制スタート、病室や在宅など患者さんの元へ足へ運ぶ機会も増えた。「薬」を扱うこの場所は、院内リスクマネジメントの要でもあった。

Grand OPEN

2015.4 General Hospital
2016.5 Community Area

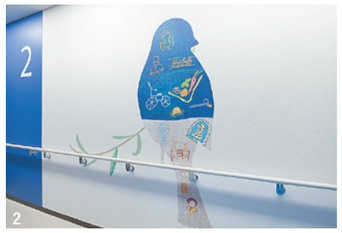
二人の専務

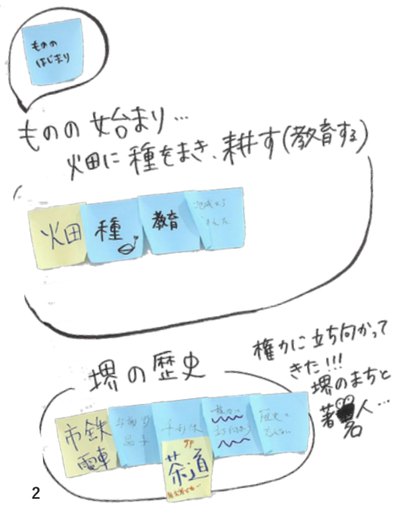
この人と組めば必ず仕事がうまくいく。そう思わせてくれる人と出会ったことがこれまでの人生で3回あった。うち2回が、なんと同仁会の人だった。前専務の田代博さんと現専務の穴井勉さんである。田代さんと出会ったのはかれこれ15年ほど前のことである。田代さんとお付き合いしていて驚かされたのは、どんな無茶な提案をしても、「それは無理です」とは決して言われなかったことである。逆に「先生がおっしゃることを実現させるには何が必要ですか」と突っ込んでくる。凄いと思った。穴井勉さんと初めてじっくり話し込んだのは新病院建設プロジェクトが始まる直前だった。京都まで会いに来てくださった。夜の木屋町で日本酒を酌み交わしながら、社会貢献について語り合った。「青臭いことに一緒に取り組んでいきましょう!」と誘われた。世の中の裏も表も知り尽くしている活動家がいまでも大切に持ち続けている童心(矜持)に触れた気がした。

斉藤前理事長、奥村前病院長、田端現理事長…、新病院建設の仕事を一緒にしてきた人たちも皆そういう人たちだった。類は友を呼ぶということか。

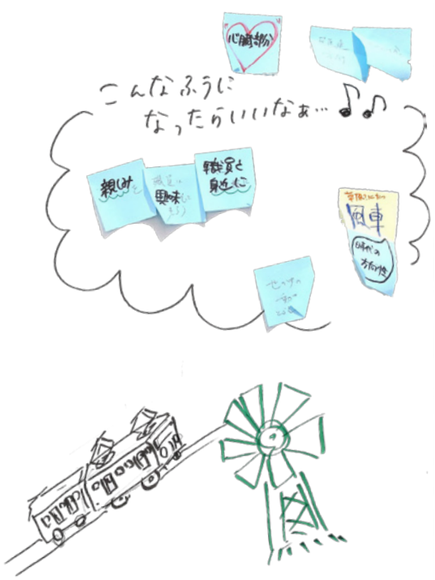
同仁会とは何か。熱いハートを持った人たちの出会いの場、私ならこう定義する。

Lim Bon
リム ボン
都市社会学者
立命館大学産業社会学部 教授
専門:都市政策論





1)医療構想答申発表会開催　2)病院内壁画ワークショップ



3)協同の壁、壁画お披露目　4)模擬患者役も仕立てた引っ越し搬送シミュレーション　5)移転・引越し当日　6)地域交流ゾーン内壁画ワークショップ
7)フルオープンまつり・セレモニー　8)フルオープンまつり「みみはら病院物語」

Grand OPEN

2015.4 General Hospital
2016.5 Community Area

「街のシンボル」になるために

ドイツの歴史学者ハインリッヒ・シッパーゲスは「21世紀、街のシンボルは病院である」という言葉を残しました。『白い亀裂』（1984.下里正樹著）に紹介された耳原総合病院が、街のシンボルになるためには多くの方（病気のあるなしに関わらず）に集まってきてもらうための工夫が必要でした。また同時に、「前倒産」「セラチア菌院内感染」という危機を経験した職員が減る中で、反対勢力に毅然とした態度で新病院を建設した前回の建設より、目に見える障壁が少なかった今回の建設は、ややもすれば団結が難しく、いかに職員、地域の方、友の会、そして行政の方々と団結できるかも重要なことでした。

そのような状況で建設が始まりました。大きな2つの事件の教訓を常に意識しながら、地域の方や友の会の励ましを頂きながら、昭和設計、戸田建設、そしてNPO法人アーツプロジェクトのアーティストたちの知恵を借りながら、職員と共に街のシンボルになるという夢と希望が持てる新病院を作っていきました。そして、病院建設とその器に見合う医療の中身も同時に整備していきました。

そうして完成した病院は「地域コミュニティエリアを作り、地域のコミュニケーションの核となる」「災害拠点病院と同等の強度を持ち地域医療に貢献できる病院」「職員が知恵を出し合って患者さんを守る病院」という形で結実したと思います。

前病院長　奥村 伸二

2010.02ー　建設委員会が立ち上がる
.0313　第1回オープン懇親会を開催（みみはら高砂クリニック2階）
.0612　第2回オープン懇親会を開催（みみはら高砂クリニック2階）
.0805　医療構想答申発表会開催（合同カンファレンスルーム）
.12ー　友の会 総訪問運動 リム教授友の会支部長会議での集中討議
2011.0311　東日本大震災
.0623　堺市で病院建築用地取得となる2つの議案が全会一致で可決
.0806　新病院・地域交流ゾーンワークショップ
昭和設計、リム教授（大阪健康福祉短大）
.0815　全日本民医連現地調査
.0901　松本久医師から奥村伸二医師へ病院長交代
.09下旬　建築予定地決定　堺市との土地契約が完了
2012.0428　新病院キックオフ集会開催（200名参加　餅つき・さいちゃんオケなど）
.1006　記録に残す大撮影大会・写生会開催
2013.0706　起工式200名参加
2014.0303　工事現場・モックアップ（モデルルーム）見学会
.0410　開設1年前の病院職員キックオフ集会開催
.0426　ホスピタルアート「風の伝言プロジェクト」説明会
.0511　みみはら鳳健康祭りで新病院建設をアピール
.0531　みみはらOBOGの集い開催（アゴーラリージェンシー堺）
.0616ー18　旧病院 屋上にて見学会開催
.0712　地域総訪問活動 新病院開設まで半年
外壁囲いに保育園のこどもたちの絵が飾られる
.0809　エレベーターホール内壁画 第1回ワークショップ（旭ヶ丘会館）
.0921　工事現場見学会117名参加　エントランスモニュメントにメッセージ記入
.1018　エレベーターホール内壁画 第2回ワークショップ
（合同カンファレンスルーム）
.1102　地域健康祭り大盛況
.1218　「幕が上がる」外壁画“協同の壁”お披露目
2015.0111　安井町まつりに病院ブース出店
.0219　医師対象 患者搬送机上シミュレーション
.0307　模擬患者を仕立てた搬送シミュレーション
.0314/15　患者搬送・外来の小規模シミュレーション
.0321/22　大規模引っ越しシミュレーション
.0328　完成竣工式 記念レセプション　見学会　祝賀会
.0401　移転引っ越し 入院患者搬送
.0402　さよなら旧病院セレモニー　転院受入れ開始　解体工事始まる
.0403　ER受入れ開始
.0404　外来診療開始
.0726　地域交流ゾーン内壁画 ワークショップ開催
.11ー　「地域交流ゾーン」II期工事着工
2016.0315　いのちのモニュメント手型押し
2016.0516　フルオープンまつり開催　内壁画セレモニー・みみはらの歌・いのちの
モニュメント　構成劇「みみはら病院物語」・シンポジウム

地域の人々を表すオレンジ色

未来に向かって育つ新芽

同仁会を表す紺色

院内外から募った同仁会のロゴマークが、2015年に完成しました。ハート型のフレームは「みみはら」のMとしながら、全体のフレームに同仁会の「同」もイメージ。フレームカラーでは地域の人々（オレンジ）と同仁会（濃い青）が互いに支え合っていることを表現しています。中央には未来に向かって大きく育つことを宣言する「種」から芽生える「新芽」を配置しています。

CENTER

臓器別センター

総合診療センター
消化器センター
循環器センター
腎センター
CWHCセンター
周術期センター
がん支援センター
2021.06　現在

みみはらハートチーム

患者さんの病気を局所だけで診るのではなく、全人的に把握し多くの科の医師、そして多職種で支えていくための中心的存在になるように設立しました。特に昨今では治療のアプローチが多様化しています。患者さんやご家族のニーズを丁寧に聞き出し、個々の思いにも寄りそった治療を行うために患者さんをサポートするチーム医療の要として位置づけました。また、医療レベルの向上についても常に各現場へのフィードバックを患者目線で発信するよう意識しました。

SUPPORT

サポートセンター

患者さんが大事にされていると感じる時はどういう時でしょうか。一度自分の個人情報を病院職員に話すと、必要な職員が情報を共有できているとか、病院機能が細分化されていてもここに聞けばすべてが解る場所がある等。いろいろ考えて、患者さんやそのご家族をサポート（当初は職員もサポート）する部署として設立しました。特徴としては、従来別々に業務をしていた部署（MSW、地域連携室、入院係、入院担当窓口）に新たに患者相談室を加えワンストップで、あらゆる課題を解決できる部署を創設しました。

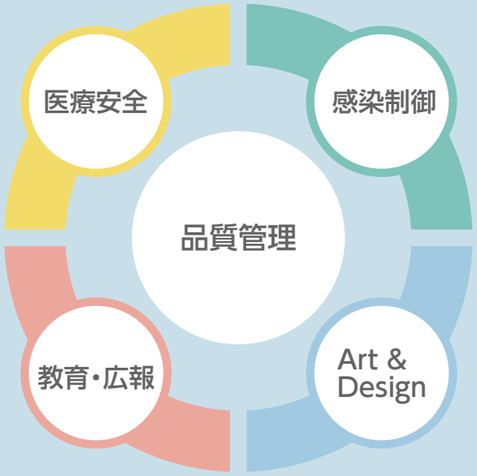
品質管理部の発足

専務補佐　柴田 康宏

2006年の診療報酬改定で「医療安全対策加算」が新設され、医療安全管理者の存在がクローズアップされました。医療安全管理部門を整備している病院は少なくありませんが、医療安全においてその質が問われることは言うまでもありません。総合病院では2014年品質管理部を設立し、医療安全・感染制御・教育・広報の視点から医療の質改善を目指してきました。

チーム医療においては、医療の専門職のみではなく様々の視点からバランスの取れた運営が求められます。2015年新病院建設からは、アートディレクターも品質管理部メンバーに加わりチームとして心理的安全や広報に努めています。2020年からは法人全体の品質管理向上のため、学習会企画や事業所ラウンドを継続的に行っています。

医療の質や医療の安全に関する業務や
職員教育を担当する病院長直轄部門



知識の森

職員廊下に学会・学習会・講演等のスライドを毎月貼り出し、院内でのコミュニケーションや学びを促進するスペースに

Signage　デジタル・サイネージ

院内80か所にモニターを導入、情報共有・周知徹底や「紙配布」削減に大きく貢献。職員によるスライド作成技術も向上

Expectation―希望の芽―／YUKO TAKADA KELLER

こびとの森／小児エリア

春の席（一部:待合）／安井 寿磨子

「POWER of OUR ART ――ホスピタルアートの可能性」

職員が新病院建設の主体者となり、地域の方々や友の会と連携して建設をどのように成功させるかと悩んでいました。また、病院が「地域のシンボル」になるためにも、何かアピーリングな仕掛けが必要だと思っていたところ、いろいろな方との出会いの結果ホスピタルアートの導入となりました。導入後はアートディレクターの活躍で、多様な役割をホスピタルアートが担うようになり、想像以上の広がりが出来たのではないかと感じています。

日本でホスピタルアートの雨音がし始めたのは1990年代。
医療環境は、健康の回復を希求する患者、死の床にあって救いを求める患者やその家族と医療者など、
様々な人びとの苦悩と不安、祈りが織りなされる場でありながら、その色彩を豊かに映すことのできる環境ではありませんでした。
めぐみの雨が降り始めた頃、我が国では乾いた土が水を吸うように芸術の持つ力が満ちてゆきました。
その中でも同仁会、耳原総合病院の表現は2021年コロナ禍での「健康と文化芸術の国際会議※」で発表の場をいただく程のパワーを認められました。私たちが表現し続ける先には、更なる豊かな大地と風薫る景色が広がっています。

総合病院アートディレクター　室野 愛子
※Culture, Health and Wellbeing International Conference 2021

冷たかったわたしの手を、あなたの暖かい手が包んでくれた。
そしていつしかわたしの手も、あなたと同じ温度になった。
ホスピタルアートはそんな日常の中にある小さな幸せと同じだと思います。

総合病院看護師　川﨑 まみち
*みみはらホスピタルアート導入最初の提唱者

more information

新型コロナウイルス COVID-19対応

新型コロナウイルスによって引き起こされる感染症（COVID-19）の世界的流行（パンデミック）は、2019年12月に初めて確認されました。ロックダウンや出入国制限、オリンピック・パラリンピック延期など、人類が過去に経験したことのない事態に陥りました。

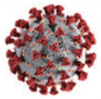
オンライン化が進んだ反面、行動の自由が制限され経済活動が大きく縮小し、働き方や生活様式も「ニューノーマル（新常態）」への適応が始まりました。

2021年6月末には、世界の感染者数は1億8千万人を超え、死亡者は390万人。日本の感染者数は80万人、死亡者1万4千人にのぼりました（WHO公表）。新型コロナウイルスが研究途上のウイルスであることから、先の見えない状況が続きました。

国内外

I. 10年の軌跡

WHO パンデミック宣言
新型肺炎を
「COVID-19」と命名



EU 不要不急な移動を制限
米国や中南米諸国も国境閉鎖を相次ぎ発表

世界の死者40万人超える
WHO「パンデミックが加速 危険な新局面」

世界の感染者1000万人超える
死者50万人超える

横浜港 クルーズ船
感染者発生

厚生省専門家会議
「3条件（3密）
重なり避けて」と
呼びかけ

安倍首相
アベノマスク配布

4/7〜5/21 緊急事態宣言

第1波は収束の気配
都道府県境をまたぐ
移動制限や営業自粛を
2か月ぶりに全面解禁

「Go To トラベル」事業を
全国で開始（東京除外）
新規感染者 全国1605人
感染第2波

2020年 1月 | **2月** | **3月** | **4月** | **5月** | **6月** | **7月** | **8月**

COVID-19感染発生から第1波まで

当院は2020年2月10日に「COVID-19BCP会議」を設置しました。大阪府からPCR陽性患者受け入れの打診をされましたが、当時堺市では収容ベッドには余裕があり、役割分担として帰国者・接触者外来およびPCR疑似症例の管理、また通常の救急医療を行うべきと判断、秋以降の第2波に受け入れを考えることにしました。

またPCR検査の感度が70%ほどで、偽陰性患者さんの扱いに非常に苦慮しました。帰国者・接触者外来を継続すれば疑似症患者さんの入院管理が必要になり、疑い度合いを4段階に分け管理を行いました。結局1病棟を疑似症患者専用病棟にしましたが、疑似症患者を同室にはできず、病床稼働率が落ち込み4月−5月の病院経営は極めて悪化しました。

さらに4月−5月は、大阪市内からの救急搬送数が例年の2−3倍に上昇しました。大阪市内では陽性者が多数発生し、各医療機関が新型コロナ感染症の対応により手が回らない状況になっていたことが推察されます。同時に「断らない」を掲げて、真摯に対応した職員には心より感謝し、この病院の一員でよかったと改めて感じました。

感染制御の専門医、認定看護師等で構成するICT（感染制御チーム）を中心にした最新の知見の勉強会や実技訓練、各学会発表のガイドラインを早期に履修したことにより一人の院内感染者も出さずに乗り切れたのだろうと思います。

個人防護具の供給が滞る中で、堺市医師会、開業医の先生方、連携医療機関、友の会会員さんなどから多数の支援物資を頂戴いたしました。物資の調達に頭を抱える中、物心両面での支えとなりました。改めてお礼申し上げます。

出来うる対策を行い、職員の感染を防ぎ、地域の医療機関と連携し地域医療を守り続けていく覚悟です。

当時病院長　奥村 伸二（2020年6月）

2月

BCP会議設置　第1回対策会議

堺市保健所から「帰国者・接触者外来」の設置依頼と感染症指定医療機関が満床になった際の受け入れ要請／「帰国者・接触者外来」設置と2床での疑似症入院受け入れを返答

接触者外来開設　入館者症状チェック、職員体調確認開始

BCP会議の様子

仮設テントで屋外診療開始

4月

4階HCUでの疑似症患者入院受け入れ開始

マスク、アルコール製剤等衛生資材在庫が危険領域に

緊急医師集会「全診療科の総力をあげて新型コロナウイルスに立ち向かう」ことを確認

入館制限開始　全職員常時マスク着用、職員検温開始

大阪府「入院フォローアップセンター」より5月から10-20床の陽性受入病床確保の要請

BCP対策会議　病院長提起「新型コロナ肺炎対応病床の設置の依頼を受けて」1人目のPCR陽性入院患者の受け入れ

9階病棟での疑似症患者集約開始

5月

BCP対策会議にて陽性患者3名受け入れを決定

マスクやPPE、食料など支援品が続々と届く

院内放送「ひかりの子ラジオ」開始

6月

「2019年度冬期から春期におけるCOVID-19活動総括会議」開催

陰圧個室化工事・空気感染隔離ユニット（ミンティ）の配備

「会食・酒席、旅行に関する自粛要請」通達発出

7月

陽性者入院3名の受け入れ開始

入院患者面会禁止措置

軽症・中等症に対応する協力医療機関として計5床（疑似症専用2床、陽性・疑似症3床）確保

耳原総合病院

お手製エプロンを着て診療

職員総出でごみ袋のエプロン作成

空気感染隔離ユニット（ミンティ）

職員レストラン、一方向を向いて黙食

耳原におけるCOVID-19検査状況

国内外

世界の感染者2000万人を超える
アメリカの感染者500万人を超える

欧州で感染急拡大

英国でコロナワクチン開始
日米欧の先進国で初めて

変異種拡大 英国型、49カ国
世界の感染者
1億人超へ

EU「ワクチン証明書」発行

首相交代
菅内閣が発足

大阪府 コロナ病床
稼働数の最高段階
「フェーズ4」宣言

大阪府が「医療非常事態宣言」
重症患者の急増で不要不急の
外出自粛要請

感染者全国で3,000人超へ

英国から入国した男女5名から
変異種を国内初の確認

感染第3波
1/14～2/28
緊急事態宣言

新型コロナワクチン
接種が国内で始まる

五輪の観客 受け入れを正式断念
聖火リレーが海外でスタート

国内で感染リバウンドの兆し

2020年 9月 | **10月** | **11月** | **12月** | **2021年 1月** | **2月** | **3月**

職員慰労企画
「手作りどらやきと
コーヒー」

病院長交代

面会原則禁止
措置を緩和

職員家族へのインフルエンザ予防
接種開始

「同居者以外との会食を自粛（禁
止）・不要不急の外出を控えて」通
達発出

ICU・HCU・11階病棟スタッフ向け
に 慰労企画「ラテアート」

「年末年始も同居者以外との会
食を自粛（禁止）・不要不急の外
出を控えて」通達発出

職員慰労企画「ジャズピアノwith
ぜんざい」

休憩スペース、原則1名利用 /
同時利用時は飲食禁止

大阪市からの救急搬送 急増

18日　院内での感染者発生
院内3名、患者3名　外部公表

25日　院内感染　収束の発表

職員の行動規制 一部見直し（会
食・飲食を伴わない行動の緩和）

院内で医療従事者向けのワクチ
ン接種始まる

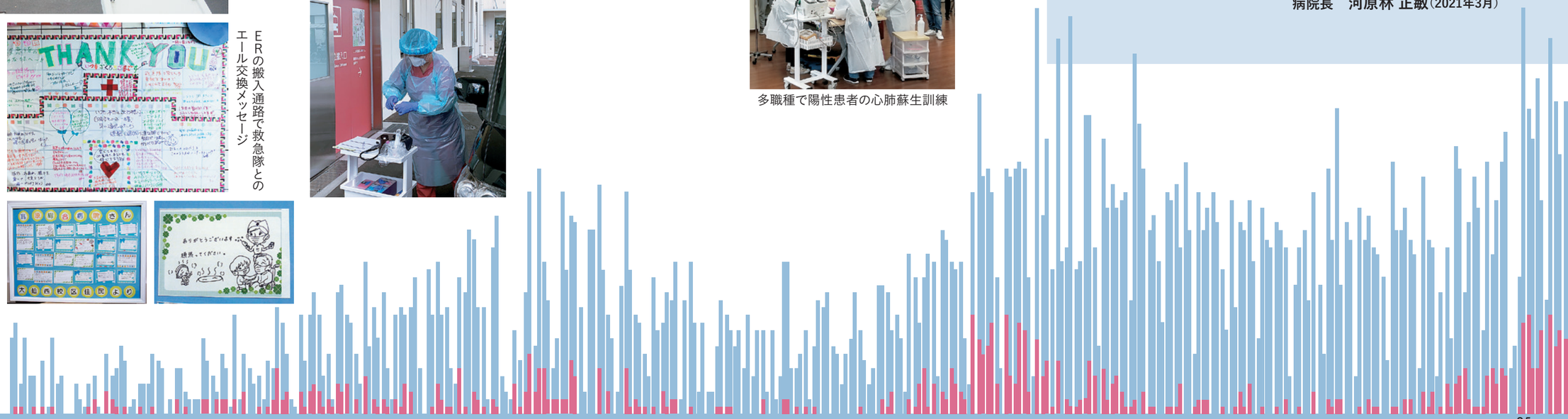
耳原総合病院

ERの搬入通路で救急隊との
エール交換メッセージ

緊張の続く職場にほっと一息、どら焼きをお届け

2020年9月仮設テントから
プレハブ設置へ

多職種で陽性患者の心肺蘇生訓練



第2波から第3波まで

第1波収束の兆しが見えた2020年5月には、秋以降に来ると予測されていた第2波に向け、院内で対応への議論が始まりました。地域の救急医療を支える地域医療支援病院として、求められる役割を果たす必要があること、今回に限らずこの先も様々な新興感染症への対応は避けて通ることはできないであろうことなどを踏まえ、これまでの疑似症患者の受け入れに加え陽性の軽症中等症患者の入院を受け入れる方針を決定しました。また感染症対応と並行して、当院がこれまで担ってきた医療機能をできる限り維持していくことを院内で何度も議論し、意思統一しました。

第3波では通常医療にも影響が及び、例年より早く11月には緊急入院を受け入れる病床のひっ迫が始まりました。その一因は大阪市内からの救急搬送の増加で、2020年度の救急搬送件数は前年度と比較して倍増しました。救急医療のひっ迫は2021年初頭になっても続き、1月14日には大阪府に2回目の緊急事態宣言が発出されました。

また医療機関が直面している問題を社会に伝えるために、第3波の頃から新聞やテレビなどの取材を度々受け、救急医療の差し迫った状況や新人看護師教育への影響など次々と発信し、外部からも大きな反響がありました。

この時期、多大なストレスの中で奮闘する職員の気持ちを少しでも和らげたいとの思いから、看護部とアートチームが中心となり、どら焼きなど手作りスイーツの提供、ラテアート、ジャズコンサートなどを企画しとても好評でした。

変異株による感染拡大が懸念されるなか、大きな院内感染を起こすことなく医療活動を続けることができたのは、全職員の力の結集と、地域の皆さま方の支えがあったからこそと感じています。

病院長　河原林 正敏（2021年3月）

メディア取材・報道

コロナ禍 感謝のキャッチボール

堺の病院と救急隊 搬送口にメッセージ

「お疲れ様」も言えず 温かくねぎらわれた

救えるICU

堺の女性「人が外…

自宅で容体急変 見つからぬ搬送先

大阪 病床逼迫を経験

「すぐに波来る」医師懸念

救える命 救えぬ苦悩

コロナ「医療崩壊」進む大阪

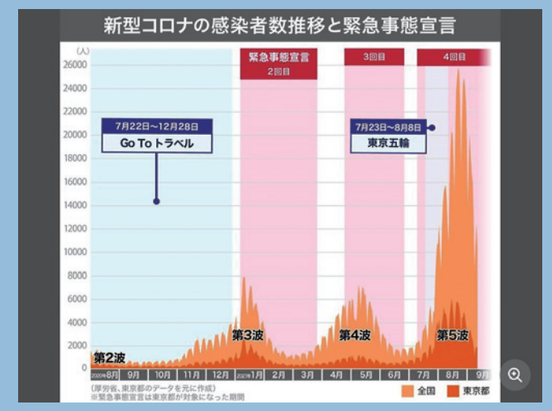
増床してもすぐ満床が続く

外来・往診の体制構築が急務

医療費2割負担 成立に憤り

写真提供 関西テレビ 2021年2月8日

提供:NHK
「かんさい熱視線」 2020年6月12日
「新型コロナ 第2波にどう備える?」
発熱外来で患者減少 苦悩する病院
奥村病院長(当時):「やればやるほど経営的に大変という そんな思いがある」



図表提供 THE PAGE/ヤフー株式会社

	掲載日	メディア	取材	タイトル
2020年	5月7日	毎日放送「ちちんぷいぷい ミント!」	耳原総合病院	アマビエニュース「クリアスカイプロジェクト・みみはらアマビエ」
	5月29日	毎日放送「ちちんぷいぷい ミント!」	耳原総合病院	なぜ支給? 病院に「使えない」マスク
	6月12日	NHK「かんさい熱視線」	耳原総合病院	「新型コロナ 第2波にどう備える?」発熱外来で患者減少 苦悩する病院
	12月11日	関西テレビ「報道ランナー」	耳原総合病院	大阪の救急医療は、崩壊しているのか? 「救急総合診療科」の厳しい現実
	12月27日	大阪日日新聞	耳原総合病院	無料受診の利用急増 別の形の医療崩壊
2021年	1月4日	関西テレビ「報道ランナー」	耳原総合病院	お正月のER
	1月10日	大阪日日新聞	耳原鳳クリニック	コロナ禍 受診控えで医療経営苦境 闘える財政支援を
	2月8日	関西テレビ「報道ランナー」	耳原総合病院	人手不足で危機 看護師の育成どうする?
	4月16日	毎日放送「MBS NEWS」	耳原総合病院	「現場は緊急事態」大阪で“重症患者35人が重症病床に入れず” 軽症・中等症の病院に
	5月2日	TBS「サンデーモーニング」	耳原総合病院	“看護師の五輪派遣”要請に医療現場は…
	5月2日	しんぶん赤旗	耳原総合病院	「救える命 救えぬ苦悩」 コロナ「医療崩壊」進む大阪
	5月29日	朝日新聞	耳原総合病院	病棟逼迫「負のスパイラル」ケア届かない軽・中等症患者が重症化
	6月18日	朝日新聞	耳原総合病院	「すぐに波来る」医師懸念
	7月25日	朝日新聞	耳原総合病院	オリンピック開催 スポーツ好きだが第5波心配
	8月5日	朝日新聞	耳原総合病院	コロナ禍 救急隊と感謝のキャッチボール
	9月5日	TBS「サンデーモーニング」	耳原鳳クリニック	デルタ株の猛威で…重症者にどう対応?

COVID-19
初期の対応

健康友の会みみはら

手作りエプロンとマスクで応援

作ったエプロンは、医療・介護現場で働くスタッフのもとへ。医療材料が不足する中、これらの活動は同仁会の事業継続にも大きく貢献しました。

職員を励ます取り組み

各支部より、医療・介護従事者を励ますメッセージを発信しました

熱中症・お元気ですか訪問でつながりをキープ

夏は、健康友の会みみはらの世話人と同仁会職員とで、友の会会員を対象とした熱中症訪問を実施。コロナウィルス感染拡大による自粛で、人と会う機会が減ってしまった方に喜ばれました

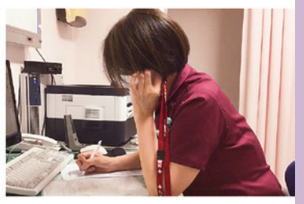
みみはら高砂クリニック

耳原歯科診療所

耳原鳳クリニック

コロナ在宅医療

●コロナ患者さんに病状確認の電話かけを行い、必要な方にはコロナ往診を行いました



コロナワクチン難民への出張接種

●区の全ての地域包括支援センターと、市の「長寿支援課」に、コロナワクチン難民の存在について問い合わせました

●市から「堺市内で一定存在し、医師会と相談している」「医療機関側からこのような問い合わせを頂き、心が温まります」との返答を頂きました

24名の市内ワクチン難民のうち6名の方に訪問接種

みみはらファミリークリニック

介護事業部

訪問看護の業務

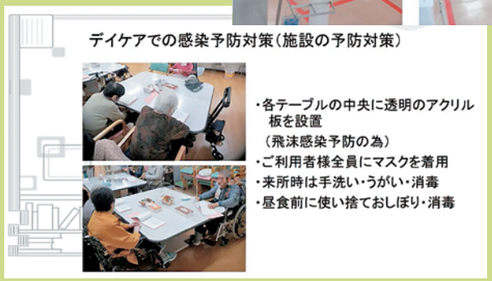
- 在宅で療養している方には、尿路感染や、誤嚥性肺炎などを起こし発熱することが少なくありません。
- 玄関でPPEを装着し、滞在時間を15分程度として、情報収集・アセスメントをし、主治医への報告や受診につなげます。

友の会のみなさんの手作りエプロンに助けられた。

- 訪問時に毎回使用するエプロンが手に入らず、レインコートを着たこともありました。
- 暑い夏、友の会のみなさんの手作りのエプロンが、本当に有り難かったです。
- ありがとうございました。

介護老人保健施設みみはら

耳原高石診療所



一般財団法人 泉州メディカ

泉州メディカまとめ

- 各薬局で感染対策
  ビニールカーテン設置、動線の整理、窓の開放
  手指消毒の徹底、待合室の環境整備、清掃の徹底など
- マスク・消毒薬の一元管理
- 薬局長会議や実務実習でテレビ会議の導入
  （テレビ会議用のネット環境や資材の整備）
- 職員の行動自粛など通達で対応
- 処方箋枚数は4月約15%、5月約20%、6月約10%の減少、大きな減収に
- 在宅訪問回数は施設で減少したところもあったが、全体としてはあまり減らなかった
- 長期処方の増加で薬品の在庫管理が難しくなっている
  （薬価率の増加）
- 薬価率の削減、経費削減等経営改善にとり組んでいる

消毒液の作成

- 高濃度エタノールより消毒用エタノール、手指消毒用エタノールを作成
- 高濃度イソプロピルアルコールを消毒用、清掃用に調製

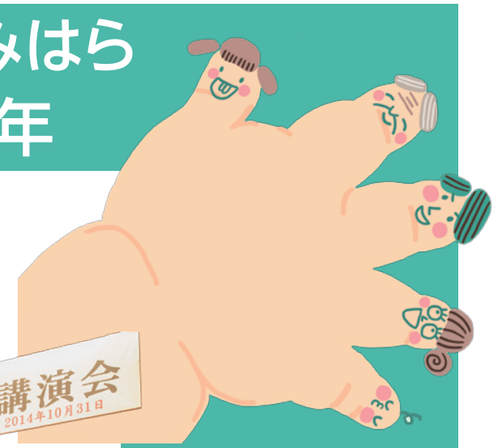
（「高濃度エタノール製品使用の手引き」に基づき、ゴーグルをつけて作業）

- 一元管理して各薬局に配布

ともに前進する仲間たち

「なくてはならないパートナー」へ

健康友の会みみはら結成30周年



沿革

1983年 5月	耳原友の会準備会発足
9月	機関紙「友」創刊
1984年11月	耳原友の会設立総会(旭ヶ丘会館)
1989年 4月	耳原友の会高齢者クラブ設立総会(堺市民会館:120名)
1991年 3月	第1回全日本民医連共同組織(当時・基盤となる組織)活動交流集会
2004年 7月	耳原友の会第17回総会(堺市民会館)「健康友の会みみはら」名称変更
11月	耳原友の会20周年記念フェスティバル

健康友の会30周年記念講演会のようす

2014年11月17日、「健康友の会みみはら」は結成30周年をむかえました。

30周年記念企画として鳥越俊太郎氏記念講演会「平和と9条について考える」が開催されました（2014年10月31日　堺市総合福祉会館）。鳥越俊太郎氏は多くの報道番組でキャスターを務めるかたわら、当時大腸がんの闘病中であることを公表し数度の手術を受けながら、精力的に報道番組に出演しフルマラソンに挑戦するなど活動的な姿が話題になっていました。ご自身の闘病生活や、平和・憲法9条が脅かされている状況を「人間でいうと戦後69年、人間でいうとがんが出てきやすくなる年」とたとえ、秘密保護法や集団的自衛権の問題など当時の安倍政権を厳しく批判。警鐘を鳴らされました。

当日は江戸道子副会長(当時)が、「友の会30年と未来」と題して病院創設や、地域や友の会とともに病院が歩んできた歴史を講演。前倒産やセラチア菌院内感染事故など苦難の歴史もふりかえりつつ、友の会が「応援団」ではなく各地域に「なくてはならないパートナー」として根付き、いっそう成長し活動をすすめていくことを決意を込めてお話されました。

1984年1402世帯の会員数で産声をあげた健康友の会みみはらは、会員・職員のたゆみない活動と努力により、26支部、会員92,000人余、たまり場16か所、担い手989名(2020年度到達より)と大きく発展成長しています。

楽しく健康づくりを学ぶ(耳原老松診療所)

「お困りごとはないですか」地域訪問はナマの声を聴く大切な機会

国民平和大行進(浜寺公園前)

原水禁世界大会参加のための平和バザー(みみはら高砂クリニック前)

「住み続けられるまちづくり」へさらに連携強化

みみはらグループ運営協議会、発足

社会医療法人同仁会が大きくなる中、また、医療情勢が変化する中で、同仁会の夜間保育所から出発した保育園は社会福祉法人ひまわり会となり、政府の医療費削減政策への対応として泉州保健医薬研究所（現泉州メディカ）が生まれ、まちづくりの一環としてNPO法人結の会ともうずを立ち上げるなど同仁会から出発した関連法人がいくつか生まれました。

こうした同一法人から出発した同じ理念を持つ法人が“思い”だけではなく、体制として連携を強め、いっしょに健康づくり、まちづくりを推進していくとともに、事業や運営の効率化も図っていく形を確立するという目的で2018年11月29日に「みみはらグループ運営協議会」を発足させました。

構成は社会医療法人同仁会、一般社団法人泉州メディカ、社会福祉法人ひまわり会、NPO法人結いの会ともうず、株式会社まちづくりMGPの5法人に準構成団体として健康友の会みみはらを加えた6団体です。今後は地域でもグループで連携した運営を強めていきます。

地域とひと、全事業所を顔の見えるネットワークでつなぐ

特定非営利活動法人 結いの会ともうず

「結いの会ともうず」の前身は、地域の高齢者や障害者の生活を支える活動として銭湯をお借りしての入浴ボランティア活動や配食支援などに取り組んでいた有志のグループです。介護保険法が施行された2000年、特定非営利活動法人（NPO法人）の認可を受け、設立当初は訪問介護事業を軸に配食サービスやヘルパー養成研修を行っていました。2007年11月に訪問介護事業は同仁会に移管しましたが、介護保険で認められない日常生活支援をサポートするための事業は現在も活発に継続しています。

主たる事業活動は　①家事援助など「ちょっとした困りごと」を支援する助け合い事業「有償ボランティア事業（ワンコイン助っ人隊）」　②移動の自由と権利を守る外出支援事業「福祉有償運送事業（おでかけ助っ人隊）」　③介護職をめざし資格取得を希望する方への研修事業「介護職員初任者研修」です。特に助っ人隊は地域の高齢者にとってなくてはならない活動になっており、現在の支援協力登録者は180名以上です。地域で「顔の見える関係」をつくりながら健康で「安心して住み続けられるまちづくり」をすすめる健康友の会みみはらはじめ、みみはらグループのすべての事業と連携しながら活動の幅を広げています。

主な事業

- **ワンコイン助っ人隊**
  家事援助など「ちょっとした困りごと」を支援する助け合い
- **福祉有償輸送**
  「移動の自由と権利を守る助け合い」外出支援事業
- **介護職員初任者研修**
  介護職をめざし、資格取得を希望する方への研修事業
- **ボランティア育成**
  住み続けられるまちづくりの視点でボランティア活動への協力者を友の会との連携で募集・育成する

沿革

1993年頃	有志グループでボランティア活動開始（銭湯での入浴ボランティア、配食サービスなど）
2000年	特定非営利活動法人（NPO）許認可。配食サービス、ヘルパー養成講座など実施
2007年11月	訪問介護事業を同仁会へ移管
2013年 4月	初任者研修事業者指定（ヘルパー2級が初任者研修へ移行）
2014年 7月	支え合い事業開始（みみはら健康友の会と協議）
2019年 4月	おでかけ助っ人隊開始（近畿運輸局許認可）
2020年	初任者研修履修、資格取得者100名突破

【 結いの会ともうずの理念 】

- 高齢者や障害者、ひとり暮らしの方の生活を多面的に支援し、自立した生活が営めるよう協力します
- 地域の安心ネットワークをめざし、住み続けられるまちづくりに貢献します
- みみはらグループで連携し、非営利活動にふさわしい、支えあいのまちづくりをめざします

安心信頼の
かかりつけ薬局・事業所

一般社団法人 泉州メディカ

沿革

1978年 6月	同仁会調剤薬局開局
1987年 3月	株式会社泉州保健医薬研究所設立 協和薬局開局
1990年 1月	OTC薬の販売開始
1992年 4月	薬歴活動開始
1999年 4月	登録衛生検査所(大阪メディカルラボラトリー)開設
2000年 4月	居宅介護支援事務所(4薬局)、福祉用具貸与事業所(たかさご薬局内)開設
2002年 6月	薬局製剤 営業開始(たかさご薬局)
2004年 1月	ISO9001:2000認証を「調剤サービス提供」で取得
2005年 3月	研修センター模擬薬局「まなび庵」完成
10月	DI情報「まなび庵だより」発刊
2013年 7月	福祉用具貸与事業所移転・名称変更(介護ショップKPG)
2018年 1月	一般社団法人泉州メディカ設立

事業紹介

- **保険調剤薬局**
  泉南地域に9店舗を展開(協和、タンポポ、たかさご、オリーブ、ヒマワリ、あゆみ、みのり、さくら、きたのだ)
- **登録衛生検査所**
  大阪メディカルラボラトリー
- **福祉用具貸与**
  介護ショップKPG
- **従業員数**
  106名(薬剤師59名、検査技師13名、事務34名)
- **事業規模**
  売上高32億円、保険調剤薬局処方箋枚数17,250枚／月間

(2021.4現在)

たくさんの患者さんに比して狭い待合、長い待ち時間への対応として1978年に総合病院の院外薬局として創設、1987年に泉州保険医薬研究所 協和薬局となり、2018年株式会社から営利を目的としない一般社団法人泉州メディカとなりました。その時一部の事業が株式会社まちづくりMGPに引き継がれました。創設から43年、耳原実費診療所の歴史の半分を歩んできました。

実費診療所の開設スタッフに薬剤師はいませんが、耳原病院開設には薬剤師が参画しています。耳原実費診療所が私たちの源流といえることを誇りに感じます。

新薬が次々開発される中、薬剤師・薬局の役割はますます大きくなっています。また、高齢者が増える地域で「薬の専門家」として安心して暮らせるためのお手伝いもとても大切です。耳原実費診療所の歴史を引き継ぐ法人の一つとして、これからも「安心信頼のかかりつけ薬局・事業所」を目指して取り組んでいきます。

小さな芽吹きが木となり枝を伸ばし葉を茂らせたとたとえるなら、私たちは実費診療所の無差別・平等の思いを引き継ぐ一枝です。私たちもまだまだ伸びていきます。『安心と信頼のかかりつけ薬局・事業所』をめざして。

大阪民医連の看護学校として

泉州看護専門学校

沿革

1966年	第14回大阪民医連総会「自らの後継者を自らの手で育成する」ことを決定
1968年	淀川准看護学院 定員20名 全日全寮制 淀川勤労者厚生協会附属施設として、旧西淀病院内に開校
1975年	泉州高等看護学院(2年課程・定時制) 総合病院別館をリフォームして開校
1977年	専修学校許可を受け「泉州看護専門学校」となる
1983年	レギュラーコース(3年課程・全日制)併設(30人定員)
1987年	第18期生の卒業を最後に淀川准看護学院閉校 (卒業生総数327名)
2000年	看護第1学科 定員60名(30人2クラス開設)
2001年	看護第2学科を24期生の卒業を最後に閉科
2003年	看護第1学科 1クラス40名定員に変更
2004年	男子学生受け入れ開始
2010年	オープンキャンパスの参加者100人超(コロナ禍の現在も続く) 学院祭の健康チェックに地域の方が毎年参加、交流深まる
2011年	学内演習に健康友の会みみはら会員が模擬患者として参加 大阪民医連に「泉州看護専門学校将来構想検討委員会」を設置
2016年	学校建設委員会設置
2017年	新校舎建設 着工
2018年	新校舎 竣工

卒業生数

看護第2学科……666名
1期～24期(1975年～2001年3月)

看護第1学科……1293名
1期～36期(1983年～2021年3月)

総数 1959名

民医連の看護学校は全国で8校あります。泉州看護専門学校は、1966年に開催された大阪民医連第14回総会で「自らの後継者を自らの手で育成する」ことを決定した歴史の中から設立され、運営されています。総会決定の2年後（1968年）には淀川准看護学院が設立されます。そして1975年には、淀川准看を卒業し准看護師として大阪民医連の各院所で勤務する人たちを対象に、進学コースとして総合病院別館の病棟をリフォームして泉州高等看護学院が開校します。その後1977年、専修学校認可を受け「泉州看護専門学校」となりました。

泉州看護専門学校は、ただ単に看護師の人手を確保するための養成ではなく、民医連各事業所の看護を担うために、生活と労働の場から患者をとらえること、事実から謙虚に学ぶこと、民主的な職場づくりをすすめることを大切な教育の視点にしています。そして、学生指導を学校と臨床とで力を合わせてすすめていくことで、臨床現場の力量アップにもつながっています。そのための指導者研修、卒後研修制度なども運営しています。

泉州看護専門学校卒業生の約8割は大阪民医連の各事業所に就職しています。泉州看護専門学校は、21世紀の事業所・看護部門を担い発展させていく後継者の養成を大阪民医連の共同事業として行っているのです。2018年の新校舎建設も「建設運動」としてとりくみ、建設募金は大阪民医連の職員はもとより、全国の民医連の仲間や、同窓生、何よりも多くの共同組織の皆さんから協力をいただき、3000万円を超える募金がよせられました。民医連の看護師育成への期待の大きさを示すものとなっています。

毎年行っている「全学合宿」(*2020・21はコロナのため中止)。講師の先生、院所からの参加もあり、学生全員が役割を持ち運営する恒例の行事

「日本のうたごえ祭典」には1975年から出場、学生の部で1位、あるいは2位を獲得

診療所トピックス

耳原鳳クリニック　医療・介護連携で暮らしをサポート　*SINCE 1960*

2009年に病院から診療所へ移行、同年末には健康サポートセンターも開設。慢性疾患管理にも力を注ぎ、鳳エリアで行われる医療・介護・福祉事業の中心的役割を担ってきました。また、認知症患者のケアにも力を入れ、物忘れ外来や若年性認知症患者のデイケアを実施。当事者と家族が集うオレンジカフェも開催。オレンジカフェはコロナの流行以前には場所をひまわりの家 鳳に変えて取り組まれています。

耳原高石診療所　頼れる高石エリアのよろづ相談所　*SINCE 1997*

2017年に診療所開設20周年を迎えました。健康友の会みみはらの会員さんたちと一緒に、何でも相談できるまちの身近な診療所になっています。毎年恒例の「いよやかの郷バスツアー」で上演される劇団松葉の寸劇は大好評です!

みみはらファミリークリニック　訪問診療から災害時まで地域医療の拠点　*SINCE 1964*

所長を中心にした、いつでも安心してかかれる診療所です。2017年にオープンしたひまわりの家 蔵前と連携し、訪問診療を拡充しています。災害時の対応にも力を入れ、地域の在宅医療を支えています。

2016年、B棟を増設し旧老松診療所と合併、慢性疾患・在宅医療を充実させました。耳原総合病院の近接診療所として駆け込み機能を担っています。紹介状重視の医療制度から住民の受療権を守り、地域と病院の橋渡しの役割を果たしています。（旧老松診療所の人工透析は2015年総合病院に移設、質量ともに大型の透析施設となりました）

みみはら高砂クリック　いっそう機能充実で地域の受療権を守る　*SINCE 2000*

耳原歯科診療所　訪問歯科も充実、だれもがかかりやすい歯科を　*SINCE 1981*

2017年同仁会本部とともに大仙西町にリニューアルオープン。全ての診療チェアに口腔外バキュームという吸引装置を設置、新型コロナウイルス感染対策に効果を発揮しています。誰もが平等に歯科診療を受けることができるよう、訪問診療、無料低額診療に積極的に取り組み、利用者が増えています。

そのひとらしく豊かな人生を、最後までサポート

社会福祉法人 ひまわり会

沿革	
1974年	堺市で初めて産休明け保育をする認可保育園として創設
2006年	ひまわり保育園休日保育を実施（市内13の保育園の園児が利用）
2011年	ひまわり保育園建て替え
2013年	ひまわりの家鳳、ひまわりの里鳳　開設
2016年	ケアプランセンター開設
2017年	ひまわりの家蔵前、ひまわりの里蔵前　開設

法人のはじまりは、総合病院内の職場内保育園です。病院職員や地域の願い、要求をもとに認可保育園となりました。

「病気があっても、医療的なサポートが必要でも、障害があっても、病院で過ごすのではなく自宅（自分のすみか）で過ごし、最後の時を迎える」そんな思いをサポートしたいと、ひまわりの家は誕生しました。そして介護だけでなく、医療サポートもしっかりできるようにと看護師が常時利用者さんの日常にたずさわることのできる看護小規模多機能型居宅介護（ひまわりの里）が併設されました。

今まで経験したことのないことも多く、日々本当にいろいろなことが起こります。悲しいこと、困ったこと、楽しいこと、働いているスタッフはもちろんですが、利用者さん、支えてくださる方々とともに時には途方に暮れるぐらい悩みながらも、新しいことや失敗を恐れずここまで来ました。

「ひまわりの家鳳」ができて8年になります。まだまだ小さくて頼りないですが、2つ目の「ひまわりの家蔵前」もでき、さらにこれから堺区での開設へと目標を大きく掲げ、日々前進しています。西区、北区、堺区と地域とつながっていく範囲も広がっていきます。これからのひまわり会も日々の生活を支えるだけでなく、災害時や困ったとき地域の中で大きな存在になれるように、頼りにしてもらえるように、今までの経験や歴史、想いも大切にしながらどんどん新しいことに取り組んでいきます。

事業紹介

- **保育園**（ひまわり保育園）
- **看護小規模多機能型居宅介護**
- **訪問介護・訪問看護**
- **サービス付き高齢者住宅**
- **従業員数**　常勤換算65名
- **事業規模**　6億円

地域包括ケアと 多様なニーズ対応のために

みみはら在宅クリニック

同仁会のビジョンにおける在宅診療の広がりが停滞していたことは、時代の医療ニーズに適合しきれなかった一側面といえます。外来診療を中心に空いた時間を在宅診療に充てる従来型の在宅診療から、住み慣れた場所で最後まで自宅で過ごすために365日24時間の在宅医療をどのように構築するかは、社会的喫緊の課題でもありました。

新型コロナウイルス感染症の蔓延は、入院医療の弱点（愛する家族に会えない）を市民の前に露呈することになり、今まで停滞していた同仁会の在宅診療の拡大が待ったなしの状況となっていることを図らずも見える化してくれました。

総合病院があることは、最後には頼れる病院があるという意味で本当に心強いことですが反面、在宅診療の質の向上には課題を残しました。そして最大の課題は若い世代の在宅診療や夜間の拘束への参加が充分保障できていない状況だと考えられます。

DPC制度になり、ますます生活全体のレベルすなわち、患者さんが家に帰った後の生活を意識した入院診療が組み立てにくくなっています。このことは同仁会全体の診療の質の問題に大きく関わります。

みみはらグループ全体の底上げを含め、真の意味での地域包括ケアを実現するため、2021年4月在宅クリニック開設のはこびとなりました。市民の多様なニーズにお応えできるよう在宅診療の発展の核となることを目指します。

在宅支援へいっそう機能強化

介護老人保健施設みみはら

1998年同仁会の前倒産という経営危機のまっただ中、地域の方をはじめ多くの支援を受け介護老人保健施設みみはらは開設しました。当初は「病院と自宅の中間施設」という位置づけでありながら「老健の特養化」といわれたように特養待ちの利用者さんが多くおられるような状態でした。

老健本来の在宅復帰支援施設としての役割を再度位置づけ2014年には在宅強化型を取得。2018年には超強化型施設として積極的な在宅復帰へ向けた支援を行ってきました。現在、新型コロナウイルス感染症の流行により家族との面会行事やレクリエーションなど中止や制限など今までにない生活スタイルを余儀なくされていますが、感染予防対策を強化しながら在宅支援を続けています。

介護事業を統括、在宅生活に力を発揮

介護事業部

2000年4月に介護保険制度が始まり、同仁会でも訪問看護ステーションから介護保険サービスが開始されました。2007年NPO法人結いの会ともうずから、ヘルパーステーションが同仁会に移籍。訪問看護とケアプランセンターと共に、同仁会の介護事業部として活躍しました。2018年–2019年には診療所管轄であった全ケアプランセンター、地域包括支援センター、通所リハビリが介護事業部に移管し、現在では12の事業所を統括しています。地域住民が住み慣れた地域で安心して在宅生活が送れるように、なくてはならない事業となっています。

2018年 総括会議にて（介護事業部）

訪問看護先でのひとコマ

沿革

1985年	在宅医療チーム結成
1991年	訪問看護ステーション鳳開設
1994年	在宅医療部発足
1995年	訪問看護ステーションみなと・泉北開設
1996年	訪問看護ステーション大浜・深井開設
1998年	老人保健施設みみはら開設
1999年	介護保険事業部発足
2000年	居宅介護支援事業指定
2007年	ともうずヘルパーステーション同仁会移籍
2009年	認知症デイサービス「ゆったりケアおおとり」（老健みみはら内）開設
2016年	訪問看護ステーション 機能強化型取得
2017年	介護事業部へ名称変更、旭ヶ丘へ移転
2018年	みみはらケアプランセンター開設

リハビリや他事業所と協働、在宅療養のQOLを高める

訪問看護ステーション

同仁会には制度が導入される前から、訪問看護を行っていた歴史があります。

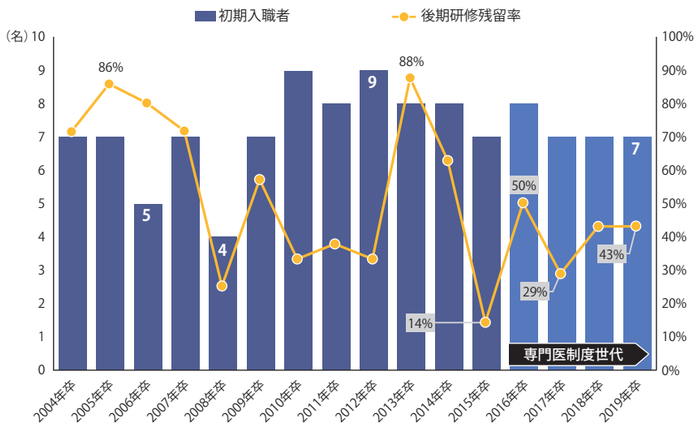
訪問看護ステーションから訪問リハビリが開始され、看護とリハビリが協働して利用者のQOLを高める援助をしています。人工呼吸器装着の患者さんの外出や外出が困難な方のお花見など他の事業所とも連携して取り組んできました。

2016年にはセンター化を行い、機能強化型事業所として在宅療養のニーズに応えています。訪問看護認定看護師の養成や大阪府訪問看護ステーション協会の理事を受任し、地域の事業所との連携が進んでいます。

新型コロナウイルス感染症拡大で、病床の逼迫や面会制限などから在宅療養を希望する方が増え、訪問看護の役割が再注目されています。未来に向けて多様なニーズに応えられる訪問看護を目指します。

全科・全職種で築いた到達点　同仁会の医師養成

2017年7月に始まった、診療科が一堂に会するGP+1カンファレンス



教育回診（上）、2017年GP+1セミナー（下）

GP+1「やさしい主治医力・たしかな当直力」——医師養成の到達点

2004年の医師臨床研修制度開始に合わせ、大阪民医連を含めた議論が行われ、総合病院を管理型研修病院とする研修受け入れ体制を整えてきました。

それ以前から自前で医師を育てることを一貫して実践してきましたが、研修必修化後は大阪民医連研修到達目標として「やさしい主治医力・たしかな当直力」が掲げられました。主治医制と救急の経験などを軸とする研修プログラムが指導者らの奮闘によって行われました。総合病院で初期研修を修了した医師は115名に上っています。

2018年に始まった専門医制度により、専門への集中を標準とする傾向が強まる中、同仁会では、GP+1（General Practitioner + 1 Specialty）を合言葉にした、多様なフィールドに対応するプライマリ・ケアを共通項にしながら、それぞれの専門分野を高める医師養成が続けられています。

Ⅱ. 温故知新

「故（ふる）きを温（たず）ねて新しきを知る」（論語）

みみはらの医療介護安全大会

2000年6月、一つの病棟で相次いで入院患者さんに敗血症が発生、3名の方がお亡くなりになりました。原因菌はセラチア菌でした。国立感染症研究所と堺市保健所に報告し、立ち入り調査と指導を受け、原因究明・感染経路の早期解明をめざして「マスコミへ公表」しました。その結果マスコミが殺到、真実でない報道もありました。患者、地域の方からの不安、苦情、心配の電話が殺到しました。

①治療に全力を尽くし、新たな感染を防ぐ

②公的機関と連携し、真摯に科学的に原因究明を進める

③情報公開し、経験、教訓を伝える

以上の「私たちの基本姿勢」を確認して対応しました。そこから導き出された「5つの反省と改善点」を確認。院内感染対策に関わるコストも公表し、診療報酬改定の運動にもつなげました。

私たちが学んだ教訓は、

①絶えず謙虚に医療を見直し、改善すること

②経験主義でなく科学的根拠に基づいた取り組みを地域の皆さん・患者さんとともに、倦(う)まず弛(たゆ)まず続けること

今、当時を知る職員は14%になりました。医療介護安全大会は、このことを未来永劫の教訓とするため、毎年7月に開催し最新の知見を学び、医療介護現場での取り組みの経験交流の場と位置づけています。新病院玄関前のモニュメントは、その決意を表す象徴なのです。

経験主義でなく科学的根拠に基づいた取り組みを地域の皆さん・患者さんとともに、倦まず弛まず続けること。

第1回
あれから一年…
NPO法人日本感染管理支援協会理事長
土井 英史
2001年

第2回
医療事故を防ぐために
一人間工学研究の
立場から一
2002年

第3回
感染症の診療と
院内感染対策の
理解のために
2003年

第4回
みんなで取り組む注射事故予防
2004年

第5回
あれから5年、
守っていますか標準予防策
国立感染症研究所　安井 良則
2005年

第6回
医療事故被害者の
体験をふまえた
新葛飾病院での
医療安全の取り組み
2006年

第7回
最大の感染対策は予防
ワクチンのことをもっと学ぼう
2007年

私たちが学んだ教訓は、絶えず謙虚に医療を見直し、改善すること。

第8回
医療安全と
コミュニケーション
2008年

第9回
新型インフル
エンザについて
2009年

第10回
ヒヤリハットのその前に!
危険予知を身につけよう
2010年

第11回
ベストをつくせ！
感染対策
学んで実践 標準予防策
2011年

第12回
坂総合病院に
おける震災対策と
震災対応
2012年

第13回
事例を通して組織の
安全管理体制を考える
―新型インフルエンザ・ノロウイルスの
アウトブレイクを体験して―
2013年

第14回
医療安全の新たな地平
―今、なぜ「安全文化」なのか―
2014年

第15回
結核について
2015年

第16回
医療安全と
チーム医療
上尾中央病院院長補佐 情報管理部長
長谷川 剛
2016年

第17回
遵守しよう！ 感染予防策
―想像力を備えたルーティーン―
2017年

第18回
チームで取り組む
医療介護の安全 PART2
―患者さん・利用者さんと一緒にできること―
大阪市立大学附属病院 医療安全管理部病院教授
山口（中上） 悦子
2018年

第19回
人の一生とワクチン
―感染対策は予防から―
佛教大学 社会福祉学部教授
武内 一
2019年

※開催年、テーマ、記念講演演題を示しています

1、無差別・平等
2、情報開示と仕組みづくり
3、変化を恐れない

みみはらの持続可能性

「グループのさらなる前進のために」

専務理事 穴井 勉

1997年12月29日、同仁会理事長あてに公認会計士である坂根利幸氏、根本守氏連名の同仁会経営調査報告書が提出されました。年賀状とともに届いたこの報告書により、同仁会が27億円の債務超過を抱え前倒産状態にあることを、多くの法人幹部が初めて知ることとなります。

同仁会は1998年、年初早々全日本民医連の全面的な援助と地域からの支え、全役職員の団結と労働組合との共同により、再建の道を歩み始めます。再建運動では3つの乖離（医療と経営の乖離、管理と職員の乖離、地域との乖離）の克服が掲げられました。24年の時を経て、私たちは新病院建設と債務超過解消をやり遂げつつありますが、果たして前倒産の教訓は組織に根づいているでしょうか。

医療と経営を一体のものとして準備し、議論し、実現した最大の事業が総合病院の建て替えです。88億円の総工費について、自前資金と銀行からの借入額を全役職員と友の会幹部で共有し、年間5億円の銀行返済額確保を共通の目標としました。徹底した経営情報の共有を力に、人件費適正化を含め毎年10億円以上の資金を生む事業計画を全役職員の力で達成してきました。

同仁会の前倒産は、病床増など大規模投資による資金困難でもありました。総合病院建設後、資金的に安定して5年間が経過したことは、医療と経営の乖離克服への確かな一歩と言えるのではないかと考えます。

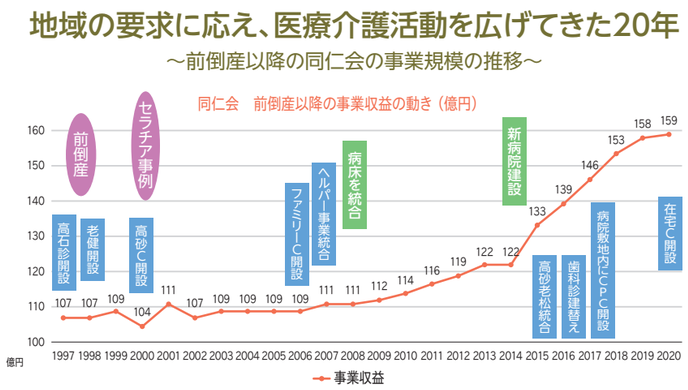
創業100年が老舗の目安と言われます。70周年を迎えた今日、同仁会が老舗入りに必要な3点を記します。

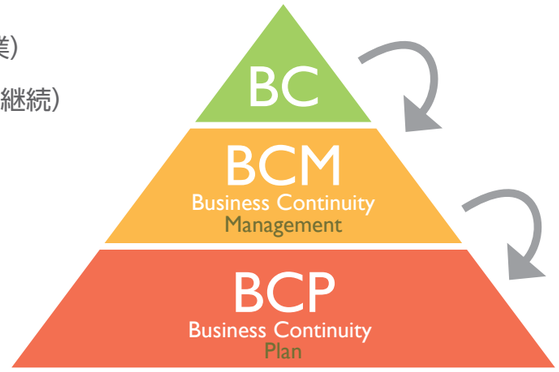
1つ目は、民医連綱領の実現をめざし、無差別・平等の理念を掲げた組織であり続けることです。存在意義なくして非営利企業の存続はあり得ません。常に「誰とともに、何のために、誰とともに頑張る組織なのか」を問い続ける同仁会でありたいです。

2つ目は、全役職員参加の経営です。その前提は徹底した情報開示と仕組みづくりにあります。年度発行の事業報告書、毎月発行の同仁会報、毎月と四半期ごとの経営報など、情報開示と共有に取り組んではきましたが、情報媒体含めいっそう変化と強化を目指します。同仁会の最大の強みである健康友の会みみはらの力を、どう同仁会の運営や経営に結びつけるかがより重要となるでしょう。友の会を含めた地域要求に応えた事業展開が求められます。

3つ目は、変化を恐れないことです。外部の環境が変わる中、同仁会だけが今日のままで明日は迎えられません。原点を失わず、新たな選択の出来る同仁会をめざします。

（「取扱注意　経営調査報告書」）





レジリエントな病院を創造する

BCPの取り組み

総合病院 品質管理部 中田 直子

総合病院では、2016年からBCPの策定に本格的に取り組み始めました。2015年に新築移転した際の建築コンセプトが「協同の砦」であり、「患者や地域と共同し、チームで24時間365日安全・安心・信頼の医療を提供する」という基本方針を体現するためには、大規模災害等やパンデミック等の有事の際であっても、病院運営すなわち医療提供を持続可能なものにする必要があると考えたためです。

BCP策定にあたり、まずBCM（Business Continuity Management）として、「災害医療の提供」「産科機能の維持」「透析機能の維持」の三つを掲げました。これらは当院の事業維持に必要な要素というだけでなく、地域において当院が果たすべき役割や期待される機能も加味して決定されました。

BCM決定後は、まず「大規模災害発生からの初期行動」の作成に取り組みました。従来の災害対策の考え方である「患者や職員をどのように安全に避難させるか」という発想から、「自分たちが甚大な被害を受けても医療を提供し続け、スピーディに日常へと回帰させていくにはどうしたら良いか」という発想へ転換することは大変難しく、活動初期は混迷を極めました。

しかし、検討と訓練を重ねていく中で策定主メンバーの中にBCPの発想が定着し、やがてそれが院内に少しずつ展開していきました。今では、大規模台風の接近が予想される際等には自然と「BCP」という言葉が使われ、事業継続にどんな影響があるかという視点で検討が行われるようになっています。それは、2020年に発生したCOVID-19パンデミックの際も同様であり、ニュース等で取り上げられ始めた2月の段階では、既にBCPとして検討の場が持たれています。

BCPとは災害対応ではなく経営リスクへの備えであり、有事の際にこそ社会的要請が求められる医療機関にとっては必須の計画です。私たちは今後も、BCPに関する検討や訓練、教育機会を重ねていくことによって、よりスピーディに判断・行動出来る、実現可能なBCPのブラッシュアップに取り組まなければなりません。

BCP

策定目的：事業の継続
策定視点：防災+経営視点
- 重要業務の継続及び早期復旧
- 医療提供の流れ全体（サプライチェーン）を通しての対応・対策

評価指標：
- 復旧時間・復旧レベル
- 経営や関係者への影響

各現場を巻き込む取り組み

情報伝達訓練のようす

備蓄食試食会での医師

分娩時におけるBCP訓練

2011 東日本大震災

震災避難児甲状腺検診のようす

「3月11日（金）夕方には、当院も加盟する全日本民主医療機関連合会の対策本部が開かれ、支援をスタートすることが決まりました。当院でも翌朝3月12日（土）朝9時から院長の招集で緊急会議を開催。義援金、支援物資、支援隊の準備を決め、急きょ支援隊を募り、第一陣には夕方出発予定で医師2名、看護師2名、事務1名の編成が組まれました。

会議室いっぱいになった物品をスーツケースに詰める職員、医局では避難所のアトピーの子どものために医師たちがワセリンの個詰め作業を行いました。

派遣された宮城県塩釜市の坂総合病院から20分も歩くと、寸断された道路や打ち上げられた船、累々と重なる車など、廃墟と化した街並みが広がっていました。全国の民医連から3月末まで千数百名もの支援者が入っています。当院からの支援隊も続々手が上がり、3月末までに30名近くが宮城県入りしています。

支援に求められることは日に日に変化しています。診療を応援しながらも避難所や家の訪問を行いだしていますが、高齢化が進んだ地で、看護・介護の要望が高いことが報告されています。住宅再建、仮設住宅建設、仕事場の再建など、生活再建へはまだまだ長い取り組みが必要です。」

耳原総合病院 機関紙「ぱーとなー」
vol.109　2011年5月発行
東北地方太平洋沖地震支援活動
事務長 近藤 聡（当時）より抜粋

東日本大震災にて日本に支援した国々
CC BY-SA3.0 via wikimedia commons

民医連と災害支援

民医連は1950年代の創立以来、災害救援に力を入れています。支援をきっかけに災害地で民医連が結成された歴史もあります。みみはらグループも実費診療所創立直後から、いち早く全国に支援隊を派遣してきました。

最初の組織的大規模救援活動は1959年9月伊勢湾台風です。阪神・淡路大震災（1995年1月）では「最も早い救援活動」と厚生大臣から謝意が示されました。神戸市内で救急車を1台も断らなかった3病院のうち、2つが兵庫民医連の病院でした。

初対面でもただちに「チーム」になり、専門性を活かし持ち場でなすべきことをスムーズに行う―災害医療は民医連医療の真骨頂のひとつといえるでしょう。

「最も困難なひとに寄り添う」DNAは、いまもBCPやレジリエンスの考え方やとりくみに息づいています。

支援用備品がならぶ総合病院内倉庫

2016 熊本地震

2016年4月14日から16日かけて発生した二度にわたる震度7の揺れで、熊本県北部から大分にかけて広範囲に被害が出ました。みみはらグループは大阪民医連を通じて益城町周辺と阿蘇を中心に医師6名、看護師7名はじめ全24名を現地支援に送りました。

私は4月19日から22日に現地入りした支援第1陣に参加し、熊本民医連のくわみず病院での診療支援の手伝い、避難所の公民館・体育館を訪問して健康相談に対応しました。また余震を心配して車で避難生活を送る人、そのまま自宅に留まっている方のところへも、熊本民医連の職員さんの誘導で一ヵ所一ヵ所訪ね歩き、「お体は大丈夫ですか?」「不安なことはありませんか?」と声をかけながら健康相談や診療を行いました。時には行く手を阻むかのように潰れた民家の瓦屋根が道路に迫り出しているなど地震直後の生々しい痕跡が印象的でした。

私たち支援者を案内する熊本民医連の職員にも、自宅が損壊したり、車での避難生活を送っている人がいたことを後から耳にしました。そんな中でも地域住民のためにと訪問行動に汗を流す熊本民医連の職員に改めて敬意を表したいと思います。

総合病院 事務長　森 高志

みみはらの人づくり

育ち合う基盤づくり

――オリジナルの「制度教育」

「頑張るぞ宣言」発表

くりかえし
学び

困難に寄りそって
行動
できる

同仁会は、「制度教育」を
①綱領を繰り返し学び、日常の実践の中で綱領を意識できる職場づくり
②事実をとらえ困難に寄り添い、人権を大切に仲間とともに行動できる職員育成の場
と位置づけてきました。2006年度から1日、2016年度からは半日を「制度教育」の場とし、非常勤を含む全職員を対象に年度内全30回の開催を継続しています。

制度教育は、職員教育という側面だけでなく、講師を職責者が担うことで職責者の学習の場、成長の場として定着しています。また他事業所、他部署の職員との貴重な交流の場にもなっています。地域ウォッチングやOB・OGの話、「憲法かべ新聞」・「班会メニュー」作成など患者利用者の目に触れる形での職員教育の取り組みが評価されています。

かべ新聞「26条 教育を受ける権利」

作成風景

制度教育　開催一覧

年度	方針・情勢学習（講義）	グループワークなど
2006	「地域で何が起こっているか」事例紹介 民医連の理念、歴史と綱領	同仁会戦略マップ2010年
2007	「社保テキスト」学習、南ブロック法人合併と同仁会の医療生協化について	地域ウォッチングとグループ討議
2008	第38期定期総会方針学習 民医連の医療・介護再生プラン	格差社会とセーフティネット
2009	新綱領草案、DVD「民医連の歴史をふりかえる」	GW「社会資源の活用」 ＊ライフイベントと社会保障制度の関わりを調べ、「自己責任論」について考える
2010	第39期定期総会方針学習 同仁会60周年：歴史と理念	GW「社会問題と民医連」 ＊国賠裁判当事者の体験談を聞き、生存権やいのちの平等を捉える
2011	役責者の役割と必要な能力 同仁会の歴史とビジョン	GW「まちづくりウォッチング」 ＊視覚障害者、歩行困難者の視点で安心して住み続けられるまちづくりを考える
2012	役責者の役割と任務 第40期総会方針学習 個人情報保護とプライバシー保護	生活保護「都市伝説」を斬る ―医療従事者として「正しい」法制度の解釈をしよう（ワールドカフェ方式）―
2013	第40期第3回評議委員会方針 個人情報保護とプライバシー保護 DVD視聴（福島の今を見る）	同仁会2020年ビジョンを考えてみよう （ワールドカフェ方式）
2014	医療介護総合確保推進法のねらいと あるべき地域包括ケアについて（紙芝居） 第41期総会方針第1回評議員会方針学習	私と同仁会 GW「わたしたちが継承すべきこと」 ＊OB・OGより同仁会への思いや関わりを聞き、未来に向けて継承すべきことを考える
2015	第41期第3回評議員会方針学習 ネット社会における情報流出の危険性と 個人情報保護方針について	憲法学習：憲法の心を医療・介護の実践と暮らしに活かすために「憲法っていいね」 かべ新聞づくり
2016	健康の社会的決定要因（SDH）について学習講義とGW GW/キーワードから民医連・同仁会がとりくんできた活動とその意義を考える （ファシリテーター：師長・課長・技術科長）	
2017	全国・同仁会の歴史から学ぶ民医連運動 GW/キーワードから民医連・同仁会が取り組んできた活動とその意義を考える （ファシリテーター：師長・課長・技術科長）	
2018	①個人情報保護学習 ②HPH活動を健康友の会みみはらとともに GW/テーマを選び友の会で活用する紙芝居（パワーポイント）作成	
2019	①個人情報保護学習 ②「民医連綱領」に照らしてSDHを学ぶ GW/事例をもとにSDHの視点を深める（事例紹介：医師、管理事務）	
2020	①個人情報保護について、SafetyPlusを活用して学習 総合病院は独自にクイズ形式で学習 ②学習用パワーポイントを使って各職場でSDHと無料低額診療の学習を行い、それに基づく行動計画を実施する	

※GW＝グループワーク

医療は“サービス”ではない、かけがえのない権利 ——「無料低額診療事業」

「今、医療機関でボランティアをしています」。

総合病院に入院され、最初に無料低額診療事業制度を利用した方の退院後第一声です。2006年全日本民医連は「お金がなく、病院に行けずに手遅れで亡くなる方が後を絶ちません。無料低額診療事業制度活用を」と呼びかけました。同仁会では2009年に同事業を開始し総合病院、4つの医科診療所と歯科診療所、そして老健施設の計7事業所で実施しています。その後利用者も減免料も徐々に増え、2020年は新型コロナウイルス感染症が影響したこともあり前年比1.5倍になりました。

前述の患者さんは入院中の同室者から無料低額診療事業制度のことを聞き、ケースワーカーへの相談につながりました。制度とみみはらで実施していることをもっと知ってもらわねばとその後パンフレットやポスターを作成し、堺市にも広めてくださるよう申し入れをしています。

無料低額診療事業制度活用は全日本民医連の無差別・平等医療の一環です。本来は政府・国会が憲法に基づき、支払い能力で受診が左右されないよう政策をすすめるべきです。

堺市内西湊地区で400年続く漢方薬局の母屋にかかる明治期の価格表には二銭から十銭の薬価とともに「薬代の支払い期限は七月と年末、ただし貧者には適応しない」とあり、経済困窮者には支払い猶予をしていました。現在この制度では薬代は自己負担です。国にはこの点を改善させるとともに医療費の自己負担自体を減らす政策を求めていきます。

前理事長　斉藤 和則

（制度教育のグループワークで作成、発表）

いのちを守る歴史的使命

——ICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）の一員として

私たちは民医連綱領のもとに反核・平和運動に取り組んでいます。

現在世界には1万3千発の核兵器が存在します。また広島・長崎の時代とは異なり、一発でも使用されるとまたたくまに報復・応酬の核戦争に陥ります。欧州での一発から短時間で欧州壊滅のシミュレーションがアメリカの有名大学で作成されています。インド・パキスタンでの50発の核戦争が起こると南アジア全体の終末的破壊だけでは済みません。世界規模での放射能汚染、また噴煙が太陽を覆い全世界での農業の不作、飢饉によりいわゆる「核の冬」が起こり全人類の生命と健康が短期間で脅かされるのです。

長年の広島・長崎の被爆者の皆さんの声が「核兵器は非人道的兵器」として国際社会を動かしました。2021年1月、長年の夢だった国連の「核兵器禁止条約」が国際法として発効しました。しかし条約の発効は終わりではなく始まり、正念場は正にこれからなのです。民医連・保団連からなる「反核医師の会」では、ICAN（2017年ノーベル平和賞受賞）の一員として「Don't Bank On the Bomb」：核兵器製造企業に融資をするな!の核兵器廃絶に向けた具体的行動を行っています。

ひとりの人間として、医療者としてこの世から核兵器を完全に廃絶することを切に望んで活動を継続していきます。

総合病院 大腸肛門科部長　平林 邦昭

全日本民医連の医師らと（IPPNW.カザフスタン大会 2014年）

事業所ごとに「9の日」行動

毎夏継続して参加「国民平和大行進」

みみはらのいのちを守る活動

いのちと暮らし、生活に直接関わるみみはらグループの全事業は70年前の創設以来、「権利としての社会保障」の理念に貫かれています。必要な受診やサービスを受けることをためらうひとをなくすために、また「無差別・平等」の根底をなす平和を希求するとりくみも、世界中の人びとと手をとりあって取り組んできました。

医療、介護、福祉のネットワークや提供体制が拡張し時代は変わっても、平和と無差別・平等の旗印はこれからも高く掲げ続けます。

みみはらな出会い

異文化コミュニケーションの始まり

忙しくなって、患者さんや同僚といろいろな話をする機会が減りました。また、我々医療人のような専門職はいわゆる「専門バカ」になりがちです。患者さんの物語を聞くときに予備知識として多くのひきだしを持つことは、患者さんの背景に肉薄できるのではないかと考えました。そして、もともと人の生きざまに興味があったこともあり、各方面で頑張っておられる人の話を聞いて、それを肴に少人数で会話をしようとして始めました。途中からは少人数での会話がなくなり、話を聞くだけの会になりましたが、非常に興味深い方々との出会いがたくさんありました。

提唱者：前病院長　奥村 伸二

異文化コミュニケーション・カンファレンス 開催実績

2011年度

第1回
NYハーレム再生の12年間
リムボン（立命館大学教授）

第2回
医療をめぐる貧困ビジネス
生田 武志（野宿者ネットワーク代表）

第38回
ジャック・バイエ師範のらくらく健康合気道
ジャック・バイエ（立命館大学客員教授）

2011—2012年度

第3回
“感動伝達人”ひとづくり
森 忠延（井戸書店代表取締役）

第4回
児童福祉と憲法
黒田 孝彦（総合社会福祉研究所）

第5回
ヤッサン一座の紙芝居
ヤッサン一座

第6回
定時制課程の日常
小西 順治（大阪府立春日丘高校定時制教員）

第7回
高齢障害者への情報伝達
植田 章（佛教大学教授）

第8回
植田元監督をむかえて
植田 辰哉（元バレーボール全日本男子代表監督）

第9回
平和のとりくみ報告会

第10回
大山桜を守るとりくみ
里野 龍平（大山桜の会 代表）

第11回
鉄道会社の安全文化
谷口 保孝（元南海電鉄運輸教習所所長）

第12回
日本軍事毒ガス兵器 被害者支援
中川 元（小児科医）

第13回
医療現場におけるアートの可能性
森口 ゆたか（NPOアーツプロジェクト理事長）

2013年度

第14回
ロシアの現状と日本・ロシアの友好のために
安木 新一郎（大阪国際大学講師）

第15回
ファシリティマネジメントとは
筧 淳夫（工学院大学教授）

第16回
せりふ入りトーク“歌舞伎”から“赤ひげ”まで
嵐 圭史（劇団前進座 歌舞伎俳優）

第17回
宇宙船“地球号”の未来を考えよう—エコ・フットの理解と活用
白井 浩子（おかやま環境ネットワーク理事）

第18回
狙われているのは私たち—とっても怖い秘密保護法案
井上 耕史（堺総合法律事務所弁護士）

第19回
パペットを介入して生まれるものとは
すえなが ひさし（夢のおもちゃ箱代表）

第41回
生命を表現するイラストレーション
小田 隆（成安造形大学准教授）

2014年度

第20回
インド古典舞踊&みみはらインドカレーの夕べ
花の宮 祐三子（インド舞踏家）

第21回
病院の中におけるアートの可能性とは
山口（中上）悦子（大阪市立大学准教授）

第22回
究極のホスピタリティーとは
平井 祐範（大阪市立大学大学運営本部研究支援課長）

第23回
堺 打ち刃物 よもやま話
味岡 知行（堺打刃物認定伝統工芸士）

第24回
画廊のお仕事—「アート」業界こぼれ話
天野 和夫（天野画廊主宰）

2015年度

第25回
ネット、コンビニ時代と大阪的食コミュニケーション
江 弘毅（作家・編集者）

第26回
百舌鳥古墳群と陵墓
久世 仁士（大阪府文化財愛護推進委員）

第27回
まちライブラリー 本でつなぐ—コミュニティ
礒井 純充（まちライブラリー提唱者）

第28回
風力で発電する“動く彫刻”—環境をデザインするということ
増田 頼保（アルテス・トラストス代表）

第40回
病院の“音環境”をつくるプロジェクト
小松 正史（京都精華大学教授）

第39回
芸術と民主主義
阪本 洋三（近畿大学教授）

2016年度

第29回
幸福度世界一のデンマーク その教育と社会システム
YUKO TAKADA KELLER（アーティスト）

第30回
銀行のお仕事 うら・おもて
山本 久美子（りそな銀行堺支店支店長）

第31回
日本一の図書館ができるまで
吉成 信夫（岐阜市立中央図書館館長）

第32回
わたしの歩み 山とともに
辰野 勇（株式会社モンベル取締役会長兼CEO）

第33回
笑顔になる瞬間
北川 孝次（写真家）

第35回
ハートウォーミングコンサート
新井 宗平（元NHK教育TV歌のお兄さん）

第34回
地球の果てから星の誕生をさぐる
西村 淳（国立天文台野辺山 研究教育職員）

第36回
なにわホネホネ団 参上
団長・副団長（大阪市立自然史博物館）

第47回
伝えるのは命・つなぐのは命～今は未来のために～
坂東 元（旭山動物園園長）

2018年度

第42回
環境色彩心理学 心を癒やし支える学門
木村 千尋（宝塚大学講師）

第43回
ソーシャルアートからお笑い系アートまで
西野 昌克（近畿大学教授）

第44回
アートって何? 社会って何?
梅原 宏司（近畿大学教授）

第45回
銀河365億年の旅—病院がプラネタリウム—
井村 智弘（NPO法人 星のソムリエ京都）

第46回
命に国境はない—紛争地イラクでの人道支援と復興の課題
高遠 菜穂子（ボランティア活動家）

2019年度

第48回
ヒューマン・コメディーの採用支援
—chance!!が繋ぐ刑務所と社会—
三宅 晶子（株式会社ヒューマン・コメディ代表取締役）

第49回
癒されながらつくっています—羊毛セラピー—
かまい なおみ（ギャラリーYAIRA）

第50回
歴史の「公的記憶」とは?
—未来志向の関係性を作るために—
石田 勇治（東京大学教授）

第37回
里親制度ってなあに?
（公社）家庭養護促進協会

みみはらとわたし

70周年を迎えた「みみはらについて」職員にアンケートを行いました。そのなかで「わたしにとってのみみはら」をエピソードを交えて、表現してもらいました。70年の歴史に裏打ちされた信頼と姿勢。その背骨には、ゆるがない「無差別・平等」の理念とそのバトンをしっかり受け継いできた、すべてのスタッフの息づかいが聞こえてきます。

自分の事ですが。約40年前に耳原総合病院で生まれました。血液型不適合で黄疸が酷くで急遽、新鮮血のO型の血液が必要になり親族だけでは足りなく当時のスタッフの皆さんが協力してくれ血液をいただき交換輸血が行えました。そのお陰で命を助けていただき現在耳原グループで15年ほど働かせていただいています。

無料低額診療が受けられる。

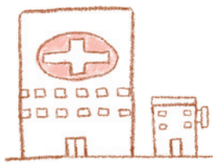
セラチア菌感染の時隠さないで公表したこと。保健所に勤めている知人から、耳原は正直に公表してくれたから大好きと言われました。その方は、今大阪府のコロナ対策委員で頑張っておられます。

友の会の存在は、
他の医療機関からは
羨望されてると感じます。

前倒産状態でも
個室料を取らなかった。

全国の民医連病院や診療所から多額の寄付が届き、銀行からの借り入れも出来て、倒産をまぬがれることができた。家が無くても、安心して退院できるように家を探し、生活保護取得につなげてくれる。

退院する家がない、お金が無いとなっても必ず何らかの支援をしている。病院が倒産騒動になった時も個室料金はもらわなかった。セラチアの件で患者さんが一旦は減ったがまた受診してくれるようになった。



40年前のことです。当時は訪問看護はありませんでしたが、ALS（筋萎縮性側索硬化症）の患者さんの自宅で過ごしたいという願いをかなえるために、医療ソーシャルワーカーとも協力して、病棟から交代で見守り訪問活動をしたこと。経済的な困難があって、脳梗塞で倒れたご主人を自宅で一人で看ていた妻が、やっとの思いで耳原に掛かり「助かった!」と涙ぐまれたとき、良かったと思うと同時に「その患者さんに必要な医療・看護を提供する」という当たり前のことができない現実を教えられました。「当たり前」に近づくために……

お金が無くても、家がなくても
安心して入院できる。

ずいぶん昔は、がん末期患者の希望を叶えるために一丸となって取り組んだことがあったなーと思う。

いざとなると団結して物事をやり切る力がある。病院の建設もやり切った。失敗を怖れずチャレンジし、ダメならば、切り替え早く次にチャレンジする。そんな強さがあると思います。

毎年必ず健康まつりに来てくれる人が沢山います!!
きさくに会話ができ地域の人達と絆が深まっていると感じます!

無料低額診療を行い、かかれないとあきらめかけていた人の助けとなった報告が聞け、地域医療に貢献していると実感できることです。

オンラインアンケート「あなたが思うみみはら そして、次の10年にむかって」より（2021年2月実施）

Ⅲ. 10年後のわたしへ

未来の仲間たちへ

同仁会 前看護部長　森岡 徳子

私は、1955年広島で生まれました。叔父は原爆で亡くなり、叔母も被爆。中学の国語の先生も被爆者でした。核兵器の怖さや、戦争と平和について考える機会のある環境で育ちました。

「傷ついた兵士を看るより、戦争のない平和な日本を!」「公害喘息で苦しむ人への最大の処方は、きれいな空気!」。声を上げることの大切さを感じ、学生運動を通して1976年、民医連・同仁会に就職しました。

別館2階病棟（旧病院）で勤務していた時のことです。当時はまだ訪問看護はありませんでしたが、ALS患者さんの自宅で過ごしたいという願いをかなえるために、MSWとも協力して病棟から交替で見守り訪問活動をしました。また、脳梗塞で倒れた夫を自宅でひとりで看ていた妻は、経済的困難を抱えておりやっとの思いで総合病院にかけこみました。入院費は保険の範囲内で差額ベッド代もかからないと知り「助かった」と涙ぐまれたとき、「良かった」と思うと同時に、「必要な医療を受けたい」という当たり前のことができない現実があることを教えられました。

民医連の看護師になって45年。私の支えとなっていたものは、私を看護師にしてくれた患者さん、そして一緒に働く仲間の存在です。群れて、学んで、たたかう仲間が、そこにいた!

今までも、これからも、「当たり前の医療・介護」をめざして、声を上げ続けたいと思います。

「いのち」をまもるため、患者さんと一緒に、病気とたたかう。
医療に格差を持ち込む、制度とたたかう。
いのちを奪う、戦争とたたかう。
「たたかうって、けっこうカッコイイ」

（全日本民医連看護パンフレット「キラッと輝くたからもの」より）

未来へつなぐ確かなバトン

専務補佐　柴田 康宏

高齢化が進む組織において、世代交代は喫緊の課題です。総合病院では、「10年後の幹部を養成する」というミッションを設定し、3年間3泊4日の次世代研修合宿を行いました。

中期計画の一連として将来の次世代管理者育成のため、プロジェクトを2016年9月に発足させ、10月には次世代の取り組みの意義を管理者会議メンバー対象に確認し、研修対象の層に意識アンケートを実施しました。研修の対象者を選出、カリキュラムを決めて研修の実践に取り組みました。本来定期的な研修会を実施し、次世代管理の意識の浸透を図りたいところでありましたが、時間確保がなかなか困難なため、3泊4日の外部研修施設での合宿としました。各職種から毎年10数名を選出し、2017年度から2019年度までの3年間で、45名が受講しました。2016年当初は10年後の幹部職員を目標にしていましたが、すでに5年後の2021年にはこの研修を経た多くが幹部職員として活躍しています。

第1期生（2017年）のメンバーと

次世代研修 修了生（2017年–2019年）

医師	6名	リハビリ技師	3名
歯科医師	1名	臨床検査技師	3名
看護師	9名	放射線技師	4名
事務	10名	臨床工学士	3名
薬剤師	3名	管理栄養士	2名
		調理師	1名
		計	45名

Beyond 2030

未来へのメッセージ

20代−40代若手職員に
「2030年、あなたのありたい姿」を
たずねました。

❶10年後の理想の**みみはら**
❷10年後の理想の**自分**

2030年――あなたはどこで何をしていますか?
「民家の二階」ではじまったわたしたちの歴史は、はるか70年の軌跡が足元から続いています。技術を磨き、仲間を増やし、地域を知り、病のあるひとや地域住民とともに歩んできた道のりです。
建物もまちなみもひとも時代も、ずいぶん変わりました。変わることのない「命の平等」「平和の尊さ」を胸に刻んだあなたの今日の一日が、また新たな10年を育んでいるのです。

社会は変わる、私たちが変える。

❶ ITによる効率化で患者さんに安心、私達に働きやすさを!

❷ その時の自分を肯定でき、誰かの力になれるように。

事務　阪口 和人

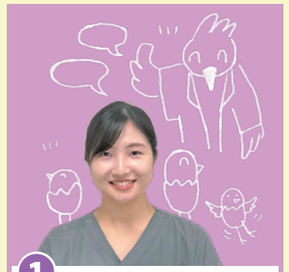
失敗を積み重ね、失敗で終わらない

❶ 強固な財務基盤、盛者必衰に抗う。

❷ お金で悩まない経済的自由を手に入れている。

事務　植田 恒平

日進月歩



❶ 男女関係なく、仕事と家庭を両立できる職場。

❷ 医師として後輩を指導できるようになりたい。

医師　細谷 聖美

必要なものはそれぞれ

❶ ここでよかった、と思える病院。

❷ 困っている人を助けられる人でありたい。

医師　坂本 祥大

今日もよい日でありますように。

❶ 「やっぱり耳原で良かった!」と言ってもらえる病院。

❷ 最期の時まで患者さんと一緒に光を見つけられる看護師でありたい。

看護師　川﨑 まみち

継続は力なり

❶ 地域住民から信頼され、魅力のある病院。

❷ 仕事もライフワークも充実した中年。

事務　宅田 由平

楽しくなきゃ始まらない!

❶ 大声で「耳原ってええよ!」って言える。

❷ おもしろおかしく真っ直ぐに生きていたらOK!

事務　里﨑 桂

今、困難の先にある絶景

❶ 僕たちの理念が社会の確信となっている。

❷ 学び続けていたい。山から、人から、本から。

事務　川畑 望

共有したい、同じ想いを

❶ 職種間の垣根を越える人材をたくさん育てることができる。

❷ 挫けず、負けず、衰えず、常に発信し続けることができる。

検査技師　會野 進

艱難汝を玉にす

❶ コミュニケーションが活発であり、自分の意見を言いやすく、チームのメンバーそれぞれが全員の意見を受け止める職場。

❷ 料理が上手く出来る様になり、美味しい物を食べてもらいたい。

介護福祉士　中尾 甲介

笑顔溢れる未来へ

❶ 患者さんやスタッフみんなが笑顔になれる職場。

❷ ワークライフバランスを大切に働いていきたい。

看護師　是枝 涼香

変わるものと変わらないもの

❶ 自己資本比率50%

❷ 真摯にひたむきに。勇気と遊び心も忘れずに。

事務　石井 慧介

Beyond 2030

笑顔で乗り越える

1 組織を横断し安心して患者、家族にまかせてもらえる。

2 スタッフや患者さんと共に笑って過ごせている。

看護師　高見 利恵

家族、地域…くらしの看護師

1 「なぜみみはら?」に応えられる職員が増えている。

2 その時、自分ができることを更新し続けている。

助産師　大久保 倫世

患者さんの視点を大切に

1 体と心のケアが行き届く。

2 患者さんやスタッフに貢献できるように。

看護師　小林 孝他

ラブ&ピースでみんな笑顔♡

1 “どこで過ごす”を選んでも、支えきれるみみはら。

2 引き継いだ耳原らしさ私たちらしく守り伝えたい。

看護師　細川 奈津紀

やっぱりみみはらが1番!

1 どの施設でも1番に信頼される、みみはらに。

2 いつまでも初心を忘れずにどこでも頼りにされる臨床家に!

理学療法士　松山 裕貴

食べるの大好き

1 みんなが働きやすい職場。

2 山に川に海、楽しみながら生きていきたい。

調理師　山部 和佳子

人生楽しんだもん勝ち

1 職種関係なくコミュニケーションが取りやすく働きやすい職場。

2 少しでも楽しいと感じる瞬間が多い生活を送っていたい。

理学療法士　茶谷 将広

みんな違ってみんな良い

1 互いの違いを認め合え支え合える組織。

2 ワークライフバランスを保ちながら自分の人生を楽しんでいる。

看護師　谷 祐佳

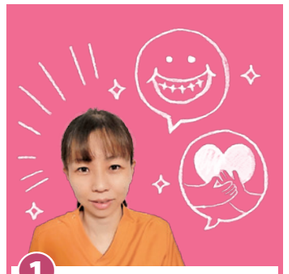
千里の道も一歩から

1 笑顔があふれ働きやすい職場環境に。

2 頼られる存在になっていたらいいかな。

介護福祉士　中川 博法

何事も楽しみながらチャレンジ!



1 笑顔でなんでもよく食べられると言ってもらえる歯科。

2 毎日が楽しく心に余裕がある人になれたら良いなぁ。

歯科技工士　勝間 由紀子

医療、福祉が良くなる社会へ

1 患者、利用者、職員の要望が反映され、「みみはらで良かった」と思える組織に。

2 健康で働き続け、社会貢献できる職員になりたい。

介護福祉士　岸上 耕平

一歩ずつでも目標達成

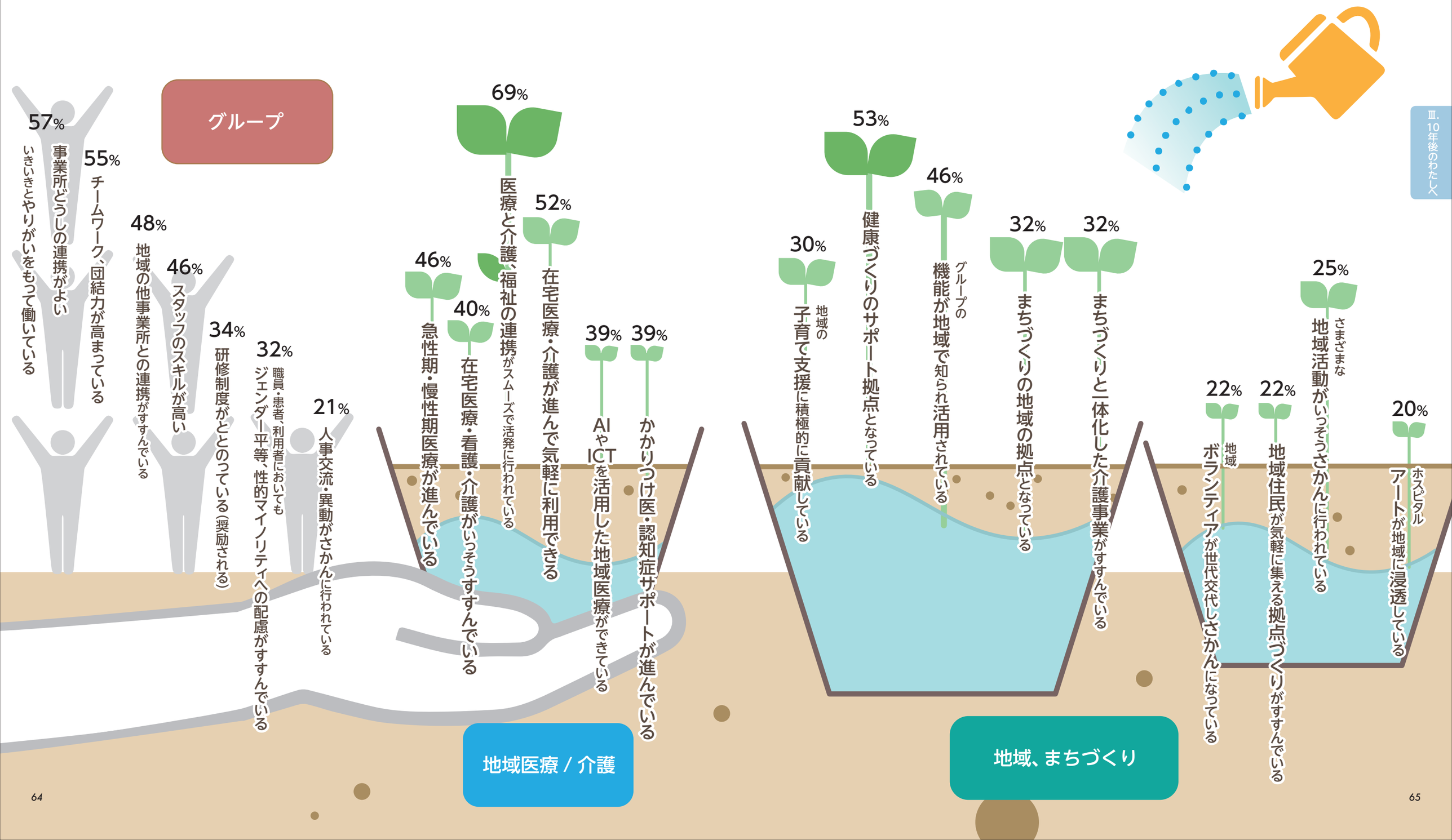
1 皆が働きやすく、笑顔溢れる職場で長くいたい組織でありたいです。

2 趣味も仕事も両立させていたい。

薬剤師　和田 敏生

2030 アンケート結果 年にありたい姿

みみはらグループを支えるスタッフに、「2030年にありたい姿」をたずねました。70年の歴史と実績、ゆるがない理念を土壌に、期待と多様な可能性の芽が見て取れます。小さな診療所で芽吹いたみみはらグループ――いっそう葉を広げ根を張り、ここに集う誰もがその人らしく力を発揮でき、安らぎ憩える“みみはらの樹”を目指します。



Ⅳ. 持続可能なまちへ

安心して住み続けられるまちづくり

――10年後のみみはらグループを展望して――

10年後を展望する事は、なかなか難しいものです。私たちは20年前、前倒産とセラチア菌院内感染と言う、事業の存続そのものが危ぶまれる事態に陥っていました。10年前には、何とか事業を支えながら耳原総合病院建て替え計画に着手を始めました。現在の同仁会とみみはらグループの到達点が、当時に想像できたでしょうか? 耳原総合病院建て替えには「今の経営力量では無謀」との指摘が少なくありませんでした。同仁会前倒産の大きな負の遺産を抱えながら、さらに大規模な投資を行い、この10年間を全役職員は必死に走り抜いてきました。その結果、私たちは経営体質を強くすることができ、悲願であった債務超過解消まであと一歩に迫っています。

ポジショニングを明確にして地域連携を強化し、事業を拡大し、みみはらグループ運営を行なってきたことの成果が、2020年1月から始まったコロナ禍をも乗り切れる力を育ててきたのです。この力の源は、私たちのブレない理念、理念を実現するための人づくり、事業内容と社会的運動に対する周囲の温かい支持、そして健康友の会みみはらの力強い応援です。これからの10年、これまでと同様に、今からは想像できないほどの前進をみみはらグループとして果たしたいと思います。そのためには今後も変わることなく、「私たちの力の源」を守り続けなければなりません。

今後10年の世界の流れで言えば、「地球温暖化」、「核兵器禁止条約」、「ジェンダー平等」は、人類存続の課題として大きな前進を勝ち取る必要があります。安心して住み続けられるまちづくり、無差別・平等の医療・介護・福祉の実現のためにも、私たちがこの分野で力を発揮しなくてはなりません。

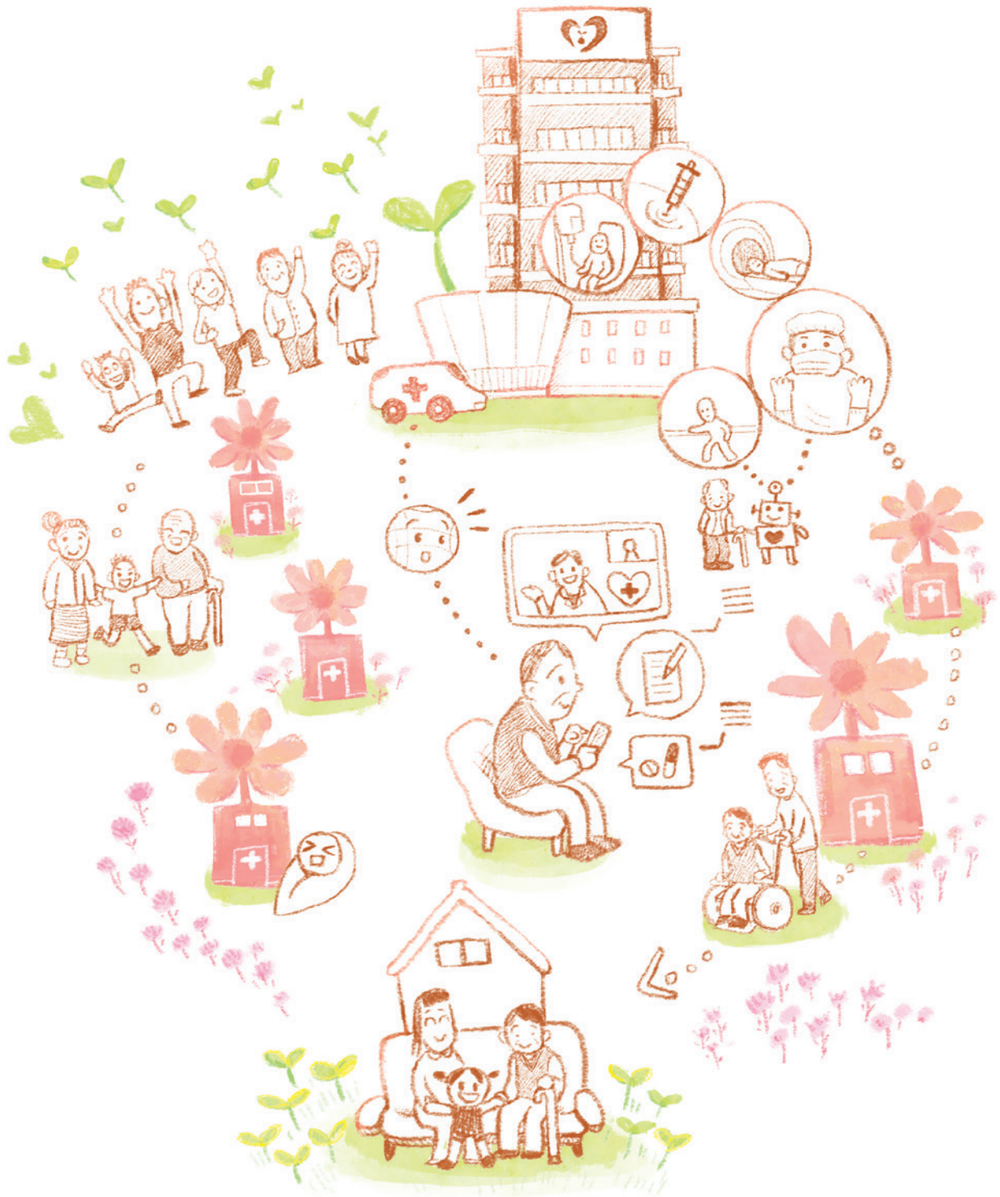
最重要課題は人づくりだと考えています。現場での学びの重視、教育機会の確保、学びの省察と共有、人づくりを進めるリーダーシップ、教育システムのさらなる拡充が必要です。人を育てる文化、討議する文化を作りあげていきましょう。

事業を拡大していかなければ、経営、運動、人づくりも前進しません。みみはらグループ運営協議会議長として10年後に今よりも大きく前進しておきたい事業は、「亜急性期医療」、「在宅医療」、「高齢者住宅」、「子育て支援」、「介護事業」、「認知症サポート」、「有償ボランティア」、「まちづくりとアウトリーチ」、「災害対応」、「ICT活用」などです。

みみはらグループは大阪みなみ医療福祉生協とも連携しながら、「民医連綱領」を多くの人々と協力して実現する組織として地域に根を強く張っており、健康友の会みみはらは幅広い年齢層により拡大・前進しており、地域各種団体とは「広くゆるやかな連携」を構築して、安心して住み続けられるまちづくりに大きく貢献している。この姿を目標に、皆さんとともに歩んでまいりたいと思います。

社会医療法人 同仁会 理事長
田端志郎

無差別・平等の
医療・介護・福祉



このまちの「ハブ機能」になる

――10年後の耳原総合病院を展望して――

今から10年先ともなりますと医療技術も進歩しますし、病院として求められる医療機能も、地域包括ケアシステムの中における病院の立ち位置も大きく変化していることでしょう。

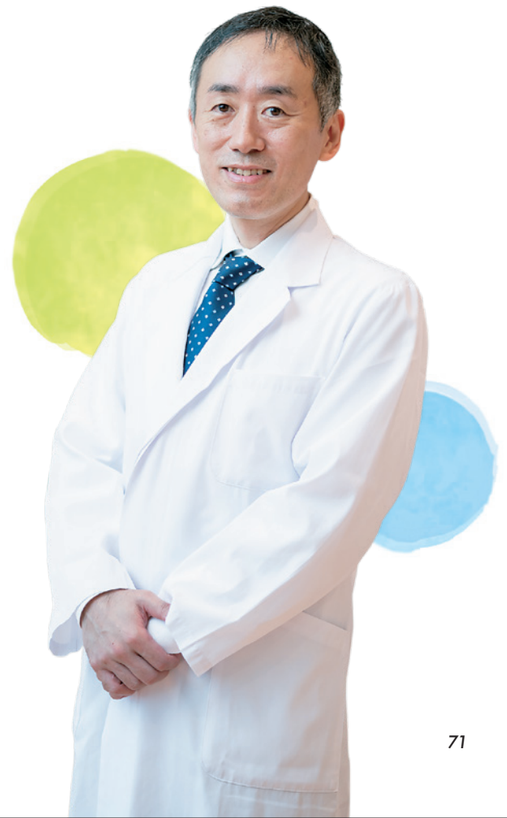
がん診療をはじめゲノム医療がごく一般的になり、患者さん一人ひとりの体質や病状に適したテーラーメイドの治療が当たり前になっているかもしれません。手術、リハビリテーション、介護などの分野におけるロボット技術の導入なども進んでいるかもしれません。

最近はオンライン診療が話題になっていますが、医療分野でのデジタル化はますます進みます。患者さん自身が自分の検査データや処方薬などをスマホやタブレットで管理できるようになるでしょう。定期的に病院に足を運ぶこれまでの通院スタイルから、オンラインでの日常診療が主流となったり、入院中の面会や病状説明もオンラインで行うのが普通の光景に変わったりしているのではないでしょうか。人工知能（AI）を用いた検査や診断が導入されたり、仮想現実（VR）技術が医療職への教育や技術研修、患者さんへの説明や指導などに使われたりしているかもしれません。

少子高齢化が進む社会における医療は、今よりもさらに老年期医療、高齢者救急、在宅医療にシフトしていくと思われますので、病院にも在宅医療や介護サービスと連携する力がこれまで以上に求められます。地域では、病院間の役割分担と連携、クリニックや介護事業所との連携が一層進むと思われます。病院が求められる役割は救急や手術などの高度な医療や手厚い医療に特化していくことになるでしょう。そして病院の外来は入院前後の診察や検査、がんの化学療法、血液透析などに集中し、日常診療は地域のクリニックに担っていただく形になっていくでしょう。また一方で入院医療機能や検査機能のみならず、健康づくりや疾病予防のセンターとしての病院の役割がこれからは重要になっていくのではないかと思います。

どのような時代になったとしても、耳原総合病院はこれからも「まちづくり」に関わっていきたいと願っています。病院がハードとしてもソフトとしても、人びとと医療介護、人びとと地域社会を結ぶハブとなる。地域に暮らし、地域で支え合う人びとの絆の強さ、その象徴として病院が「まちのシンボル」となる。そんなイメージです。医療も介護も、日々の暮らしも、そこに関わるのは人です。「まちづくり」の視点を持つ職員を育てながら、地域のみなさん、健康友の会みみはらのみなさんと一緒に10年先に向かって進んで行きたいと思います。

耳原総合病院 病院長
河原林正敏



大阪でいちばん安心して子育てできるまちのために

チルドレン&ウィメン・ヘルスケアセンター ＣＷＨＣの社会的役割

「いのちのつながり」を表現したホスピタルアート（2021.8.完成）の前で

当院で勤務、出産、育児の助産師とベビー

CWHC（Children&Women-Healthcare-Center）は、少子化に伴う医療対象者の減少という現状において、地域にとってなくてはならない産婦人科と小児科の存続を図ること目的に、両科が連携して発足しました。当面の課題として、①分娩数を増やすこと、②当院の小児科と親和性の高い母児を増やすこと、③社会的弱者に寄り添う医療を展開することとし、それを達成することで地域に必要な両科であり続けることができると考えました。

分娩数については、新病院開院以来、増加の一途をたどり、年350件程度であったものが年700件まで倍増しました。大阪でもっとも低い分娩費用額に抑えながらも、どこにも負けない医療安全性（超緊急帝王切開対応・産科危機的出血対応・NICUの開設）と全室個室などのアメニティを提供することに成功したことが倍増した要因であると考えています。分娩数が増加することの効用は、1）口コミが増えて良循環が持続する、2）当院の小児科と親和性の高い母児が増える、3）研修施設としての価値が上がり産婦人科・小児科の専攻医が集まり活気が増し、スタッフ医の就職が増える、4）助産師の就職が増えて安定した病棟運営が可能となり、より密度の高いお産を提供できることにあります。

CWHCの目玉は「母子ケアチーム」と「スマイル入院」の活動です。母子ケアチームは、社会的・精神的に困難を抱えた妊婦に早期に関わることで、分娩時の困難を乗り切り、児の成長にまで注意をはらう活動です。スマイル入院は、障害児をもつ家庭の負担の軽減を目的としています。地味で根気が必要な活動ですが、チームのメンバーはその社会的意義を実感し努力を継続することで、地域における存在感を示そうとしています。

2020年度は、堺市に限らず全国で出産が減少したとの報道がありましたが、当院では増加し過去最高の分娩数となりました。社会的・経済的弱者が増加しており、そのことが分娩先として当院を選択する要因のひとつとなっているのではと推察しています。

今後もCWHCの活動を継続し、地域に必要な医療機関であり続けたいと考えています。

副病院長　坂本 能基

健康なまちづくりは、友の会とともに

1984年11月に耳原友の会(設立当時1,402世帯)として設立した健康友の会みみはらは、会員数約39,500世帯、92,000人の組織となり、地域の人々の健康と福祉を増進する運動や、医療制度と社会保障の充実、安心して暮らせる地域づくりを目的として取り組んできました。

私たちの取り組みが、地域の「まちづくり」にどのように貢献しているかを点検する企画として、2019年8月31日にみみはらホールで大阪民医連南ブロックまちづくり学習会を開催、同仁会理事でもあり、立命館大学教授のリムボン先生に「リム流」まちづくりとして、「エリアを限定した社会貢献活動」についてお話していただきました。その後、総合病院をはじめとした事業所や友の会活動を、経済活動、雇用創出、昼間人口、環境整備、安心安全、文化の向上等の項目で総点検を行いました。

この企画の中で、同仁会70年の事業活動と友の会活動が、地域のまちづくり、健康づくりに大きく貢献してきたことに確信が持てるとともに、将来に向けての課題も明らかとなりました。その内容をブックレット『まちづくり指南書』として出版することが出来ました。

副理事長　土井 康文

同仁会ステートメント

私たちの事業所は、1950年に『お金のあるなしに関わらず誰でもかかれる医療機関を』と地域の方々が100円ずつお金を出し合って診療所を作ったことから始まりました。その想いを受け継ぐのは私たち自身です。

● 私たちが見失ってはいけないこと

「職員を含めすべての人々の人権を守ること」、「社会運動を前進させ政治を変えること」の課題は、後回しにできません。私たちの立場を鮮明にして内外に指し示します。

● 私たちの「心柱（しんばしら）」

五重塔は、地震で揺れてもきしむだけで元に戻り決して倒れないのは心柱のおかげです。私たちの事業も大切な心柱があれば、少々揺れても倒れずしなやかに目指すべき目標に向かっていけるでしょう。ともすれば弱気になりそうな私たちの心を叱咤激励するように働いてくれるでしょう。何を宣言したのか、私たちの心柱として内容を心に刻みます。

● 私たちの具体的な変化と行動を作り上げます

4つのステートメントは行動計画でもあります。内容を推進する具体的な仕組みを作り、私たちの実際の行動変容を促進していきます。
私たちは4つのステートメントを自らのものにし、前へ進んでいきます。

1 同仁会はジェンダー平等の社会を推進します

ジェンダー平等実現に向け、学び考え、多様性を認め合い、一人一人が大切にされ、誰もが自分らしく生きられる社会をめざします。

2 性の多様性を認め合える組織へ

性のあり方に関する「個の尊厳」を支えるため、LGBTについて学び、医療・介護の現場において、その権利の擁護に取り組んでいきます。

患者・利用者さん、ともに働く職員の性のあり方の多様性について理解・配慮し、受療環境の整備や適切な医療の提供に向けて取り組みを着手するとともに、職場環境や就労制度の整備を行っていきます。

3 互いを尊重しあい、ハラスメントが発生しない職場づくりをめざそう

誰もが自らがハラスメントを起こす可能性があることを自覚して言動を行うこと、職員がお互いの経験や能力・考え方を認め、尊重しあう職場風土を築くこと、職員が些細なことでも「相談できるのだ」と思える職場環境を整えることが必要です。

4 平和、地球環境、人権を守る運動を現場・地域から広めよう

医療や介護の担い手にとって平和を守ることは責務です。私たちは、戦争や原爆の悲惨さを学び語るとともに、人類の生命と健康を破壊する一切の戦争政策に反対し、核兵器をなくし、平和と人権、環境を守る運動を職員と健康友の会みみはらの共同で取り組んでいきます。

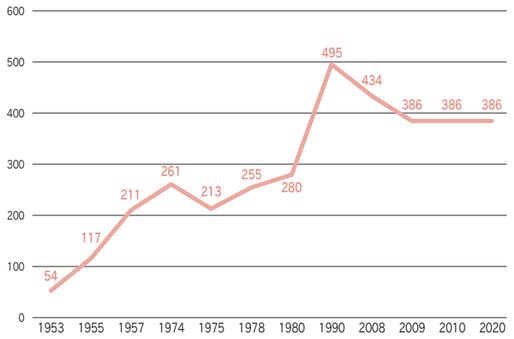
2021年2月17日　社会医療法人同仁会拡大常任理事会（抜粋）

V. 巻末資料

社会医療法人同仁会　歴代役員

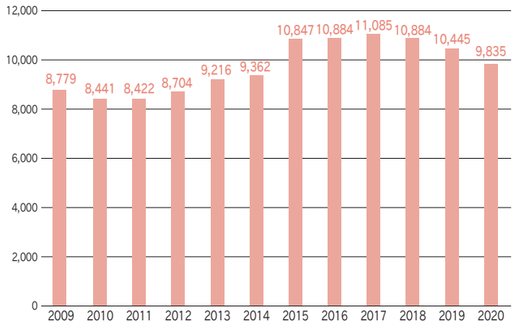
	病院長	就任	理事長	就任	専務理事	就任	友の会 会長	就任
1950								
	泉　寛	1953.11						
1955	江田　仁郎	1955.4						
			西岡　久一	1958.3				
			泉本　克己	1958.10				
1960								
1965			江田　仁郎	1965.5				
			北條　信一	1968.4				
	福永　宏海	1969.11						
1970								
					古谷　宏	1972.3		
1975								
1980								
							前田　増造	1984.11
1985								
					泉谷　優	1987.8		
1990					真鍋　穣	1990.12		
	沼島　正器	1994.12						
1995			大野　穣一	1996.3				
	真鍋　穣	1997.5			松久　芳樹	1997.8		
	池田　信明	1998.10			長瀬　文雄	1998.3		
2000								
					山村　弘成	2002.8	和田　昭穂	2002.6
	松本　久	2004.4	池田　信明	2004.4	田代　博	2004.3		
2005							穴井　重徳	2005.7
2010							森島　嘉之	2010.5
	奥村　伸二	2011.9			穴井　勉	2011.9		
			斉藤　和則	2013.10				
2015								
							江戸　道子	2018.5
2020	河原林　正敏	2020.10	田端　志郎	2020.4				

病床数

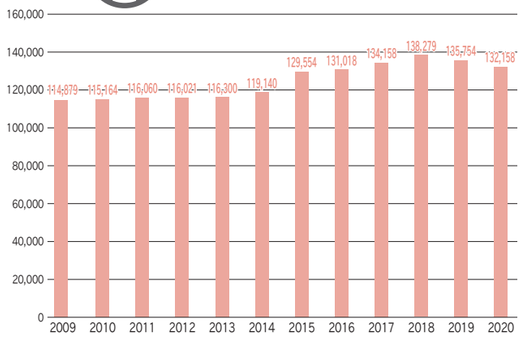


※1990年 鳳病院分122床含む

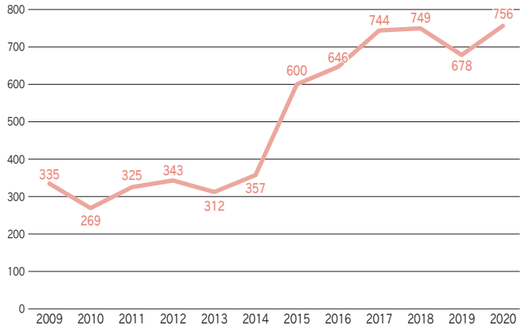
入院数



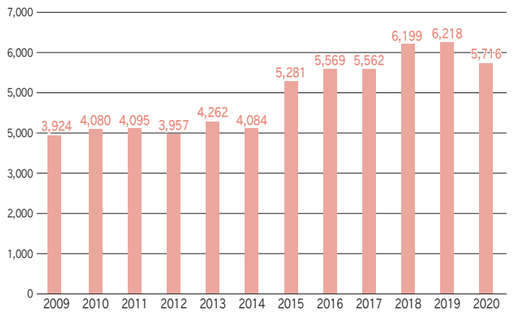
入院延べ患者数



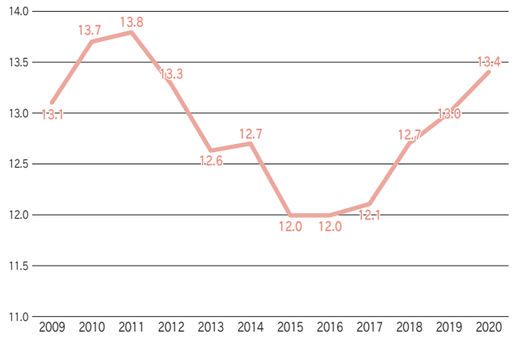
分娩件数



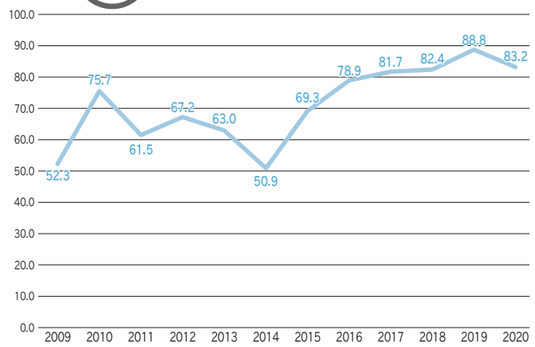
救急車搬送受入数



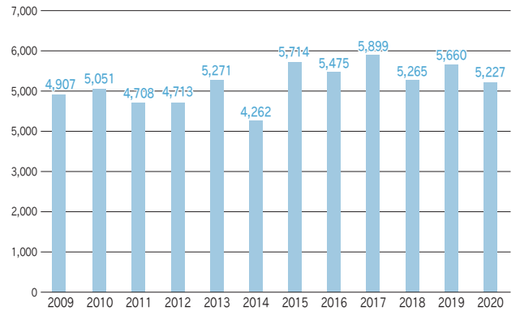
平均在院日数



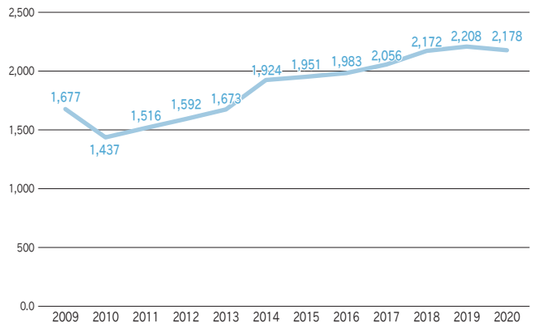
他法人からの患者紹介率



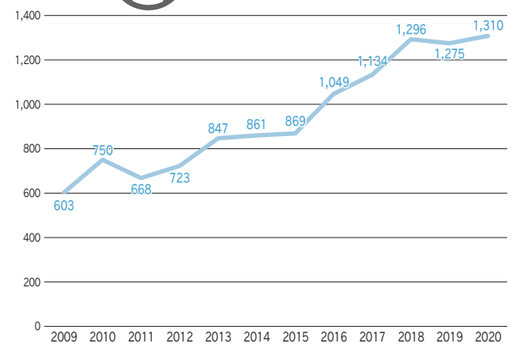
紹介患者数



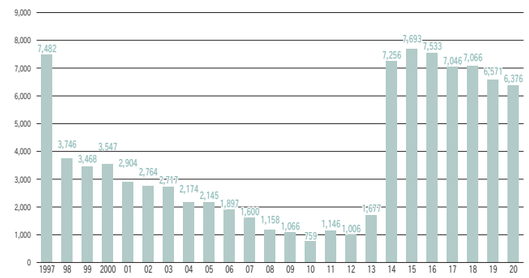
手術件数



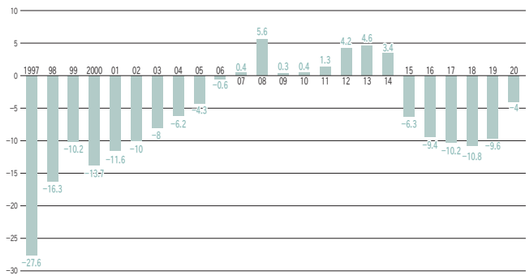
全身麻酔手術件数



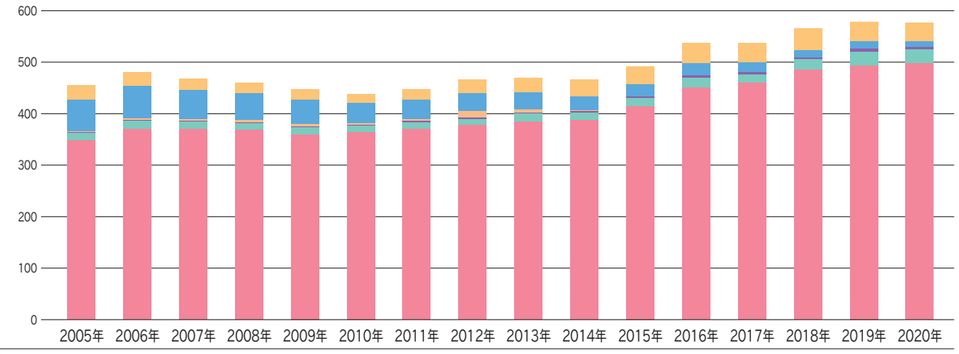
金融機関借入期末残高(単位100万円)



自己資本比率推移(%)



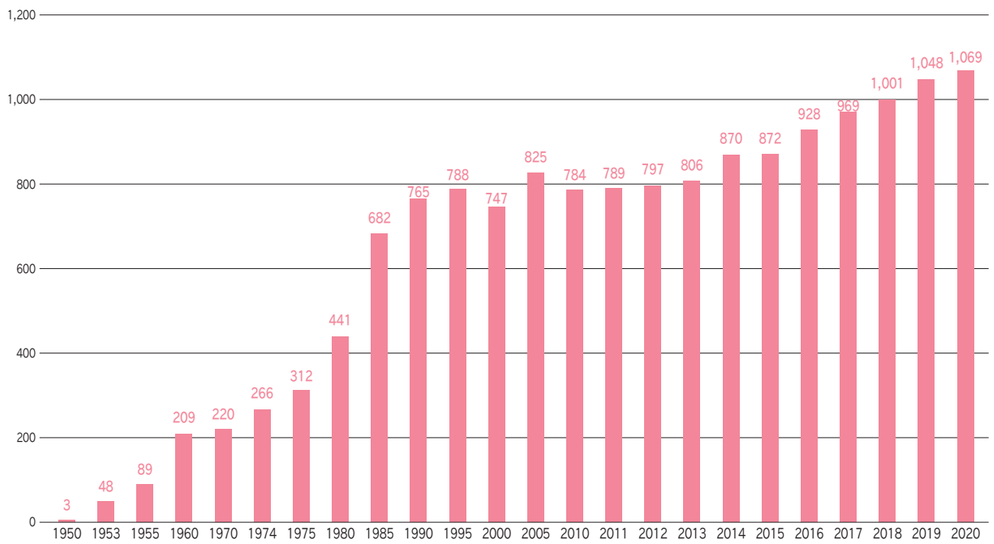
同仁会看護職員数(人)



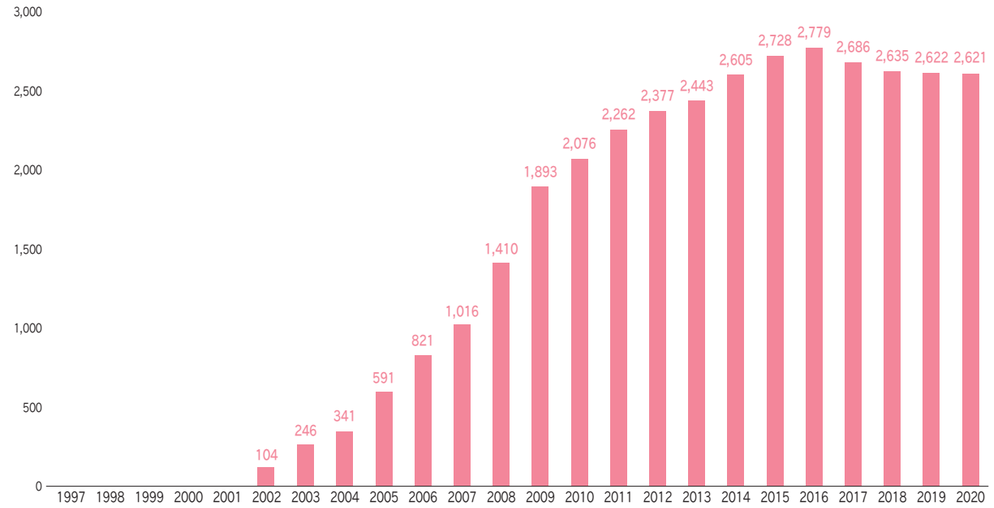
	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
看護助手	30	25.8	24.9	20.8	21	16	21.4	27	30.3	34.2	33.6	39.5	39	42.5	36.4	34.3
准看護師	60.2	62.6	54.7	51.6	45	37.2	35.9	34.2	31.9	28.2	23.7	22.5	18.6	15.7	15.1	11.9
看護学生	1	4	4	5	6	4	4	12	8	1	0	1	0	0	0	0
保健師	1.3	1.2	1.2	0.7	1.2	1.2	2.3	2.3	1.5	2	3	3.5	3	3	6	5
助産師	17	17	16	13	13	12	13.9	12.3	14.9	13.8	15.5	18.7	17.5	22.1	26	27
看護師	359	381.7	381.8	381	372.9	377.7	382.2	390.9	397.3	400.9	427.1	464.7	472.4	496.5	506.2	510

※常動換算数

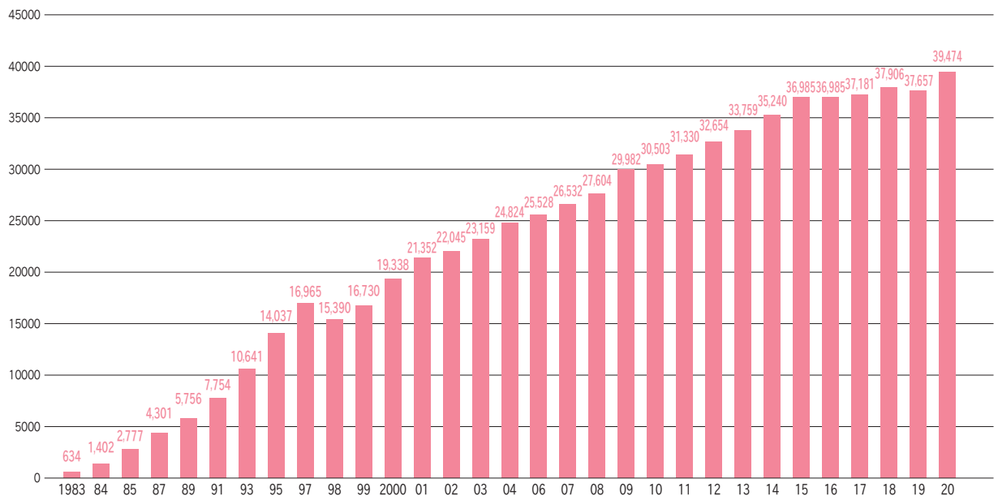
同仁会常勤職員数(人)



みみはら協同基金(単位100万円)



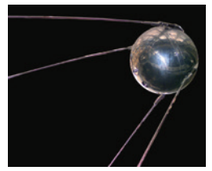
健康友の会みみはら会員世帯数



みみはらおよび堺のうごき		医療・福祉・民医連をめぐるうごき	社会の出来事
3月 堺市第1次空襲 6月 堺市第2次・第3次空襲 7月 堺市第4次空襲、被害甚大 8月 堺市第5次空襲 10月 市立堺市民病院東館 戦災復旧し診療を開始 11月 堺市戦災都市に指定	**1945**		8月 米国広島、長崎に原子爆弾投下 ポツダム宣言受諾、敗戦 10月 日本共産党合法化 国際連合 発足 当時の広島
2月 堺市役所職員組合結成大会（正庁） 5月 第17回堺地域復活メーデー（大浜公園） 堺地方飢餓突破人民大会 12月 南海大地震（死者・行方不明1464人）	**1946**	1月 関西医療民主化同盟 結成 新日本医師連盟（新医協） 結成 医師インターン制度・国家試験制度 採用 6月 生活保護法 公布	3月 労働組合法 施行 11月 日本国憲法 公布 「あたらしい憲法のはなし」 （文部省）
4月 初の堺市長選挙（有効得票数の25%に満たず決戦投票に）	**1947**	4月 労働基準法公布 7月 保健婦助産婦看護婦法 公布	1月 占領軍マッカーサー、2・1ゼネスト 中止命令 5月 日本国憲法 施行 1950年頃GHQビル
 当時の耳原町（現・協和町）	**1948**	4月 世界保健機構（WHO）創設、憲章 発効 9月 医療法、医師法、歯科医師法 10月 社会保険診療報酬支払基金 設立 新日本医師協会 結成	12月 国連 世界人権宣言を採択
6月 戎公園の聖ザビエル記念碑 建立（ザビエル来堺400年記念） 7月 大浜公園に水族館 開館 **12月 大阪民医連の医療工作班が耳原町で活動、耳原健康を守る会が組織される**	**1949**	1月 中央社会保険医療協議会（中医協） 創立 7月 大阪民主的病院診療所連絡会結成 10月 全国初の「健康を守る会」西淀川で結成 12月 身体障害者福祉法 公布	4月 北大西洋条約機構（NATO）12ヵ国調印 1ドル=360円の為替レート 実施 7月 下山事件・三鷹事件・松川事件おこる 10月 中華人民共和国成立（首都・北京）

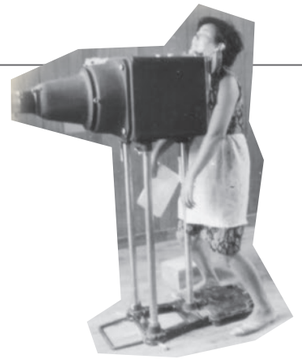
地域の人々とともに実費診療所創設そして病院建設へ

2月 耳原健康を守る会を母体に耳原実費診療所 創設（内・児） 9月 ジェーン台風で三宝地区を中心に大惨害（死者9人、重傷者24人） **救援活動にとりくむ（堺市出島地区）** 市営浴場（耳原町、協和湯） 開設 10月 大仙小学校 開校 創設時スタッフ 一口100円の出資金を募り、民家の2階を借りて始まった耳原実費診療所	**1950**	5月 医療法改正 医療法人制度 設立 新生活保護法 制定 9月 ジェーン台風での救援活動 	2月 GHQ、日本共産党中央委員の公職追放を指令 3月 世界平和擁護大会、原水爆禁止を要求するストックホルム・アピール採択 4月 公職選挙法 公布 6月 朝鮮戦争 勃発 7月 日本労働組合総評議会（総評） 結成

みみはらおよび堺のうごき		医療・福祉・民医連をめぐるうごき	社会の出来事
8月 堺市立耳原青年会館 開設 **堺市立耳原青年会館の一部（53㎡）に移転** 11月 内職あっせん事業を開始 （のちの大阪府認定協和内職あっせん所） 12月 市営浴場（布袋湯） 開設 民家の2階では手狭になり、堺市立耳原青年会館の一部を借りて診療（1951～1953年）	**1951**	3月 結核予防法全面改訂 5月 日本、世界保健機関（WHO）に正式加盟 10月 関西民主的病院診療所連合会 結成	3月 日本生活協同組合連合会 創立 9月 サンフランシスコ対日講和条約、日米安全保障条約調印
	1952		5月 メーデー事件 8月 警察予備隊、保安隊に改組
7月 和歌山水害救援医療活動支援 **11月 耳原病院 開設** **（病床数54床、内・児・外・婦・X線）** 当時の耳原病院の中央廊下 1953年 耳原病院玄関	**1953**	2月 大阪民医連第1回大会 6月 全日本民主医療機関連合会 結成 7月 大阪民医連、和歌山・南山城水害に医療班派遣 11月 大阪府と厚生省、15名の保険医に監査通告 12月 完全看護、完全給食、完全寝具制度 制定 民医連結成大会開く 全国民医連	2月 NHKテレビ放送開始 7月 朝鮮戦争 休戦調停調印
	1954	3月 民医連 ビキニ水爆実験被害調査に参加	3月 米国のビキニ水爆実験で、第五福竜丸被爆 7月 防衛庁設置 自衛隊法成立、自衛隊 発足
4月 堺臨海工業地帯造成事業着手 **7月 第1病棟増設（病床数117床）** **9月 歯科 新設** 1954年 病院玄関前で	**1955**		6月 第1回日本母親大会（東京） 8月 第1回原水爆禁止世界大会（広島） 森永ヒ素ミルク事件、各地で多発 第1回原水爆禁止世界大会
3月 皮膚科・泌尿器科 新設 健康を守る会美木多支部の乳幼児健診	**1956**	1月 民医連、総評、全医労、日医など28団体 健保改悪反対で、社会保障連絡会議 結成 10月 厚生省 初の「厚生白書」発表 11月 大阪医療労働組合連合会 結成	10月 日ソ共同宣言 国交回復 12月 国連総会 日本の加盟を可決
4月 眼科 新設 **9月 第2病棟 増設（病床数211床）** 大阪府議会「堺臨海工業地帯造成計画」可決 10月 町名変更により、耳原町が協和町と改称 **11月 耳鼻咽喉科 新設**	**1957**	3月 被爆者医療法 公布 8月「朝日訴訟」はじまる	10月 ソ連 世界初の人工衛星打ち上げ成功 
10月「堺臨海工業地帯の造成及び譲渡の基本計画」策定 日置荘町合併 **11月 従来の人格なき法人を改め医療法人同仁会（財団）を設立**	**1958**	6月 小児マヒ 全国で集団発生 9月 中央社会保障推進協議会 結成 12月 国民健康保険法 改正（国民皆保険）	1月 米国 人工衛星打ち上げ成功

地域の願いに応え、診療圏を広げ

みみはらおよび堺のうごき		医療・福祉・民医連をめぐるうごき	社会の出来事
2月 整形外科 新設 5月 泉ヶ丘町 合併 8月 湊海水浴場 閉鎖 **10月 伊勢湾台風被災地への大阪民医連救援医療班に参加**	**1959**	4月 国民年金法 公布 6月 小児マヒ 指定伝染病に決定 9月 伊勢湾台風被災地へ各民医連から医療班派遣 11県連で700人の医療班派遣、49日間で2万人を診療 民医連として初めての組織的大規模救援活動	1月 キューバ革命 4月 安保改定阻止国民会議、第1次統一行動 11月 国連総会「児童権利宣言」採択
2月 医療社会事業部 新設 **5月 鳳東町に鳳診療所 開設（内・児・外）** **9月 麻酔科 新設** 	**1960**	4月 じん肺法施行 5月 三池闘争支援大阪民医連医療班第1次派遣 10月「朝日訴訟」東京地裁で画期的勝利判決（浅沼判決） 11月 小児マヒ対策大阪府協議会 結成	1月 三井三池炭鉱、無期限ストに突入 6月 新安保条約自然成立 9月 カラーテレビ本放送開始 安保闘争デモ 国産初のカラーテレビ （提供：東芝未来科学館）
2月「子どもを小児マヒから守る堺市協議会」結成 3月 福泉町合併 ポリオワクチンで対市交渉 **5月 ポリオ中和抗体血清検査を堺市の費用で実施（協和町の幼児93人）** 8月 浜寺海水浴場閉鎖 9月 水族館 廃止 生ワクチンの輸入を訴える	**1961**	4月 国民皆医療保険実施 6月 厚生省 ソ連から1000万人分の生ワクチン輸入 	5月 政治的暴力行為防止法案（政暴法）上程と反対闘争 8月 ベルリンの壁つくられる 9月 第2室戸台風近畿中心に猛威
4月 登美丘町 合併 8月 泉北臨海工業地帯造成起工式 **11月 鳳診療所を病院化、鳳分院 開設** **（内・児・外・X線・病床数68床）** 	**1962**	7月 老人福祉法制定	5月 防衛施設庁 設置 10月 キューバ危機
3月 耳原病院と耳原健康を守る会が共同で「平和・体育まつり」 **4月 耳原病院開設10周年記念レセプション**	**1963**	1月 機関紙「民医連新聞」創刊（全日本民医連）	11月 三井三池炭鉱で炭塵爆発、死者458人
6月 耳原労働会館 開設 **7月 共同保育所「ひまわり保育園」 設置** **11月 南花田町に南花田診療所 開設（内・児・X線）** ひまわり保育園	**1964**	11月「母子福祉法」制定 東西に分かれて開かれていた学術集談会	6月 新潟大地震 10月 東京オリンピック開催 東京オリンピック （Unknown author, CC BY-SA 4.0）
2月 総合病院として認可される **4月 鳳分院敷地内に鳳民主会館建設　基準看護実施** 5月 堺市民会館 完成 **8月 院内に「公害対策委員会」 設置**	**1965**	8月 母子保健法 公布 機関誌「民医連医療」創刊（全日本民医連）	2月 米国 ベトナム北爆開始

みみはらおよび堺のうごき		医療・福祉・民医連をめぐるうごき	社会の出来事
3月 泉北ニュータウン着工、新金岡団地がまちびらき 土居川の埋め立て始まる **7月 総合病院が堺市公害被害調査に取り組む** 泉ヶ丘プール開業 （提供：堺市）	**1966**	6月 全国無給医局員診療拒否スト	3月 中国で文化大革命 日本の総人口、1億人を越える 6月 米原子力潜水艦、横須賀に初入港 ザ・ビートルズ来日 （publicdomain via wikimedia commons）
4月 堺市長選挙に今村雄一副院長出馬 **10月 医療活動を中心とした第1次活動方針 策定** 院内保育所（ひまわり保育園）3周年記念	**1967**	8月 健康保険臨時特例法強行成立 公害対策基本法 公布 9月 四日市公害訴訟提訴	4月 美濃部亮吉革新都知事 誕生
5月 レントゲンテレビ導入 11月「堺から公害をなくす市民の会」結成（27団体と個人400人）	**1968**	1月 国民健康保険法改定（家族給付7割） 5月 富山イタイイタイ病を公害病と認定 9月 阿賀野川有機水銀中毒を公害病と認定 10月 カネミ油症事件発生	5月 北海道 十勝沖地震 6月 小笠原諸島 日本に復帰 7月 郵便番号制の実施
6月 医療活動を中心とした第2次活動方針策定 **10月 三宝校区松屋緑町で公害検診** 総合病院玄関前で 	**1969**	11月「森永ミルク中毒のこどもを守る会」結成 12月 東京都 老人医療費無料化実施（70歳以上） 森永ヒ素ミルク中毒乳児 （Public domain, via Wikimedia Commons）	1月 全国保険医団体連合会（保団連） 結成 11月 米国アポロ11号 人類初の月面着陸 （Public domain via Wikimedia Commons）
3月 東洋医学室 新設 阪神高速道路堺線が開通 11月「民主老人クラブ」結成、65歳から医療費無料化運動に取り組む 公害反対デモ	**1970**	3月 大阪民医連「公害対策委員会」設置 7月 東京で光化学スモッグ発生 11月 公害メーデー （全国150ヵ所、82万人参加）	3月 日本万国博覧会（大阪万博） 開幕 6月 日米安保条約自動延長 日本万国博覧会開幕 （Osaka_Expo_70_Korean_Pavilion Wikimedia commns）
4月 泉北高速鉄道線、中百舌鳥ー泉ヶ丘間 開通 **7月 精神神経科 新設** 10月 堺市独自の公害病救済制度を施行（三宝地区のみ指定） 高齢入院患者に敬老祝い品を 贈る北條理事長（当時）	**1971**	2月「大阪から公害をなくす会」結成 4月 黒田了一革新府政誕生 7月 日本医師会緊急全国 理事会、保険医総辞退 を決定 児童手当法 公布 	 カップヌードル発売 （写真提供元：日清食品ホールディングス株式会社）

みみはらおよび堺のうごき

医療・福祉・民医連をめぐるうごき

社会の出来事

要求に応え多面的に発展、規模・内容を充実

1972

2月 総合病院創立20周年記念4大建設（①南花田診療所の新築　②総合病院の鉄筋化　③認可保育所と寮の建設　④鳳分院の将来計画）事業着手（第1次5カ年計画）

3月 公害から健康を守る会の対市交渉

9月 同仁会「医療・経営情報」毎月定期発行

南花田診療所 新築移転

大泉緑地 開園

耳原鳳分院の
サテライト人工透析室

南花田診療所
新築移転

1月 大阪府 老人医療費無料化実施（70歳以上および65歳以上寝たきり老人）

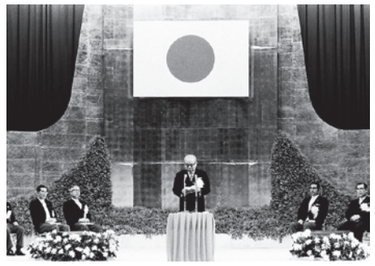
7月 第1回青年ジャンボリー（山梨県・西湖）

11月 全日本民医連共済組合 発足

黒田了一革新府政誕生
今村雄一大阪民医連会長と懇談

5月 日米沖縄協定発効、沖縄が日本復帰

9月 日中国交正常化なる



沖縄返還（提供：沖縄県公文書館所蔵）

1973

4月「公害患者と家族の会」結成

8月 総合病院鉄筋化工事着工

11月 総合病院開設20周年「記念のつどい」

泉北高速鉄道 泉ヶ丘ー栂・美木多間 開通

病院新築問題で
市長交渉の座り込み

1月 大阪府 老人医療費無料化を67歳以上に

国 老人医療費無料化制度発足（福祉元年）

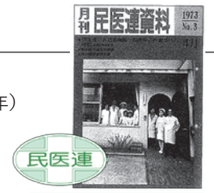
2月「医療をよくする大阪連絡会」発足

「月間民医連資料」発刊（全日本民医連）

3月 水俣病訴訟、熊本地裁で原告勝訴

6月 全日本民医連会旗・会章制定

参議院補欠選挙で
勝利した沓脱タケ子医師
（淀川勤労者厚生協会）



全日本民医連会旗・会章

1月 ベトナム和平協定調印

4月 ウォーターゲート事件発覚

5月 小選挙区制反対の運動もりあがる

8月 金大中事件発生

10月 第1次石油ショック　物価高騰

1974

3月 人工透析開始

第1回日常診療点検総括会議 開催

6月 共同保育所を発展させ鳳南町に社会福祉法人ひまわり保育園を開設

7月 総合病院の本館鉄筋化竣工
（地下1階、地上6階、病床数193床）

第2病棟で人工透析開始

本館鉄筋化工事後。中央レントゲン棟、
右は木造の第一病棟

3月 大阪府 老人医療費無料化を65歳以上に

4月 春闘でこれまで最大の交通ストライキ（約600万人参加）

11月 兵庫・八鹿高校集団暴力事件おこる

1975

4月 総合病院内に泉州高等看護学院 開校

9月 カルテ委員会 開催（入院カルテ見直し）

10月 内科外来による定期往診・訪問看護の取り組み

11月 第1回医療活動委員会「医療活動ニュース」発行

12月 国連総会「障害者の権利宣言」採択

4月 ベトナム全土統一（ベトナム戦争終結）

黒田革新府知事再選

1976

4月 第1回全職種参加型症例検討会 開催

6月 鳳分院で糖尿病教育入院 実施

8月 旧第2病棟改造（第1病棟と改称、病床数245床）

第1回小児喘息サマーキャンプ 実施

10月 脳神経外科 新設

12月 神経内科 新設

2月−5月　風疹が猛威をふるい、全国で64万人が罹患

7月 歯科診療 保険と自由診療の2本立てに

4月 中国 第一次天安門事件

初代VHSビデオデッキ発売
（提供：株式会社JVCケンウッド）

1977

4月 専修学校の認可を受け、泉州看護専門学校に校名変更

泉北高速鉄道 栂・美木多ー光明池間 開通

4月 大阪公害患者の会連絡会 結成

8月 原水禁統一世界大会開催（14年ぶり）

9月 米軍機、横浜の住宅街に墜落（一般市民3名死亡、6名負傷）

みみはらおよび堺のうごき		医療・福祉・民医連をめぐるうごき	社会の出来事
6月 CT・アンギオ棟完成、10床増設（病床数255床） **同仁会調剤薬局 開局** **11月 鳳分院を耳原鳳病院、南花田診療所を耳原南花田診療所へ名称変更** MBSナウで耳原鳳病院の糖尿病教育入院が紹介 CT・アンギオ棟完成	**1978**	民医連加盟医療機関が47都道府県すべてに広がる	5月 成田国際空港 開港 8月 日中平和友好条約調印 10月 元号法制化の閣議決定 ソニーウォークマン発売 （セイルコ, CC BY 3.0）
1月 老松町に看護婦寮「みみはら寮」完成（70名規模） **4月 老松町に同仁会会館 建設** **5月 耳原総合病院付属老松診療所 開設（人工透析25台）** **8月 泉州看護専門学校新築移転（浜寺船尾町）** 	**1979**		1月 第2次オイルショック 2月 50万人の中国軍がベトナムへ侵略開始 9月 イラン・イラク戦争 12月 アフガニスタンにソ連軍介入 3月スリーマイル島原子力発電所事故 （Public domain via Wikimedia Commons）
5月 総合病院別館 建設（86床）、病床数280床 **8月 耳原旭ヶ丘会館完成（労働組合、夜間保育所が同館へ移転）** **9月 耳原旭ヶ丘会館内に鍼灸所 開設** **創立30周年記念祝賀レセプションおよび記念のつどい** 堺市民会館大ホール、舞台は「やすし・きよし」	**1980**	3月 第24回総会方針で全国一斉「老人実態調査活動」提起（全日本民医連） 9月 富士見産婦人科病院事件（病院理事長、無免許診療・不必要な臓器摘出などで逮捕） 	1月 社会党と公明党が連合政権構想合意（安保・自衛隊当面存続、共産党排除で） 5月 韓国・光州市で軍隊がデモ隊を大弾圧（光州事件）
9月 耳原歯科診療所 開設 **11月 耳原鳳病院新築移転（病床数122床、うちリハビリ病棟42床）** **老松RI検査室開設** 	**1981**	全日本民医連「ひとり暮らし・寝たきり老人実態調査」	3月 第二次臨時行政調査会発足、会長に土光敏夫（国鉄・電電公社・専売公社の民営化など提言）

厳しい環境下で実力が試された

8月 ダイセル堺工場大爆発 **9月「堺市ひとり暮らし・老人実態調査報告」発表**	**1982**	12月 大阪民医連共済会創立 総会	7月 捕鯨全面禁止 8月 参議院比例代表制 成立 カード式公衆電話 （Public domain via Wikimedia Commons）
1月 同仁会に組織課 新設 3月 堺市議会、「非核平和都市宣言に関する決議」全会一致で採択 「学童保育に関する請願書」採択（自民・市民クラブ反対） **5月 耳原友の会準備会 発足** **6月 眼科外来 新設** **9月 耳原友の会機関紙「友」創刊** **12月 耳原鳳病院4階呼吸器病棟にぜんそく教室の開校** 「友」創刊号	**1983**	2月 老人保健法制定に伴う老人差別の報酬体系スタート（70歳以上） 4月 山梨勤労者医療協会倒産が確実になり、再建闘争はじまる 9月 黒田革新府政から岸府政にかわり、老人医療費が有料化に	5月 日本海中部地震（死者・行方不明者102人） 7月 任天堂「ファミリーコンピュータ」（ファミコン）発売 9月 大韓航空機事件起こる 大阪城築城400年まつり （提供：公益財団法人関西・大阪二十一世紀協会） （Alphathon CCBY-SA 3.0）

みみはらおよび堺のうごき

医療・福祉・民医連をめぐるうごき

社会の出来事

1984

6月 耳原鳳病院小児科全面常勤体制
11月 耳原友の会設立 総会（設立時1402世帯）

耳原友の会創立総会（旭ヶ丘会館）

10月 健康保険制度大改悪
- 健保本人2割負担（当面1割）
- 特定医療法人制度導入（差別医療、自由診療など医療営利化への道を開く）
- 国保への国庫負担率軽減、国庫負担なしの退職者医療制度の発足

堺地区メーデーで
保険制度改悪反対を訴える

12月 米国 ユネスコを脱退

1985

9月 在宅医療チーム 結成

9月 全日本民医連「基盤となる組織を強化発展させるために（案）」を発表
12月 医療法改悪案が可決「地域医療計画」策定し、ベッド数を規制する

8月 日航ジャンボ機、御巣鷹山に墜落
（死者524名）
核兵器全面禁止国際署名の提唱と推進のための協議会が「ヒロシマ・ナガサキからのアピール」を発表

（Public domain via Wikimedia Commons）

1986

4月 ぜんそく大学 開校

12月 老人保健法改悪案が参院本会議で可決、成立
国保法改悪案が成立（滞納者に制裁措置等）

4月 ソ連・チェルノブイリ原子力発電所で大事故
60歳定年法成立
11月 伊豆大島の三原山大噴火

「写ルンです」発売

1987

3月 ㈱泉州保健医薬研究所　協和薬局として営業
5月 堺市すこやか健診実施
10月 総合病院「非核平和宣言病院」を宣言
地下鉄御堂筋線が中百舌鳥まで延伸

公害指定地域全面解除反対行動
（堺市役所前）

1月 生活保護申請認められず母子が餓死（札幌）
6月 厚生省国民医療対策部が「中間報告」を発表

4月 国鉄が民営化・分割され、JR社発足
12月 軍事費、GNP1%枠を突破

1988

4月 新館建設第1期工事竣工（新館5階、新救急病棟）
7月 泌尿器科常勤医師体制確立、入院受入れ開始
10月 呼吸器病棟を鳳病院4階から総合病院新館5階へ
12月 小児科一般外来、午前の予約制導入へ
総合病院支部結成

病棟回診

4月 国保法改悪案成立（7月1日実施）

Chicago Tribune
Final Edition
Japanese live . . . and die . . . for their work
シカゴトリビューン紙「ジャパニーズカローシ」1面トップ特集
（大阪社会医学研究所　田尻俊一郎所長）

6月 リクルート事件起こる
9月 消費税粉砕国民大集会（17万人参加）

V. 巻末資料

1989

2月 胸部心臓血管外科 新設
3月 小児科病棟開設
4月 耳原友の会高齢者クラブ設立総会（堺市民会館：180名）
10月 内科一般外来予約制の導入
堺労連結成大会
11月 新館建設二期工事竣工

12月 全国保険医団体連合会、全日本民医連など中央6団体が「国民医療を守る共同行動」で1千万署名運動を提起

1月 元号が昭和から平成へ
4月 消費税税率3%、強行実施
6月 中国 天安門事件
11月 ベルリンの壁崩壊（ドイツ）

ベルリンの壁崩壊
（Sue Ream, CC BY 3.0）

（スドン・ステア・スギ CCBY 4.0）

1990

4月 新館3階病棟開設
ぜんそく大学一期生卒業
7月 別館3階病棟開設（病床数386床）
12月 総合病院 健診部が発足

5月 ナース・ウェーブ行動（看護婦ふやせ、夜勤減らせ）
10月 国民医療をよくする共同行動中央決起集会
11月 白衣の宣伝行動
12月 大阪社会保障推進協議会再建集会

6月 日米構造協議：公共投資を
10年間で430兆円と米国に約束
8月 東西ドイツ 統一条約調印
11月 PKO法案廃案

国際花と緑の博覧会
（提供：公財国際花と緑の博覧会記念協会）

1991

5月 外来人間ドックの新設
9月 一泊人間ドックの開始
10月 訪問看護ステーション鳳開設
11月 友の会「日曜健診（人間ドック）」の開始
湾岸戦争反対のデモ行進
12月 ALS患者の人工呼吸器を減点され、耳原鳳病院抗議

湾岸戦争反対のデモ行進

3月 西淀川公害裁判、大阪地裁で勝訴
第1回全日本民医連共同組織（当時「基盤となる組織」）活動交流集会
5月 日本生活協同組合連合会 医療部会「患者の権利章典」採択
11月 東大阪市、国保資格証明書発行

1月 米軍、イラクを空爆 湾岸戦争勃発
11月 フィリピンのクラーク米軍基地を全面返還
12月 ゴルバチョフ大統領就任 ソ連邦消滅宣言

新東京都庁開庁
（アルクスルボルドゥレーエレタール CCBY-SA 3.0）

みみはらおよび堺のうごき

医療・福祉・民医連をめぐるうごき

社会の出来事

1992

みみはらおよび堺のうごき

1月 外来オーダリングシステム開始
4月 堺市中支所 開設
5月 鳳支部 結成

医療・福祉・民医連をめぐるうごき

1月 老人保健法改正で訪問看護制度を創設
2月 第1回共同組織全国交流会
10月 老人病院基準変更
12月 「いつでも元気」創刊(「えがお」改題)

社会の出来事

4月 育児休業法成立
6月 PKO法成立
9月 自衛隊PKO派遣部隊、カンボジアへ
11月 フィリピンのスピック米海軍基地が全面返還

1993

みみはらおよび堺のうごき

5月 第1回健康まつり
10月 安賀昇院長(耳原鳳病院)
堺市長選挙に出馬

医療・福祉・民医連をめぐるうごき

6月 全国一斉過労死110番(3000件突破)
7月 看護活動研究交流集会、初開催
9月 第1回全日本民医連学術運動交流集会(石川)
10月 乳幼児医療助成制度大阪府でスタート
12月 大阪市 国保短期保険証を発行

社会の出来事

5月 労働基準法「改正」年間総労働時間1800時間の目標
7月 北海道南西沖地震、奥尻島で大被害
9月 冷夏と台風でコメ凶作
12月 政府 コメ輸入自由化部分開放

1994

みみはらおよび堺のうごき

4月 在宅医療部 発足
6月 たんぽぽ薬局 開局

医療・福祉・民医連をめぐるうごき

6月 健康保険法改悪案可決(入院給食はずし)
10月 年金法改悪案可決
12月 新ゴールドプラン、エンゼルプランを策定

社会の出来事

2月 政党助成法 公布
3月 小選挙区比例代表並立制を導入
6月 長野・松本サリン事件
9月 関西国際空港開港
12月 コメの輸入自由化
小選挙区制施行

関西国際空港
(カルブカズ CC BY-SA 3.0)

1995

みみはらおよび堺のうごき

1月 阪神・淡路大震災支援運動にとりくむ
3月 南花田支部 結成
4月 堺市南支所 開設
5月 訪問看護ステーションみなと・泉北 開設
6月 老松診療所 糖尿病専門外来 開設
高石支部 結成
9月 新看護体系(2:1A加算)
第4次長期計画確定
10月 コスモス薬局 開局
11月 第1回定例全職種参加症例検討会

震災翌日から2月中旬まで
行った医療支援

南花田診療所訪問入浴サービス

訪問看護ステーションみなと
「ミニミニ文化祭」

医療・福祉・民医連をめぐるうごき

1月 民医連として阪神・淡路大震災、医療救援活動に累計1万3千人参加
「最も早い救援活動」と厚生大臣から謝意。神戸市で救急車を1台も断らなかった3つの病院のうち2つが、民医連加盟の病院だった
3月 西淀川公害裁判で高裁が和解勧告
HIV訴訟原告 川田龍平氏実名公表

社会の出来事

1月 阪神・淡路大震災発生
3月 地下鉄サリン事件
6月 育児・介護休業法成立
9月 沖縄で米兵による少女暴行事件
10月 少女暴行事件に抗議
「沖縄県民総決起集会」(8.5万人)

1996

みみはらおよび堺のうごき

2月 耳原鳳こども診療所 開設
4月 堺市西支所 開設
10月 訪問看護ステーション大浜・深井 開設
市立堺病院新築移転
O-157集団食中毒発生
堺市 中核市へ移行

夏の医学生研修実習

医療・福祉・民医連をめぐるうごき

3月 HIV訴訟和解 成立
4月 77歳母、41歳息子が餓死状態で発見(東京・池袋)
らい予防法 廃止
8月 堺市小学校等92校で病原性大腸菌(O-157)による集団食中毒である堺市学童集団下痢症が発症

社会の出来事

9月 民主党結党大会
12月 原爆ドームが世界遺産 登録

ポケットベル発売
(asamoto, CC BY-SA 3.0)

前倒産・セラチア菌感染を乗り越えて

1997

みみはらおよび堺のうごき

4月 堺市東支所 開設
6月 総合病院東支部結成総会
7月 ㈲大阪メディカルラボラトリー 設立
たかさご薬局 開局
総合病院西支部結成総会
12月 耳原高石診療所開設　同仁会前倒産状態明らかに

前倒産集会後、友の会会員と
職員がいっせい地域訪問へ

医療・福祉・民医連をめぐるうごき

6月 臓器移植法案 可決
9月 健康保険本人2割負担
12月 介護保険法が成立(2000年4月実施)

社会の出来事

4月 消費税税率が5%へ増税
9月 日米安保、新ガイドライン合意
11月 山一證券が自主廃業
12月 地球温暖化防止京都議定書 採択

(提供:KYOTO地域環境の殿堂)

1998

みみはらおよび堺のうごき

2月 同仁会現地調査(全日本民医連)
3月 同仁会再建集会(理事会・労組・共同組織)537名参加
4月 総合病院「臨床研修指定病院」認可
タンポポ薬局 開局
7月 たんぽぽ薬局 廃止
12月 耳原鳳病院に「療養型病床」開設
老人保健施設みみはら 開設

介護老人保健施設みみはら

再建決起集会(堺市民会館)

医療・福祉・民医連をめぐるうごき

1月 同仁会に全日本民医連が組織的対応開始
7月 全日本民医連理事 小池晃医師が参議院議員初当選(日本共産党)
8月 関西医科大学附属滝井病院で研修医過労死事件
10–11月 全日本民医連「要介護老人実態調査」実施
11月 川崎協同病院(神奈川民医連)で筋弛緩剤投与事件

社会の出来事

2月 「30兆円銀行支援2法」成立
4月 明石海峡大橋開通(世界最長の吊橋)
5月 インド・パキスタンが相次いで地下核実験
12月 アメリカ・イギリスがイラクに軍事攻撃

(提供:神戸市垂水区)

みみはらおよび堺のうごき

4月 総合病院に医師研修のための「総合病棟」開設
5月 耳原総合病院院所利用委員会 発足
6月 介護保険事業部 発足
大阪府立大型児童館「ビッグバン」開館
（2021年3月末、堺市に移管）

総合病棟開設
シンポジウム（3月）

4月 堺市堺支所・北支所 開設
居宅介護支援事業 指定
5月 耳原老松診療所に名称変更
7月 セラチア菌院内感染発生（自主公表）
西支部・東支部統合し東西支部 結成
みなと・大仙西支部 結成
9月 セラチア菌感染問題の報告集会 576名参加
10月 南花田ひまわり薬局 開局
12月 みみはら高砂クリニック 開設

5月 第1回緩和ケアシンポジウム
7月 第1回医療安全大会
9月 浜寺石津支部（現・浜寺支部）結成
国際障害者交流センター「ビッグ・アイ」開館
（「国連・障害者の十年」を記念し、厚生労働省が開設）

第1回医療安全大会

1月 耳原歯科診療所リニューアルオープン
2月 特定非営利活動法人結いの会とうもず 設立
4月 総合病院 医療機能評価 取得
5月 宮園支部（現・中区支部）結成
有事立法反対集会
10月 美木多支部 結成
泉ヶ丘西支部 結成
オリーブ薬局 開局
11月 津久野・家原寺支部（現・津久野支部）結成
12月 総合病院別館3階に緩和ケア病棟 開設

3月 総合病院医療ケア病棟 開設
鳳病院に回復期リハビリテーション病棟 開設

3月 総合病院電子カルテ稼働　SPD物品供給導入
4月 総合病院 医師臨床研修制度スタート
美原町と合併、堺市美原支所 開設
5月 和泉支部 結成
7月 日帰り手術センター 開設
「健康友の会みみはら」に名称変更（第17回総会）
10月 あゆみ薬局 開局
11月 健康友の会20周年記念フェスティバル

1999

3月 臓器移植法施行後初の生体肝移植
7月 西淀川公害訴訟 全面勝訴
12月 厚生省がゴールドプラン、エンゼルプラン発表

2000

3月 年金改悪法可決成立（給与水準5%引き下げなど）
4月 介護保険制度 導入
11月 第4次医療法改正（臨床研修必修化、病床区分再編成）

2001

1月 70歳以上の医療費が定額制から1割の定率制
厚生労働省発足
4月 年金制度改定実施（支給開始を段階的に65歳）
10月 介護保険料を65歳以上からも満額徴収開始

2002

3月 改正保助看法施行、「看護師」と呼称変更
4月 診療報酬改定で本体部分初のマイナス改定（-1.3%）
川崎協同病院における気管チューブ抜去・薬剤投与
死亡事件公表
7月 医療制度関連法成立（本人3割負担に）
10月 70歳以上の高齢者 定率窓口負担導入（1–2割）

2003

4月 特定機能病院の一般入院医療にDPC制度導入
健保本人3割負担へ引き上げ
アジアを中心にSARS（重症急性呼吸器症候群）が蔓延
7月 次世代育成支援法、少子化対策法 成立
支払基金の民営化

2004

4月 新医師臨床研修制度 開始
大阪医療事業協同組合 SPDシステム 開始
10月 新潟県中越地震、支援活動に1,600人以上参加

「9条の会」発足

社会の出来事

1月 欧州連合 通貨「ユーロ」導入
5月 新ガイドライン関連法案 成立
8月 「日の丸・君が代」法 成立
通信傍受法 成立
9月 東海村臨海事故

1月 経済財政諮問会議設定
2月 実習船「えひめ丸」ハワイ沖で
米原潜に衝突され沈没
4月 小泉内閣 発足
6月 ハンセン病補償法 成立
9月 米国で同時多発テロ発生
10月 米英両軍、アフガニスタンへ
侵攻開始
テロ対策特別措置法 成立
11月 自衛隊、インド洋へ派兵

米国で同時多発テロ勃発
（ロバート・オン・フリッカー、CC BY-SA 2.0）

5月 経団連と日経連が統合、「日本経団連」発足
7月 郵政関連4法 成立
10月 北朝鮮拉致被害者5名、24年ぶりに帰国

3月 有珠山が噴火

自衛隊海外派兵
（Public domain, via Wikimedia Commons）

3月 米英軍がイラクへ軍事攻撃
5月 個人情報保護法など関連5法案 成立
6月 有事法制関連3法 成立
7月 イラク復興支援特別措置法成立（自衛隊派兵可能に）
12月 米総務省が米国初のBSE（牛海綿状脳症）発生を確認
航空自衛隊の第1陣 クウェートへ派兵

1月 陸上自衛隊のイラク派兵を強行
4月 イラクで日本人3名が人質に
5月 イラクで日本人ジャーナリスト2名が殺害される
6月 大江健三郎氏ら9名が呼びかけ「九条の会」発足
8月 米軍機が沖縄国際大学の敷地内に墜落
12月 インドネシア・スマトラ島沖地震で過去最大級の津波
（犠牲者22 万人以上）

みみはらおよび堺のうごき		医療・福祉・民医連をめぐるうごき	社会の出来事
2月 美原町 堺市に編入 **5月 総合病院 総合診療部 新設** **8月 みのり薬局 開局**	**2005**	1月 ノロウイルスが全国の特養ホームなどで蔓延 4月 府立5病院が地方独立行政法人化 7月 アスベスト健康被害が重要問題化 10月 介護保険で施設のホテルコスト・食事代を徴収 障害者自立支援法が成立 12月 大阪民医連事務局移転（大阪市福島区→大阪市中央区）	2月 COP3地球温暖化防止京都議定書 発効 4月 JR福知山線脱線事故（死者107名） 個人情報保護法施行 10月 郵政民営化関連法案可決 12月 日本の人口 1899年統計開始以来 初の自然減（総務省統計局） 愛・地球博開催 （クリス73 CC BY-SA 3.0）
4月 堺市が政令指定都市に移行、区政施行 **在宅支援総合診療所** **5月 総合病院DPC導入** **6月 総合病院 7:1看護実施** **7月 ふくいずみ支部 結成** **9月 耳原南花田診療所 新設移転、** **名称を「みみはらファミリークリニック」に変更** **ヒマワリ薬局 開局** **10月 大浜支部結成** **11月 大阪民医連南ブロック組織交流集会** （提供：堺市） 南花田診療所での蔵前総行動	**2006**	4月 歯科医師研修制度開始 障害者自立支援法が施行 診療報酬史上最大のマイナス改定（−3.16%） 6月 医療制度改革法成立（後期高齢者医療制度など）	3月 アスベスト新法施行 9月 オウム真理教事件 松本被告死刑確定 12月 国連 障害者権利条約採択
3月 回復期リハビリ病棟を総合病院に移設、医療ケア病棟廃止 **11月 ともうずヘルパーステーション同仁会移籍**	**2007**	10月 株式会社コムスンが介護報酬の不正請求などで介護事業から撤退 反貧困ネットワーク 発足 11月「自殺対策白書」（厚労省）初公表（9年連続3万人超／年）	1月 防衛省 発足 4月 伊藤一長長崎市長、選挙中銃撃され死亡 7月 新潟県中越沖地震発生 8月 ネットカフェ難民について初の全国調査 11月 イラク特措法廃止法案 可決
2月 小児科単独病棟 開設 **11月 心臓血管外科手術再開** 小児科単独病棟のプレイルーム	**2008**	4月 後期高齢者医療制度実施 自治体健診が特定健診制度に 6月 千鳥橋病院（福岡・佐賀民医連）HPH病院認定（国内初） 12月 日比谷公園で「年越し派遣村」開村 全国から支援 	1月 薬害肝炎被害者救済法 成立 2月 海上自衛隊イージス艦漁船衝突（漁師2名不明） 橋下徹氏大阪府知事　大阪市・府を統合する 「大阪都構想」提案 5月 中国・四川省で大地震（被災者1000万人） 8月 アフガニスタンでペシャワール会の伊藤和也氏 拉致・殺害される 9月 米国大手証券会社リーマンブラザーズ 経営破綻 10月 日本人4名 ノーベル物理学賞・化学賞受賞
3月 耳原鳳病院から耳原鳳クリニック（病棟廃止）へ **5月 総合病院 新型インフルエンザ発熱外来設置** **6月 無料低額診療事業 実施（総合病院、耳原鳳クリニック）** **7月 八田・宮園支部「ともの家」 開設** **8月 老健みみはら施設内で認知症デイサービス「ゆったりケアおおとり」開設** **10月「耳原健康サポートセンターおおとり」 耳原鳳クリニック内 開設** **鳳こども診療所を耳原鳳クリニック内 移設** ありがとう鳳病院	**2009**	4月 介護報酬改定（初のプラス改定） 5月 国内で初の新型インフルエンザ感染 WHOが新型インフルエンザのパンデミックを宣言	1月 第44代米国大統領 バラク・オバマ氏就任 3月 海上自衛隊をソマリア沖 派遣決定 4月 米国オバマ大統領 プラハ演説（核兵器のない世界の追求を米国の国家目標とすることを表明）ノーベル平和賞受賞 5月 裁判員制度施行 9月 消費者庁 新設 民主党、社民党、国民新党の連立政権誕生（鳩山内閣）
総合病院建て替えとグループの形成へ			
8月 新病院建設ニュース発刊 **タンポポ薬局 移転開局** **10月 さくら薬局 開局** **11月 みみはら60周年記念健康文化まつり**	**2010**	1月 日本年金機構発足、社会保険庁廃止 3月 全日本民医連第39回総会（京都） 綱領改定 第39回総会（国立京都国際会館）	3月 子ども手当法案成立、高校無償化法案 成立 5月 名護市長選挙（沖縄）初めて同市辺野古への米軍基地移設反対派の市長、誕生 6月 小惑星探査機「はやぶさ」帰還（JAXA）

みみはらおよび堺のうごき

医療・福祉・民医連をめぐるうごき

社会の出来事

2011

みみはらおよび堺のうごき

1月 特定医療法人から社会医療法人同仁会へ変更許可
3月 東日本大震災救援活動
4月 高砂・老松・歯科・ファミリークリニックで無料低額診療事業 開始
ひまわり保育園建て替え
8月 病院建て替えに向けての現地調査（全日本民医連）
11月 病院建て替えに伴う堺市との土地契約完了

医療・福祉・民医連をめぐるうごき

3月 東日本大震災、累計1万5千人を超える現地での医療救援活動を行う
10月「高齢者の居住の安定確保に関する法律」（サービス付き高齢者向け住宅）施行

社会の出来事

3月 東日本大震災・福島第一原発事故
7月 地上波アナログテレビ放送が終了
9月 貧困と格差社会の解決を求めるウォール街占拠運動（米国）
11月 大阪維新の会発足

東日本大震災

2012

みみはらおよび堺のうごき

6月 新病院建設キックオフ集会
7月 新金岡支部結成「ともの家」開設
11月 大阪府地域医療支援病院 許認可
12月 東日本震災避難者小児検診実施（総合病院）

医療・福祉・民医連をめぐるうごき

8月「社会保障改革推進法」「税と社会保障の一体改革」関連8法案成立

東京スカイツリー完成
（ccby sa kakidai）

社会の出来事

4月 自民党改憲草案発表
6月 原発稼働反対20万人集会
9月 日本維新の会発足
11月 原発ゼロ一斉行動

5月金環日食
（提供：国立天文台）

2013

みみはらおよび堺のうごき

4月 総合病院 サポートセンター 開設
5月 高石支部から高石中央支部、高石東支部、高石北支部、高石南支部 結成
7月 ひまわりの家鳳（サービス付き高齢者住宅・ヘルパーステーション）、ひまわりの里鳳（看護小規模多機能・訪問看護ステーション）開設
9月 みなと大仙西支部からみなと支部 結成
中区支部から八田宮園支部 結成
中区支部から土師・東深井支部 結成「土師ともの家」開設
中区支部から深井支部 結成「深井ともの家」開設
10月 中区支部から西陶器支部 結成「西陶器ともの家」結成
みなと大仙西支部から大仙西支部 結成
新病院にホスピタルアート導入開始
回復期リハビリテーション病棟 開設
12月 大阪民医連南ブロック健康・平和まつり 開催（サンスクエア堺一帯）

医療・福祉・民医連をめぐるうごき

4月 障害者総合支援法施行
障害者雇用率2%に引き上げ
10月 生活保護受給者のジェネリック医薬品の使用が原則義務化

社会の出来事

4月 公職選挙法改正（インターネット選挙運動解禁）
グランフロント大阪開業（大阪市北区）
7月 日本TPP交渉参加
9月 IOC 2020年東京五輪 開催決定
12月 特定秘密保護法 成立

2014

みみはらおよび堺のうごき

5月 認知症対応型デイサービス　ゆったりケアおおとり
高石ブロック「友の家きらら」開設、大浜支部「ともの家はまかぜ」開設
OG・OBのつどい開催
健康友の会みみはら機関紙「とも」全頁カラー化
10月 友の会結成30周年記念 鳥越俊太郎講演会
11月 東西支部から向ヶ丘支部 結成

医療・福祉・民医連をめぐるうごき

2月 障害者権利条約批准
6月 医療介護総合確保推進法、成立（「病床機能報告制度」「地域医療構想」等含む）
10月 新専門医制度プロジェクト発足

社会の出来事

1月 国家安全保障局 発足
名護市長選挙 同市辺野古への米軍基地移設反対派市長候補再選
4月 消費税増税8%へ
7月 集団的自衛権行使の閣議決定
10月 沖縄県知事選挙 普天間基地返還について国外か県外を主張した知事候補が当選

2015

みみはらおよび堺のうごき

2月 同仁会ロゴマーク決定
協和薬局 移転
東西支部「友の家大仙ごりょう」開設
3月 鳳支部「鳳ともの家ちぐさ」開設
4月 新病院オープン　「広報誌みみはら」発刊
品質管理部 開設
ワンコイン助っ人隊スタート
5月 旧病院さよならセレモニー
6月 高石診療所　デイサービスからデイケアへ移行
320列CT 導入稼働
栂南支部 結成
向ヶ丘支部「友の家ほっこり」開設
7月 市立堺病院が新築移転、堺市立総合医療センターと改称
8月 循環器、腎・透析、消化器センター 開設
9月 歯科口腔外科、救急科 開設

同仁会ロゴマーク決定

医療・福祉・民医連をめぐるうごき

4月 生活困窮者自立支援法施行
予防給付サービス（訪問介護、通所介護）の介護予防・日常生活支援総合事業への移行開始
7月「9条医療者の会」結成
10月 日本HPHネットワーク 結成
特定行為に係る看護師の研修制度創設

メッセージ

私たちが、究極的に守りたいものは、天から与えられためいめいの命です。どんな外力をも排して、守り貫かなければなりません。

人間の一番残虐な行為は、自らを守るために他を殺すことです。人命を守ることは人間の本性でなくてはなりません。アルベルト・シュバイツァーは次のように述べています。「人間に対する真実の愛（いのちへの畏敬）とは、ともに経験し、ともに苦しみ、そして助けること」つまり相手のことを自分のように考えること。「恕す」ということです。

シュバイツァーは人生の最後にノーベル平和賞を受賞していますが、我々も彼の発言に従って平和を守りたいと思います。

W・オスラーが言う如く、人のいのちの重要性は、医師が一番よく知っています。医師こそ平和の最前線に立って、行動すべきと私は考えています。

2015年7月6日
聖路加国際病院　名誉院長　日野原重明

聖路加国際病院名誉院長　日野原 重明
「9条医療者の会」へのメッセージ

社会の出来事

5月「大阪都構想」住民投票で反対多数で否決
6月 選挙権18歳以上へ（公職選挙法改正）
9月 国連本部、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」（SDGs）採択
安全保障関連法成立

みみはらおよび堺のうごき

医療・福祉・民医連をめぐるうごき

社会の出来事

2016

みみはらおよび堺のうごき

1月 機能強化型訪問看護ステーションを取得
2月 協和薬局移転 開局
3月 ともうず泉北デイ　老健みみはら内へ移転
浜寺支部「とものの家風車」開設
4月 高砂クリニックB棟 開設（老松ケアプランセンターは高砂ケアプランセンターへ変更移転）
旧老松診療所外来部門は高砂クリニック内へ、透析部門は総合病院内へ移転
5月 総合病院グランドオープン
6月 フルオープンまつり
大仙西支部「ゆんたく」（センター）開設
もず支部結成「とものの家なごみ」開設
7月 友の会 世帯会員から個人会員制へ
11月 総合病院 QMS活動スタート

同仁会本部・耳原歯科診療所
新築移転

医療・福祉・民医連をめぐるうごき

4月 健康サポート薬局、制度化
障害者差別解消法施行
熊本地震への医療救援活動を行う（8月末までに1,042人支援）

社会の出来事

1月 共通番号制度（マイナンバー）運用開始
4月 熊本県で直下型地震
5月 バラク・オバマ 現職アメリカ合衆国大統領として史上初めて広島市訪問
6月 英国、EUからの離脱（ブレグジット）決定
7月 相模原障害者施設殺傷事件

2017

みみはらおよび堺のうごき

2月 呼吸器外科 新設
3月 大阪府がん診療拠点病院 許認可
4月 堺、北野田、阪南、羽曳野の4医療生協が合併
（大阪みなみ医療福祉生活協同組合 発足）
CWHC（チルドレン＆ウィメン・ヘルスケアセンター）新設
5月 同仁会本部、耳原歯科診療所新築移転
ひまわりの家・ひまわりの里蔵前開設
7月 地域交流ゾーン1周年記念交流会
サテライトみなと・ともうず老松・介護保険事業部 旭ヶ丘移転
介護保険事業部は介護事業部となる
8月 「絶対に断ってはいけない当直24時」医学生体験企画
大浜支部から大浜南支部（現湊西）結成「とものの家」開設

ひまわりの家・里 蔵前

総合病院オリジナルCD作成
（作曲：小松正史）

医療・福祉・民医連をめぐるうごき

4月 社会福祉法改正

民医連新卒医師オリエンテーション

社会の出来事

1月 ドナルド・トランプ氏 第45代米国大統領に就任
2月 プレミアムフライデー初実施
森友学園・加計学園・自衛隊日報隠蔽問題発覚
6月 組織的犯罪処罰法（共謀罪法）成立
7月 国連総会で核兵器禁止条約 採択
女性差別、セクハラや性的暴行に対する抗議運動「#MeToo」ムーブメント

地域包括ケアの実践とまちづくりへ

2018

みみはらおよび堺のうごき

4月 泉州保険医薬研究所および大阪メディカルラボラトリーが、一般社団法人泉州メディカとなる
5月 みみはらケアプランセンター開設
6月 鳳支部 子ども食堂 開設
8月 総合病院 レジリエンス認証取得　耳原鍼灸院移転リニューアル
10月 泉州看護専門学校 新校舎竣工・移転
11月 みみはらグループ運営協議会 結成　きたのだ薬局 開設

泉州看護専門学校新築移転

医療・福祉・民医連をめぐるうごき

1月 旧優生保護法による強制不妊手術による被害に対し、国賠訴訟（宮城県）
4月 新専門医制度スタート
改正労働基準法（法に基づく新たな時間外労働規制を24年4月開始）
5月 韓国社会的医療機関連合会設立総会
10月 生活保護受給患者への後発医薬品使用原則化

社会の出来事

6月 東海道新幹線車内 無差別殺傷事件
大阪府北部地震（M6.1）
7月 西日本を中心に記録的な集中豪雨

2019

みみはらおよび堺のうごき

1月 周術期センター 新設
6月 耳原高石診療所 無料低額診療事業 開始
おでかけ助っ人隊（福祉有償運送事業）スタート
7月 新勤務体系（完全4週8休制）へ移行
百舌鳥・古市古墳群、世界遺産登録決定
8月 まちづくり学習会「私たちにできることは」開催
10月 堺市民芸術文化ホール（フェニーチェ堺）開館
11月 安井支部 結成

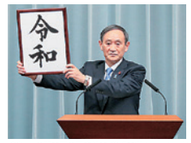
世界遺産登録
大仙古墳（仁徳天皇陵）
（提供：堺市）

医療・福祉・民医連をめぐるうごき

3月 医師の働き方改革に関する検討会報告書
4月 介護認定者の医療保険における期限越えリハビリ、原則禁止
6月 医学部不正入試問題について文科省、調査結果公表
8月 医学部入試における女子学生差別が明らかに

社会の出来事

4月 働き方改革法、順次施行
5月 元号が平成から令和へ
6月 「認知症施策推進大綱」発表
7月 京都アニメーション放火殺人事件
10月 消費税10%引き上げ
12月 「全世代型社会保障検討会議」中間報告
日米貿易協定



（CC by 内閣官房内閣広報室・首相官邸ホームページ）

2020

みみはらおよび堺のうごき

2月 COVID-19対応「帰国者・接触者外来」設置
4月 高砂クリニック 一般外来 開設
理事長交代、看護部長交代　健康サポートチーム 開始
耳原鳳クリニック産婦人科診察 開始
5月 「とも」紙面縮小　支部のない地域への郵送休止
7月 ふくいずみ支部「オリーブ」開設
9月 自治会役員対象に「無料低額診療事業 紙芝居学習会」同仁会・大阪みなみ医療福祉生活協同組合 共同開催
12月 みみはら在宅クリニック開設決定
2021年3月 新型コロナウイルスワクチン接種業務 開始

医療・福祉・民医連をめぐるうごき

4月 新型コロナウイルス、世界の感染者300万人超
5月 「社会的弱者の診療と支援」京都民医連医師ら翻訳出版
7月 特養「あずみの里」業務上過失致死事件、
東京高裁看護職員に逆転無罪判決
9月 公立・公的病院の再編統合に向けた議論促進のため
全国424病院名を公表（厚労省）
12月 英国でコロナ変異株、発見

社会の出来事

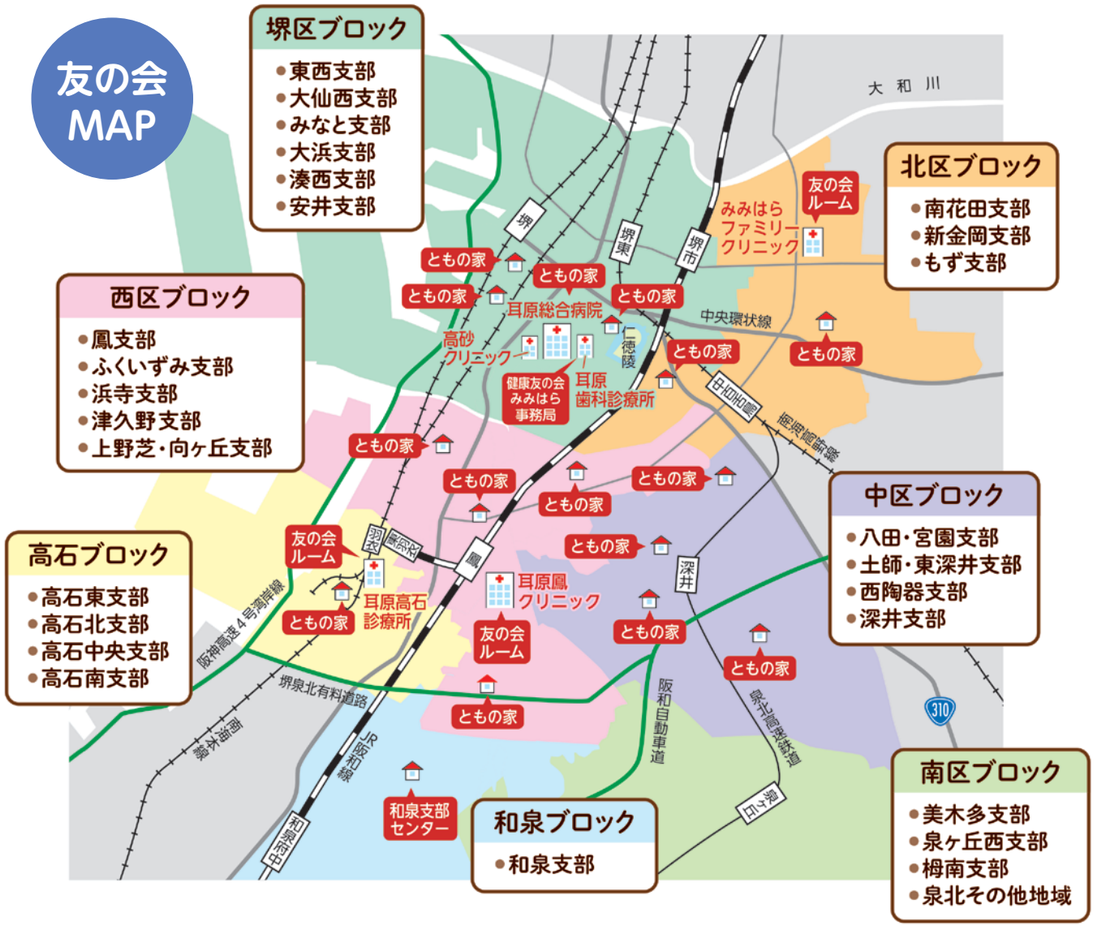
2月 新型コロナウイルス、世界的なパンデミック
3月 東京五輪1年延期決定
4月 政府「アベノマスク」全国配布
1回目の緊急事態宣言発令
5月 黒人暴行死、デモ全米に拡大
6月 中国=香港国家安全法案を可決
9月 菅内閣発足
11月 大阪都構想、住民投票反対多数で大阪市は存続
米国大統領選、バイデン氏勝利　欧州などで再ロックダウン
12月 小惑星探査機「はやぶさ2」帰還
全世代型社会保障検討会議最終報告案、閣議決定

2021

みみはらグループ事業所一覧

事業所名	郵便番号	住所	電話番号
社会医療法人同仁会			
本部	590-0821	堺市堺区大仙西町6-184-2	072-244-7260
耳原総合病院	590-8505	堺市堺区協和町4-465	072-241-0501
耳原鳳クリニック	593-8325	堺市西区鳳南町5-595	072-275-0801
みみはら高砂クリニック	590-0820	堺市堺区高砂町4-109-2	072-241-4990
みみはらファミリークリニック	591-8004	堺市北区蔵前町3-5-47	072-252-1507
耳原高石診療所	592-0011	高石市加茂1-1-5	072-265-8110
みみはら在宅クリニック	590-0824	堺市堺区老松町3-73-2	072-241-0691
耳原歯科診療所	590-0821	堺市堺区大仙西町6-184-2	072-245-2912
耳原訪問看護ステーション	593-8325	堺市西区鳳南町5-595	072-273-1774
耳原訪問看護ステーションサテライトみなと	590-0808	堺市堺区旭ヶ丘中町2-1-7	072-245-6215
耳原訪問看護ステーションサテライトふれあい	591-8004	堺市北区蔵前町3-5-47	072-252-1566
介護老人保健施設みみはら	593-8325	堺市西区鳳南町5-594-1	072-272-8050
耳原ヘルパーステーションともうず老松	590-0808	堺市堺区旭ヶ丘中町2-1-7	072-245-2990
耳原ヘルパーステーションともうず鳳	593-8325	堺市西区鳳南町5-595	072-260-5060
認知症対応型通所介護ゆったりケアおおとり	593-8325	堺市西区鳳南町5-594-1	072-260-3238
鳳在宅介護支援センター	593-8325	堺市西区鳳南町5-594-1	072-272-7288
耳原ケアプランセンター高砂	590-0820	堺市堺区高砂町4-109-2	072-245-0390
みみはらケアプランセンター	590-8505	堺市堺区協和町4-465	072-241-0661
みみはらケアプランセンターふれあい	591-8004	堺市北区蔵前町3-5-47	072-257-4777
高石診療所ケアプランセンター	592-0011	高石市加茂1-1-5	072-265-2205
耳原鍼灸院	590-0808	堺市堺区旭ヶ丘中町2-1-7	072-241-7010
西第3地域包括支援センター	593-8322	堺市西区津久野町1-5-8-103	072-260-5022
泉州看護専門学校	590-0824	堺市堺区老松町2-58-1	072-280-2377
一般社団法人泉州メディカ			
本部	590-0820	堺市堺区高砂町4-109-3	072-244-3116
協和薬局	590-0822	堺市堺区協和町4-465-2	072-244-7131
タンポポ薬局	593-8325	堺市西区鳳南町5-598-2	072-271-6391
たかさご薬局	590-0820	堺市堺区高砂町4-109-3 1F	072-244-3007
ヒマワリ薬局	591-8004	堺市北区蔵前町3-5-46	072-240-5885
オリーブ薬局	592-0011	高石市加茂1-2-3	072-268-6111
あゆみ薬局	590-0936	堺市堺区宿屋町東1-2-23	072-228-7630
みのり薬局	596-0004	岸和田市荒木町2-2-22 平成ビル101	072-448-7120
さくら薬局	589-0022	大阪狭山市西山台3-2-8	072-360-0255
きたのだ薬局	599-8124	堺市東区南野田131-4	072-234-5656
介護ショップKPG	593-8325	堺市西区鳳南町5-600-1	072-260-3077
大阪メディカルラボラトリー	590-0820	堺市堺区高砂町4-109-3 3･4F	072-245-3638

事業所名	郵便番号	住所	電話番号
社会福祉法人ひまわり会			
本部	590-0820	堺市堺区高砂町4-109-3	072-247-7520
ひまわり保育園	593-8325	堺市西区鳳南町5-605	072-273-6222
看護小規模多機能型居宅介護 ひまわりの里鳳	593-8325	堺市西区鳳南町4-476-2	072-272-0262
サービス付き高齢者住宅 ひまわりの家鳳	593-8325	堺市西区鳳南町4-476-2	072-272-0176
看護小規模多機能型住宅介護 ひまわりの里蔵前	591-8004	堺市北区蔵前町2-16-12	072-275-6037
サービス付き高齢者住宅 ひまわりの家蔵前	591-8004	堺市北区蔵前町2-16-12	072-275-6910
ヘルパーステーション ひまわりの家鳳	593-8325	堺市西区鳳南町4-476-2	072-272-0176
ヘルパーステーション ひまわりの家蔵前	591-8004	堺市北区蔵前町2-16-12	072-275-6910
訪問看護ステーション ひまわりの里鳳	593-8325	堺市西区鳳南町4-476-2	072-272-0262
訪問看護ステーション ひまわりの里蔵前	591-8004	堺市北区蔵前町2-16-12	072-275-6037
特定非営利活動法人 結いの会ともうず	590-0808	堺市堺区旭ヶ丘中町2-1-7	072-280-5887
株式会社まちづくりMGP	590-0808	堺市堺区旭ヶ丘中町2-1-7	072-280-0340
健康友の会みみはら			
事務局	590-0821	堺市堺区大仙西町6-184-2	072-244-8061



ACP
Advance Care Planningの略。将来の変化に備え医療及びケアについて、患者さんを主体に家族や近しい人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合いを行い患者さんの意思決定を支援するプロセスのこと。

BCP
Business Continuity Planningの略。災害などの緊急事態における企業や団体の事業継続計画のこと。

Beyond2030
「2030年に向かって」「2030年の彼方に」という意味、ここでは、2030年には、こうありたいというイメージ。

COVID-19
2019年に発生した新型コロナウイルス感染症の国際正式名称。SARSコロナウイルス2がヒトに感染することによって発症する気道感染症。

DPC
Diagnosis Procedure Combinationの略 Diagnosis(診断)とProcedure(治療・処置)のCombination(組み合わせ)の略称。従来の診療行為ごとの点数をもとに計算する「出来高払い方式」とは異なり、入院期間中に治療した病気の中で最も医療資源を投入した一疾患のみに厚生労働省が定めた1日当たりの定額の点数からなる包括評価部分(入院基本料、検査、投薬、注射、画像診断など)と、従来どおりの出来高評価部分(手術、胃カメラ、リハビリなど)を組み合わせて計算する方式。

ECMO(エクモ)
「人工肺とポンプを用いた体外循環回路による治療」のこと。人工呼吸器や昇圧薬など、通常の治療では救命困難な重症呼吸不全や循環不全のうち、可逆性の病態に適応。

Go To トラベル
観光庁(国土交通省)が提唱した事業。新型コロナウイルス感染症に伴う経済的なダメージを考慮し、地域経済の活性化を目的とした、需要喚起キャンペーン。

ホスピタルアート
医療・福祉施設やその地域で、患者・職員・住民などが絵画や音楽、ダンスなどの創作・展示・発表などを行う活動。またその芸術。精神的ケア等を図り、制作過程においてゆたかな関係性と表現力を培うことも期待されている。

HPH
Health Promoting Hospitals & Health Services(健康増進活動拠点病院)の略。WHOの宣言に基づき、1991年欧州で開始。国内では千鳥橋病院(福岡・佐賀民医連)が全国で初めて認定された。

HCU
High Care Unitの頭文字をとったもの。「高度治療室」や「準集中治療管理室」と訳され、ICU(集中治療室)と一般病棟の中間に位置。

ICAN(アイキャン)
International Campaign to Abolish Nuclear Weaponsの略、核兵器廃絶国際キャンペーン。各国政府に対して、核兵器禁止条約の交渉開始・支持のロビー活動を行う目的で設立された国際的な運動(キャンペーン)の連合体。2017年ノーベル平和賞受賞。

ICT
Infection Control Teamの略。院内の感染対策全般にわたり、感染症の治療から耐性菌対策まで現場で活動しているチーム。

IPPNW
International Physicians for the Prevention of Nuclear Warの略。核戦争防止国際医師会議。1980年設立、核戦争を医療関係者の立場から防止する活動を行うための国際組織。1985年ノーベル平和賞受賞。

ロックダウン lockdown
封鎖の意。一定期間対象とする地域で人の移動を制限したり、企業活動を禁じたりする措置。明確な定義はなく国によって措置の内容は異なるが、都市を事実上封鎖することにつながるため「都市封鎖」と訳される。2019年に発生した新型コロナウイルスにおいては、感染拡大を食い止めることを目的に中国をはじめとする多くの国でロックダウンの措置が取られた。

NPT
Treaty on the Non-Proliferation of Nuclear Weaponsの略。核兵器の不拡散に関する条約。米・中・英・仏・露5カ国以外に核兵器保有国の増加を防ぐこと(核兵器の拡散を防ぐこと)を主な目的とした条約。

NPO
Not-for-Profit Organizationの略。広義では非営利団体のこと。狭義では、非営利での社会貢献活動や慈善活動を行う市民団体のこと。内閣府所管、所轄庁にて認証。

ミンティ
感染対策のための集団隔離(コホーティング)、ポータブル前室、環境汚染封じ込めの三つの用途に対応する空気感染隔離ユニット。

パンデミック Pandemic
地理的に広い範囲の世界的流行および、非常に多くの数の感染者や患者を発生する流行病。汎流行。

PCR
Polymerase Chain Reactionの略、ポリメラーゼ連鎖反応。ウイルス等の遺伝子(DNA:デオキシリボ核酸)を増幅させて検出する技術。

PPE
Personal Protective Equipmentの略。血液または湿性生体物質に触れる可能性がある場合の個人用防護具。

レジリエンス Resilience
「回復力」「復元力」あるいは「弾力性」とも訳される。災害復興や危機管理対応などの場面で使用されることが多い。

サイネージ Digital Signage
「電子看板」。表示と通信にデジタル技術を活用し平面ディスプレイやプロジェクターなどによって映像や文字を表示する情報媒体。

SDGs
Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略。2015年9月に国連サミットで採択。国連加盟193カ国が2030年までに達成するために掲げた目標。

SDH
Social Determinants of Healthの略。健康に影響を及ぼす社会的要因のこと。社会のさまざまな状況・要素が「健康」に影響し健康格差の原因となっている。WHOはそれを「SDH」と呼び、医療者に取り組みを求めている。

SPD
Supply Processing and Distributionの略。院内物流システムのことで医療消耗品の管理を最適化する。病院内の物品を一元管理することで、業務の効率化や業務負担の軽減につながる。

民医連綱領

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です。

戦後の荒廃のなか、無産者診療所の歴史を受けつぎ、医療従事者と労働者・農民・地域の人びとが、各地で「民主診療所」をつくりました。そして1953年、「働くひとびとの医療機関」として全日本民主医療機関連合会を結成しました。

私たちは、いのちの平等を掲げ、地域住民の切実な要求に応える医療を実践し、介護と福祉の事業へ活動を広げてきました。患者の立場に立った親切でよい医療をすすめ、生活と労働から疾病をとらえ、いのちや健康にかかわるその時代の社会問題にとりくんできました。また、共同組織と共に生活向上と社会保障の拡充、平和と民主主義の実現のために運動してきました。

私たちは、営利を目的とせず、事業所の集団所有を確立し、民主的運営をめざして活動しています。

日本国憲法は、国民主権と平和的生存権を謳い、基本的人権を人類の多年にわたる自由獲得の成果であり永久に侵すことのできない普遍的権利と定めています。

私たちは、この憲法の理念を高く掲げ、これまでの歩みをさらに発展させ、すべての人が等しく尊重される社会をめざします。

一、人権を尊重し、共同のいとなみとしての医療と介護・福祉をすすめ、人びとのいのちと健康を守ります
一、地域・職域の人びとと共に、医療機関、福祉施設などとの連携を強め、安心して住み続けられるまちづくりをすすめます
一、学問の自由を尊重し、学術・文化の発展に努め、地域と共に歩む人間性豊かな専門職を育成します
一、科学的で民主的な管理と運営を貫き、事業所を守り、医療、介護・福祉従事者の生活の向上と権利の確立をめざします
一、国と企業の責任を明確にし、権利としての社会保障の実現のためにたたかいます
一、人類の生命と健康を破壊する一切の戦争政策に反対し、核兵器をなくし、平和と環境を守ります

私たちは、この目標を実現するために、多くの個人・団体と手を結び、国際交流をはかり、共同組織と力をあわせて活動します。

2010年２月27日
全日本民主医療機関連合会　第39回定期総会

70年史の編纂にあたって

全世界的に新型コロナウイルスが流行し、2億人を超える感染者や400万人を超える死者（2021.8）を出し、日常生活や経済にも多くの影響がありました。70周年記念誌も例外ではなく、1年遅れの発刊となってしまいました。

耳原実費診療所創立以来、セラチア院内感染、前倒産など幾多の困難を乗り越えて、現在のみみはらグループが形作られてまいりました。振り返る10年の間には、みみはらグループとして、同仁会は2015年には急性期の耳原総合病院が新しくなり、2021年には独立型のみみはら在宅クリニックがオープンしました。また、ひまわり会はサービス付き高齢者住宅、看護小規模多機能施設など地域ニーズに応える取り組みをしてきました。

みみはらグループの歴史は、地域住民や患者、利用者とともに「無差別・平等」を実践してきた歴史でもあります。少子高齢化が進む中で、「住み慣れたところで最後まで」過ごせるように在宅医療にも力を注いでまいりました。大きな変化の時代に歴史をみつめ、将来に向けての展望を持って職員ならびに健康友の会みみはらの皆さんと共に未来を築いていきたいと思います。

70周年記念誌制作プロジェクト

Project Leader	柴田 康宏
Editor / Writer	森岡 徳子（OG）
	虎頭 加奈
Art Director	室野 愛子
Illustrator	JJhhen
Video Produce	衛藤 桃子
Editor / Writer	滝沢 洋子（株）アステム
Design / Bind	岩本 悟（株）関西共同印刷所
Picture Provided	今村 和雄
	斉藤 和則
	中田 鉄

耳原実費診療所創立70周年記念誌
MIMIHARA 70th「住んでよかった」と思えるまちづくりを

2022年1月15日 発行

編集　70周年記念誌制作プロジェクト
〒590-0821　堺市堺区大仙西町6-184-2
Tel　072-244-7260

編集協力・印刷　㈱関西共同印刷所